The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ランバ語の記述的研究 ーテンス・アスペクト体系と叙述類型との関わりを中心にー
Author(s)	牧野, 友香
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76608
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

博士論文

題目：
ランバ語の記述的研究
- テンス・アスペクト体系と叙述類型との関わりを中心に -

提出年月：2019 年 12 月

氏名：牧野友香

日本語要旨

本論文では，第 1 章でランバ語の概要について述べたのち，現地調査で得たデータを用いて第 2 章から第 6 章においてランバ語の文法について全体的な記述を行い，第 7 章ではランバ語のテンス・アスペクト (以下 TA) 体系についての再検討を行った。

第 1 章では，ランバ語の先行研究や社会言語学的な背景について述べたのち，文法的な概略を述べた。ランバ語が話されている地域では，地域共通語としてベンバ語が話されており，このベンバ語は先行研究でも指摘されているとおりランバ語との類似性が高い。また, ランバ語は膠着性の高い言語であり, それぞれの語が文において果たしている機能は, その語の構成要素によって見極めることが可能である。

第 2 章ではまず，ランバ語の音韻について述べた。ランバ語の母音は i，e，a，o，u の 5 母音体系で，それぞれに長母音が存在する。子音は/p，t，k，g，β，f，s，l，m，n，w，j/ の 12 個である。音節の構造は (N)(C)(G)V である。子音あるいは母音が連続することによって起きる現象もこの章で述べた。

第 3 章では，名詞，名詞修飾語について述べた。名詞や名詞類は，接頭辞と語幹からなる。ほかのバントゥ諸語と同じようにランバ語にも名詞クラスが存在し，その数は 18 である。名詞修飾語のとる接頭辞も，被修飾名詞の属する名詞クラスに応じて形態が異なる。名詞修飾語の接頭辞のとり方には 2 パターンあり，形容詞とそれ以外の名詞修飾語とで異なっている。名詞，名詞修飾語は文修飾要素として機能することもあるため，文修飾要素についてもこの章で述べた。

第 4 章では，動詞について述べた。動詞は，動詞語根に接頭辞と接尾辞が膠着して構成される。動詞の膠着性の高さは，名詞クラスと並んでバントゥ諸語の最大の特徴のうちのひとつである。動詞語根の前に入る要素は，順に前主語接辞，主語接辞，TA 接辞，目的語接辞である。これらのうち主語接辞と TA 接辞は直説法において必須要素である。動詞語根の後ろに入る要素は，順に派生接辞，語尾であり，派生接辞は任意である。主語接辞，目的語接辞について述べたのち，派生接辞，接語について述べた。TA 接辞と語尾は活用に関わる要素であり，それぞれの組み合わせによって表される TA 形式についてもここで羅列した。また命令法や接続法など，そのほかの形式についてもここで述べた。

第 5 章で扱ったのは，動詞を用いない文である。動詞を用いない場合，名詞あるいは名詞修飾語の語形変化か，あるいはコピュラ *ni* によって述部であることが表される。主語が

人称である場合や，テンスが現在以外である場合はコピュラ動詞 *li* あるいは *βa* が用いられる。

第 6 章では，語順と情報構造について述べた。基本的な語順は主語，動詞，目的語である。しかしながら焦点が当たる場合は異なる。目的語が焦点である場合は基本語順でも問題ないが，主語に焦点が当たる場合は基本語順でなく，分裂文を用いなければならない。これには，主語の持つ主題性の高さが関わっていると考えられる。

第 7 章では，ランバ語の TA について，Doke (1922，1938) の問題点をあぶり出しながら再検討を行った。Doke (1938) は用語の使い方が独特で，TA 体系の理解を妨ぎかねない状態だった。そこで本論文では Comrie (1977) や Dahl (1985), Bybee et al. (1994), Nurse (2007, 2008) による定義にもとづき TA 解釈の再検討を行った。また，すでに使われなくなった形式や，地域共通語であるベンバ語から借用したと思われる新たな形式が存在していることがわかり，これらの事実も反映させながらランバ語の新たな TA 体系の提案を行った。

ランバ語のテンスは，過去，現在，未来の 3 つであり，そのうち過去と未来は，それぞれ発話当日と昨日以前, 発話当日と翌日以降に時間区分が 2 分割される。アスペクトには，完結相 (Perfective)，非完結相 (Imperfective)，永続相 (Persistive)，完了相(Anterior) が見られる。筆者が新たに TA 体系に追加した ø-形式は，完了相の形式のひとつである形式⑯と機能が似ていることや，形式⑯と補完性があることから，便宜的に「完了相」と同じ扱いをした。しかしながら，すでに示しているように ø-形式は完了相の持つアスペクト情報を持つことはできない。むしろ，ø-形式は時間性から独立した出来事を表している。同じ用法は形式⑯にもある。そこで，ある出来事が特定の時空間でなければ成り立たないものなのか，あるいはその逆で時間の流れに左右されることなく成立するものなのかという叙述類型論 (cf. 益岡 (2008) など) の観点を導入して論を展開したが，今後さらなる議論が必要である。

本論文では TA を中心に Doke (1922，1938) による問題点をあぶり出し，再解釈を行ったが，第 2 章から第 6 章までにおいても Doke (1922，1938) において問題のある記述が見られることがわかった。今後は，ランバ語の文法全体について Doke (1922，1938) を再解釈していく必要がある。

英語要旨

In this thesis, I provided a general description for grammar of Lamba form chapter 2 to chapter 5, by using the data that I obtained in the field survey, after making a brief mention of sociolinguistic situation surrounding Lamba. In chapter 7, I reviewed the Tense Aspect system in Lamba.

In Chapter 2 , I described the phonetics of the Lamba language. Lamba has five vowels: i , e , a , o , u and each vowel can be long vowel. There are 12 Consonants:/p, t, k, g, β, f, s, l, m, n, w, j/. The syllable structure is (N)(C)(G)V. This chapter also describes the phenomena that occur when consonants or vowels make a cluster.

In Chapter 3, I described nouns and noun modifiers. A noun consists of an augment vowel, a noun prefix, and a stem. Similar to other Bantu languages, there is a noun class in Lamba, and the prefix of the noun modifier take a different prefix, depending on which class the head noun belongs to. There are two patterns for prefixing noun modifiers. Since nouns and noun modifiers may function as sentence modifiers, sentence modifiers are also described in this chapter.

In Chapter 4, I described verbs. Verbs are consisted by affixing prefixes and suffixes to the verb root. Along with the noun class system, it is one of the greatest features of Bantu languages. The elements that come before the verb root are, in order, the pre-subject prefix, the subject prefix, the TA prefix, and the object prefix. Of these, the subject prefix and the TA prefix are essential elements in indicative mood. The elements that come after the verb root are in order the derivational suffix and the ending suffix and the derivational suffix is optional. After describing the subject prefix , the object prefix and enclitics, I described the derivational suffix. The TA prefixes and endings are elements related to conjugation, and the TA form represented by each combination is listed here. Other forms such as the imperative and subjunctive are also described here.

Chapter 5 deals with verbless sentences. Lamba has following strategies to make a verbless sentences. First, by changing the noun or noun modifier or by using copula *ni*. And when the subject is a person, or when tense marker does not show Present, copula verb *li* or *βa* is used.

In Chapter 6, I described word order and information structure. The basic word order is subject, verb, and object. However, when made a focus, word order may change. If the object is in focus, there is no problem in the basic word order. But if the subject is in focus, the cleft sentence must be used instead of the basic word order. The high topicality of subject might be concern with it.

In Chapter 7, I reexamined the TA system in Lamba by revealing the problems of Doke (1922, 1938). Doke (1938) had a unique terminology and could interfere with understanding of the TA system in Lamba. In this thesis, I reexaminates TA interpretation based on the definitions by Comrie (1977), Dahl (1985), Bybee et al. (1994), Nurse (2007 , 2008). In addition, I showed that there are some forms that are no longer exist, and other forms that are observed newly, which seem to have borrowed from Bemba. I proposed a new TA system by reflecting these facts.

There are three tenses in Lamba: Past, Present, and Future. Of these, the Past and Future are divided into two time divisions on the utterance day and before yesterday, and on the utterance day and after the next day, respectively. The aspects that Lamba has are Perfective, Imperfective, Persistive, Anterior. I added the ø- form newly to the TA system, which has the same function as the form 16, which is one of the Anterior forms. And the ø- form shows complementary to the form 16. However, as already indicated, the ø- form cannot have the aspect information of Anterior. Rather, the ø- form represents an event independent from time. The same usage is also observed in the form 16. Therefore, I introduced a perspective of typology of predication (cf. Masuoka (2008), etc.), that is, whether an event does not hold its specific time, or vice versa, does not depend on the flow of time. Further discussion is needed in the future.

In this thesis, I highlighted the problems in TA observed in Doke (1922, 1938), and reinterpreted. However, through Chapters 2 to 6, there are problems in Doke (1922 , 1938) in other phenomena. In the future, it will be necessary to reinterpret Doke (1922 , 1938) for the entire grammar of Lamba.

目次

謝辞……1

第 1 章 はじめに……...……2

1.1. ランバ語の社会言語学的背景……3

1.2. ランバ語の文法的概要……4

第 2 章 ランバ語の音韻……...……...……5

2.1. 母音……5

2.2. 子音……6

2.2.1 閉鎖音……6

2.2.1.1.無声両唇閉鎖音/p/……...7

2.2.1.2. 無声歯茎閉鎖音/t/….……8

2.2.1.3. 無声硬口蓋閉鎖音/k/……....10

2.2.1.4. 有声軟口蓋閉鎖音/g/……10

2.2.2. 摩擦音……...…10

2.2.2.2. 有声両唇摩擦音/f/……10

2.2.2.3. 無声唇歯摩擦音/β/……11

2.2.2.4. 無声歯茎摩擦音/s/……12

2.2.3. 歯茎側面接近音/l/..……12

2.2.4. 鼻音……..13

2.2.4.1. 両唇鼻音/m/……..13

2.2.4.2. 歯茎鼻音/n/……...14

2.2.4.3. 鼻音の解釈に関する Doke (1927, 1938) との違い……15

2.2.4.4. 同音器官の/N/……..16

2.2.5. 接近音……..16

2.2.5.1. 両唇接近音/w/……..17

2.2.5.2. 硬口蓋接近音/j/……17

2.2.6. 借用語にみられる音価……..17

2.3. 音節構造…….……..18

2.3.1. V……18
2.3.2. CV……..18
2.3.3. CGV……...18
2.3.3.1. /CwV/……18
2.3.3.2. /CjV/……..20
2.3.4. NCV……..20
2.3.4.1. 両唇の口腔音が後続する場合……..21
2.3.4.2. 唇歯の口腔音が後続する場合……..21
2.3.4.3. 歯茎の口腔音が後続する場合……..21
2.3.4.4. 硬口蓋の口腔音が後続する場合……..21
2.3.4.5. 軟口蓋の口腔音が後続する場合……..21
2.3.5. NCGV……...21
2.4. 音韻規則……..23
2.4.1. 母音に関する規則……23
2.4.1.1. 渡り音……..23
2.4.1.2. 母音結合……..23
2.4.1.2.1. 同じ母音同士……...23
2.4.1.2.2. CGV で現れる母音の組み合わせ……..29
2.4.2. 鼻音と子音が結合する場合……31
2.4.3. 鼻音に関する規則……33
2.4.3.1. マインホフの法則……33
2.4.3.2. 鼻音同士の縮約……34
2.4.3.3. NCV と母音の長短……...35
2.5. 表記法……...36

第 3 章 名詞類……37
3.1. 名詞クラス……37
3.1.1. 1，2 クラス……38
3.1.2. 3，4 クラス……39
3.1.3. 5，6 クラス……40

3.1.4.　7，8 クラス……41
3.1.5.　9，10 クラス……43
3.1.6.　11 クラス……44
3.1.7.　12，13 クラス……44
3.1.8.　14 クラス……45
3.1.9.　15 クラス……45
3.1.10.　16，17，18 クラス……46
3.1.11.　そのほかの名詞……48
3.2. 名詞修飾語……49
3.2.1. 形容詞……49
3.2.2. 数量に関する修飾語……51
3.2.3. 数詞……51
3.2.4. 所有詞……53
3.2.5. 属辞……56
3.2.6. 指示詞……59
3.2.6.1. 近称①SM-no……60
3.2.6.2. 近称②Aug-SM……60
3.2.6.3. 中称 Aug-SM-o……61
3.2.6.4. 遠称 SM-*lya*……62
3.2.7. 名詞修飾語が複数並ぶとき……63
3.3. 文修飾要素……64

第 4 章 動詞……67
4.1. 主語接辞と目的語接辞……67
4.1.1. 主語接辞と目的語接辞の形式……67
4.1.2. 目的語接辞が複数挿入される場合……77
4.1.3. 動詞が呼応し得る主語が複数ある場合……78
4.1.4. 複数の目的語名詞がある場合の目的語接辞の現れ方……81
4.1.5. 再帰接辞 *lii*-……83
4.1.6. 敬称……83

4.1.7.　3 人称複数主語接辞 *βa*-によって表される非人称受身……..84
4.2. 動詞語根……87
4.3. 動詞派生接辞とそれに関わる形態統語現象……89
4.3.1. 適用形……..89
4.3.1.1. 適用形派生接辞-*il* の現れ方……89
4.3.1.2. 用法と現れ方……90
4.3.2. 使役形①……..95
4.3.2.1. 使役形派生接辞①-*i* の現れ方……95
4.3.2.2. 用法……97
4.3.3. 使役形②……98
4.3.4. 自発形……100
4.3.5. 相互形……101
4.3.6. 受身形……102
4.3.7. 反転形……105
4.4. 接語……107
4.5. テンス・アスペクト，極性，法に関わる接辞……108
4.5.1. 肯定のパラダイム……108
4.5.1.1. 主節における動詞のパラダイム……108
4.5.1.2. 従属節における動詞のパラダイム……115
4.5.2. 否定のパラダイム……117
4.5.3. そのほかの形式……124
4.5.3.1. 命令法……124
4.5.3.2. 接続法……125
4.5.3.3. モダリティを表す接辞 *nga*-……125
4.5.4. 統合的形式によって表されるテンス・アスペクト，極性，法……..126
4.5.4.1. コピュラ動詞 *li* が用いられる形式……126
4.5.4.2. 分詞 *teeti*，*teekuti* によって表される形式……129

第 5 章 動詞を用いない文……...……..……131
5.1. コピュラ文……131

5.1.1. コピュラ動詞 *li* または *βa* を用いる文……129
5.1.2. 語形変化あるいはコピュラ *ni* によって表される文……132
5.2. 所有表現……..134

第 6 章. 語順……..……135
6.1. 基本語順……..135
6.2. 疑問文の語順……..135
6.3. 情報構造と語順……....……...141

第 7 章 テンス・アスペクト体系の再検討……..……144
7.1. Doke (1922，1938) のテンス・アスペクト体系……144
7.2. ランバ語のテンス……..147
7.2.1. 未来……...147
7.2.2. 過去……...149
7.2.3. Doke (1922，1938) が「歴史的過去 (Historic Past)」としているもの
.……..152
7.2.4. 現在……...155
7.3. ランバ語のアスペクト……..156
7.3.1. 完結相 (Perfective)……..156
7.3.2. Doke (1922，1938) が「習慣相 (Habitual)」としているもの……...157
7.3.3. Doke (1922) が「完了相 (Perfect)」としているもの…….……....160
7.3.4. 非完結相 (Imperfective)……..161
7.3.2.1. 未来テンスにおける非完結相……..163
7.3.2.2. 過去テンスにおける非完結相……..167
7.3.2.3. 現在テンスにおける非完結相……..169
7.3.5.持続相 (Persistive)……172
7.4. 完了相 (Anterior)……178
7.4.1. 完了相を表す形式⑮と当日過去完結相を表す形式②，⑳……178
7.4.2. 完了相を表す 2 つの形式の違い……...…182
7.4.3. 完了相と叙述類型……....185

7.4.3.1. ø-形式と形式⑯との補完性……185
7.4.3.2. 完了相が表す属性叙述……...190
7.5. 再検討のまとめ……....192

第 8 章 まとめと今後の課題……..195

記号，略号一覧……...197
引用文献……...197

謝辞

本論文の執筆にあたり，たくさんの方々から支援をいただきました。指導教員であり学部時代からお世話になっている米田信子先生には，自分の至らなさから大変な心労とご迷惑をおかけしました。ここまで指導してくださったことに感謝申し上げます。副指導教員の小森淳子先生にも学部時代からお世話になっており，本論文執筆を励ましてくださいました。心より感謝申し上げます。

副指導教員の清水政明先生には，博士異前期課程に在籍していた頃から研究会で発表する機会をくださったりなど，大変お世話になりました。加藤昌彦先生が異動されてから副指導教員を引き受けてくださったことにも，この場を借りて改めてお礼申し上げます。

原真由子先生，大塚行誠先生には，今回快く審査を引き受けてくださり，論文内容について温かいご指導をいただきました。深く感謝いたします。

このほかにも，博士前期課程から博士後期課程 2 年に在学していた 4 年間，副指導教員としてご指導いただいた加藤昌彦先生，叙述類型論の観点から助言をくださった益岡隆志先生，学部時代からお世話になっている竹村景子先生，そのほかにもいつも研究会や学会で助言をくださる梶茂樹先生や品川大輔先生など，ここには書き切れないほどの先生方にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

調査協力者，滞在時にお世話になっているゲストハウスのスタッフ，そして調査協力者を引き合わせてくださったエセックス大学の Nancy C. Kula 先生とそのお母様にも，ここに感謝の意を表します。

最後に, 長きにわたって経済的にも精神的にも支えてくれた家族に感謝を申し上げます。家族の援助，理解なくしてはここまでたどりつけませんでした。

本研究の遂行にあたり，2016 年度科学研究費基盤研究 (C) 「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究」代表 : 小森淳子 (研究課題番号 : 16K02672), 2017 年度特別研究員研究奨励費「ベンバ語およびその周辺言語におけるテンス・アスペクト体系についての比較研究」 (研究課題番号 : JP17J00068) の助成を受けました。ありがとうございました。

2020 年 2 月

牧野友香

第 1 章 はじめに

ランバ語は，ニジェール・コンゴ語族に属するバントゥ諸語のひとつであり，ザンビア中部のセントラル州，コッパーベルト州で話されている。以下の分布図の 23 番がザンビアにおいてランバ語が話されている地域である。ザンビア中部のほか，コンゴ民主共和国南部のオウトカタンガ州でも話される。エスノローグによると，話者数は 198,000 人である (Eberhard et al. 2019)。

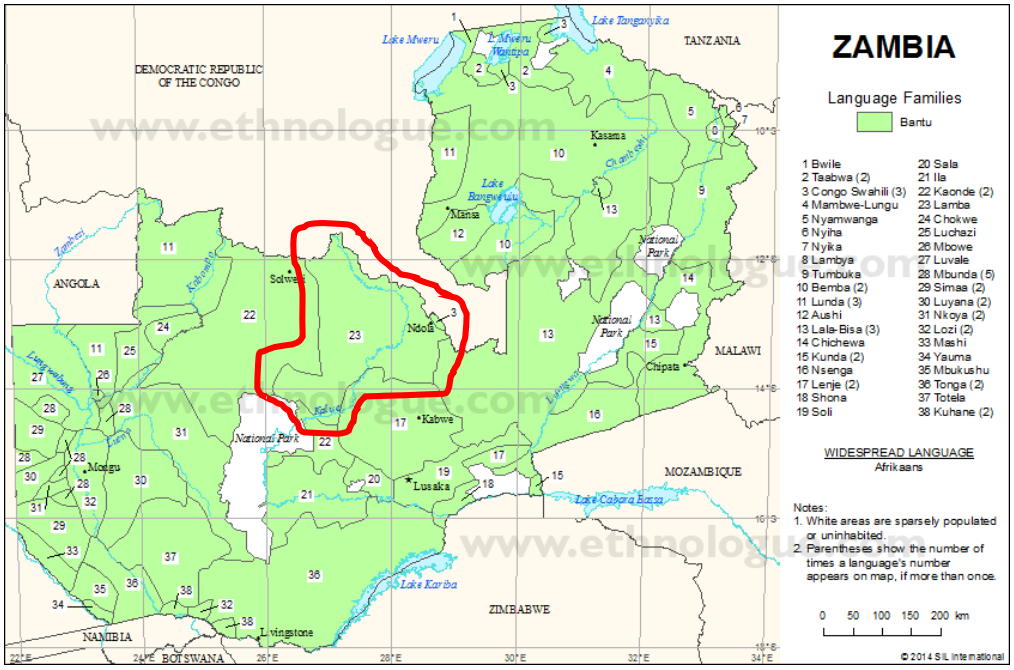

図1：ザンビアの言語分布図 (Eberhard et al. 2019)

ランバ語には，Clement Martyn Doke によって翻訳された聖書 (Doke 1959)がある。Doke は植民地時代の宣教師であり，言語学者でもある。ズールー語や南ソト語など，南部アフリカのバントゥ諸語の辞書や文法書などを数多く残している (Doke 1927a，Doke 1954, Doke & Mofokeng 1957 など)。Doke は，ランバ語については Doke (1922)，Doke (1938) の 2 つの文法書を残している。辞書については, Doke が編纂した 1957 ページからなる *Lamba-English Dictionary* が British Museum Press から出版されているが，現在は入手できない。現時点で手に入るのは 179 ページからなる語彙集 (Doke 1963) のみである。文法書や語彙集のほかには，音声の分析をした Doke (1927b) や，近年出てきた動詞の声調の研究に

Bickmore (1995)，湯川 (1995) がある。

本論文の目的は，ランバ語文法全体の記述と，テンス・アスペクト体系の再検討をすることにある。上述のとおりランバ語には Doke (1922、1938) による記述がすでにあり，これまで記述研究の対象とはならなかった。また，Doke (1922，1938) はすでに書かれてから 100 年近く経過しており，通時的な変化が見られる可能性が高い。また，この地域では同じくバントゥ諸語のひとつであるベンバ語が共通語として話されており (1.1 を参照)，ベンバ語と言語接触しているという環境を考えると，ベンバ語からの影響も見られるはずである。例えばベンバ語はテンス・アスペクト体系が特に複雑だと言われており (Guthrie 1967:57-58，Givón 1972:172)，ランバ語のテンス・アスペクト体系がベンバ語からの影響を受けている可能性が高い。よって，現地調査で得たデータにもとづいてランバ語の文法全体の記述，およびテンス・アスペクト体系についての再検討が必要である。

本論文の構成は, まず第 1 章から第 5 章でランバ語の文法について全体的な記述を行う。6 章では，テンス・アスペクトについて焦点を当てる。Doke (1922，1938) においてもテンス・アスペクトについての記述は見られるが，その解釈には多々問題点がある。そこで，テンス･アスペクトについての通言語学的な研究である Comrie (1977) や Dahl (1985), Bybee et al. (1994)，バントゥ諸語のテンス・アスペクトについての研究である Nurse (2008) の定義に基づき，現地調査によって得たデータを加えながらランバ語のテンス・アスペクトについて再検討を行う。

本稿で用いているデータは，2016 年 12 月末から 2017 年 2 月末までと，2017 年 8 月中旬から 2017 年 10 月初旬まで，2018 年 7 月中旬から 2018 年 8 月の中旬までの計 3 回，7 か月間にわたって行った現地調査によって得たものである。調査地はザンビア中部のコッパーベルト州の州都ンドラの中心部からほど近い場所で, 調査協力者は当時 60 代の女性 E.M 氏 [1]である。ただし調査データが不足している場合にのみ，Doke (1922，1938) から引用したデータを用いる。

1.1. ランバ語の社会言語学的背景

ここでは，ランバ語の持つ社会言語学的な背景について簡略的に述べる。ザンビアはバントゥ諸語圏であり (Marten & Kula 2008:291)，話されている言語の数は，数え方にもよる

[1] E.M 氏は，初等教育から高等教育まで教育を修めており，ケニアへの留学経験もある。ランバ語のほかに，地域共通語であるベンバ語と英語を話す。

が約 80 である (Marten & Kula 2008:292)。公用語は英語である (Marten & Kula 2008:291)。約 80 ある言語のうち，南部のトンガ語や西部のロズィ語，東部のニャンジャ語など地域共通語と呼べる言語がいくつかあり (cf. Marten & Kula 2008:296)，ランバ語が話されている地域ではベンバ語が地域共通語として話されている (Marten & Kula 2008:296)，筆者の調査地においても日常的に用いられているのはベンバ語のほうである。ランバ語は，研究者によってはベンバ語の方言とされることもあるように (cf. Kashoki 1978)，ベンバ語との類似性が高い。当該地域におけるほかの少数言語として，ララ語，ビサ語，スワカ語，アウシ語などがある (Kashoki 1978)。

1.2. ランバ語の文法的概要

ランバ語はほかのバントゥ諸語と同じく膠着性の高い言語であり，語根に接辞が膠着することによって語が構成される。ある語が文において果たす機能は，その語の構成要素によっておよそ見当が付けられる。例えば，名詞類は接頭辞と語幹によって構成されることが多いのに対して，動詞は接頭辞と語根，接尾辞によって構成される。文修飾要素については，文修飾の役割を果たす特定の語の構成があるわけではなく，名詞類がその役割を担う。基本語順は，主語，動詞，目的語である。文修飾要素は文頭や文末に現れることが多いが，文中にも現れることがある。

ランバ語の声調については，上述のとおり Bickmore (1995) や湯川 (1995) においてすでに研究されている。そのため本論文では詳しい分析には立ち入らず実現形を記すにとどめている。

第２章 ランバ語の音韻

2.1. 母音

ランバ語の母音は，/i/[i], /e/[e~ɛ],/a/[ɐ], /o/[ɔ~o], /u/[u]の 5 母音体系である。

/i/：	/-pim-/	「測る」	/-pil-/「水を汲む」
/e/：	/-pel-/	「挽く」	
/a/：	/-pam-/	「殴る」	/-pal-/「似る」
/o/：	/-pol-/	「冷める，治る」	/-loβ-/「釣る」
/u/：	/-pum-/	「殴る」	/-luβ-/「なくなる」

5 母音には，それぞれ以下のように長短の対立がある。

/i/ vs. /iː/：	/-li-/	「食べる」	vs.	/-liː-/「自分を／自分に」
/e/ vs. /eː/：	/-pel-/	「挽く」	vs.	/-peːl-/「与える」
/a/ vs. /aː/：	/amala/	「内臓」	vs.	/amaːla/「爪 pl」
/o/ vs. /oː/：	/-pos-/	「結う」	vs.	/-poːs-/「投げる」
/u/ vs. /uː/：	/-βuk-/	「呪う」	vs.	/-βuːk-/「起きる」

Doke (1922，1927，1938) は，/e/には[e]と[ɛ]，/o/には[o]と[ɔ]の異音があるとしている。Doke (1938) によると，[ɛ]あるいは[ɔ]で現れる条件は狭い母音が前にないことと，その音節自身に声調がつかないことである。ただし，長母音になる場合には狭い母音が前にあっても[ɛ]あるいは[ɔ]で現れることがあるとしている (Doke 1938:6)。しかしながら，筆者の調査では，以下に示す語のように明らかに[e]あるいは[o]で発音されているものもあったが，これらはむしろ例外であり，これら以外は狭い母音が前にあっても[ɛ]あるいは[ɔ]で現れている。

/umwensi/	[úmueɲɛi]，[úmuiɲɛi]	「月」
/mailo/	[mɐilo]	「昨日／明日」

つまり Doke (1922，1927，1938) では見られていた狭い広いの区別はほぼ見られなくなってい

ると言ってよい。

2.2. 子音

ランバ語の子音体系を以下の表に示す。

表 1-1：ランバ語の子音

	両唇音	唇歯音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音
閉鎖音	p		t		k　g
鼻音	m		n		
同音器官の鼻音	N				
摩擦音	β	f	s		
接近音	w			j	
側面接近音			l		

	/(V)**Ca**C/	/**Co**C/	/**Cu**(N)C/
/p/：	/-**pa**t-/「手に入れる」	/-**po**l-/「治る」	/-**pu**β-/「明るくなる」
/t/：	/-**ta**Nt-/「冷める」	/-**to**β-/「壊れる」	/-**tu**β-/「きれいになる」
/k/：	/-**ka**k-/「縛る」	/-**ko**lu-/「酔っぱらう」	/-**ku**l-/「成長する」
/β/：	/-i**βa**k-/「建てる」	/-**βo**n-/「見る」	/-**βu**k-/「呪う」
/f/：	*/fa/	/-**fo**lom-/「いびきをかく」	/-**fu**k-/「腐る」
/s/：	/-**sa**Nb-/「泳ぐ」	/-**so**Ns-/「(芽が)出る」	/-**su**m-/「噛む」
/l/：	/-**la**β-/「見る」	/-**lo**k-/「(雨が)降る」	/-**lu**β-/「なくなる」
/m/：	/**ma**:ma/「母」	/**mo**:je/「少女 sg」	/**mu**lja/「あの中に／で」
/n/：	/-**na**k-/「柔らかくなる」	/-**no**n-/「(人が)太る」	/-**nu**ŋk-/「臭う」

2.2.1 閉鎖音

2.2.1.1.無声両唇閉鎖音 /p/

無声両唇閉鎖音には，有気と無気の対立はない。前舌母音/i/，/e/が後続する場合には[pʰ]で現れ，それ以外の環境では[p]と[pʰ]のどちらも聞かれる。特に文中では無気になる傾向にあるが，前舌母音/i/，/e/が続く場合は文中でも有気が保たれることが多い。

[pʰ]：/_i, e

(2-1)	/ukwi**pi**ka/	[ukwí**pʰi**kɐ]	「料理」
(2-2)	/ulu**pi**/	[úlu**pʰi**]	「手のひら」
(2-3)	/uku**pe**nla/	[ukú**pʰɛ**nda]	「息をする」
(2-4)	/ikjaβu:**pe**/	[ítɕɐ:βú:**pʰɛ**]	「心優しい」

[p]～[pʰ]：/Elsewhere

(2-5)	/umu**pa**lu/	[umú**pɐ**lu]	～	[umú**pʰɐ**lu]	「狩人」
(2-6)	/umulo**pa**/	[umulɔ**pɐ**]	～	[umulɔ**pʰɐ**]	「血」
(2-7)	/aka**po**koso/	[ɐkɐ́**pɔ**kɔsɔ]	～	[ɐkɐ́**pʰɔ**kɔsɔ]	「くるぶし」
(2-8)	/ifise:**po**/	[ifísɛ:**pɔ**]	～	[ifísɛ:**pʰɔ**]	「果物」
(2-9)	/uku**pu**βa/	[ukú**pu**βɐ]	～	[ukú**pʰu**βɐ]	「軽い」
(2-10)	/ikipu:**pu**/	[itɕípu:**pu**]	～	[itɕípʰu:**pʰu**]	「風」

2.2.1.2. 無声歯茎閉鎖音 /t/

無声歯茎閉鎖音は, 前舌狭母音/i/の前では[tʰ]で現れ, それ以外の環境では[t]で現れる。[tʰ]は, /umuti/「木」や/ati/「ということ」など語によっては有気化に加えて硬口蓋化を起こし[cʰ]で現れるものもある。これは同一話者で見られるバリアントである。

[tʰ]～[cʰ]：/_i

(2-11)	/umu**ti**ma/	[umú**tʰi**ma]			「心臓」
(2-12)	/ukuta**ti**ka/	[ukútɐ**tʰi**kɐ]			「始めること」
(2-13)	/umu**ti**/	[úmu**tʰi**]	～	[úmu**cʰi**]	「木 sg，薬 sg」
(2-14)	/a**ti**/	[ɐ**tʰi**]	～	[ɐ**cʰi**]	「ということ」

[t]：/Elsewhere

(2-15)	/aka**te**mo/	[ɐkɐ́**tɛ**mɔ]	「斧 sg」
(2-16)	/ama**te**/	[ɐ́ma**tɛ**]	「唾液」
(2-17)	/amataβa/	[ama**tɐ**βɐ́]	「とうもろこし pl」
(2-17)	/ififuku**ta**/	[ifífukú**tɐ**]	「袋，鞄 pl」

(2-18) /ulu**to**βo/ [ulu**tɔ**βɔ] 「頬」

(2-19) /ifil**o**:to/ [ifílɔ:**tɔ**] 「夢」

(2-20) /uku**tu**βa/ [uku**tu**βɐ] 「白いこと」

(2-21) /umuN**tu**/ [úmun**tu**] 「人 sg」

2.2.1.3. 無声硬口蓋閉鎖音 /k/

無声硬口蓋閉鎖音は, 無声軟口蓋閉鎖音は, /i/の前で硬口蓋破擦化を起こし[ʨi]で実現される。それ以外の環境では[k]となるが，後続する母音が/e/である場合，後述するように[ke]と[ʨe]のどちらも観察される。

[ʨ]：/_i

(2-22) /i**ki**Nso/ [í**ʨi**ɲsɔ] 「顔」

(2-23) /umu**ki**la/ [umú**ʨi**lɐ] 「尻尾」

(2-24) /uβu:**ki**/ [úβu:**ʨi**] 「蜜」

[k]：Elsewhere

(2-25) /ukukaka/ [ukú**kɐ**ɲi**kɐ**] 「疑うこと」

(2-26) /utuni**ka**/ [utúɲi**kɐ**] 「川 pl」

(2-27) /imi**ko**fu/ [imí**kɔ**fu] 「傷跡 pl」

(2-29) /amasa**ko**/ [ɐmɐsɐ**kɔ**] 「羽毛 pl」

(2-30) /aβa**ku**lu/ [ɐβɐ́**ku**lu] 「長老 pl」

(2-31) /ko:**ku**/ [kɔ́:**ku**] 「いいえ」

以下のように/k/と/i/の間に形態素境界が存在している場合，同一話者において[ʨi]と[ki]で変異がみられる。

(2-32) [nɐ:lifi**kí**ɾɛ] ～ [nɐ:lifi**ʨí**ɾɛ] 「私は (昨日以前に) 着いた」

/n-a-li-fi**k-i**le/

1sgSM-PST-ANT-arrive-ANTF

このほかで[ki]が観察されるものは，借用語のみである。

(2-33)　/iNki/　[íŋ**ki**]　「インク」

/i/以外の母音が続く場合には，[k]と[tɕ]の両方の音価が存在する。例えば[kɛ]で現れるものには，/k/と後ろの[ɛ]の間に形態素境界があるものが多い。例えば，以下のように[k]で終わる動詞語幹に母音[i]で始まる接辞が後続し母音調和の結果[kɛ]となる例は，[tɕɛ]で現れることはない。

(2-34)　[ukúpɔ**kɛ**ɾɐ]　「～のために受け取ること」
/u-ku-po**k**-**i**l-a/
Aug-INF-receive-APPL-BF

/(C)V…kaC-/のような構造を持つ動詞語根に完了語尾/-ile/がインブリケーションを起こし[(C)V…kɛːɾɛ]となる以下のようなケースでも，音価は[kɛː]でしか現れない (インブリケーションについての詳細は 4.5.1.1 で述べる)。

(2-35)　[ndíːkɛːɾɛ]　「私は座っている」
/n-li-ikal.ile/
1sgSM-ANT-seat.ANTF

ただし以下の例のように，/k/と[ɛ]の間に形態素境界がない場合でも[kɛ]で現れるものがある。

[kɛ]
(2-36)　/ikiNso**ke**la/　[itɕinsɔ**kɛ́**lɐ]　「枝 sg」
(2-37)　/ukupo**ke**lela/　[ukupɔ**kɛ**lɛ́lɐ]　「受け取ること」

以下のように借用語にも見られる。

(2-38)　[ístɔ́ː**kɛ**ɲi]「靴下」

[tɕ]で現れるものは，それぞれ/ki/と/e/，/ki/と/a/，/ki/と/e/，/ki/と/o/の連続と解釈する (母音が連続したときに起こる現象については 2.4.1.2 で改めて述べる)[2]。

2.2.1.4. 有声軟口蓋閉鎖音 /g/

有声軟口蓋閉鎖音は，母音間よりも鼻音の後ろに現れることが多い。前舌母音の前では硬口蓋破擦化が起こる。上述のように鼻音との子音結合で現れることが多いため，詳しくは音韻規則のセクションで述べる。

/g/：[g]

(2-39) /amagaNda/ [ɐmɛ́**gɐ**ndɐ] 「家 pl」

/Ng/：[ŋg]

(2-40) /ukuta**Nga**la/ [ukútɐ**ŋgɐ**ɾɐ] 「誇ること」

(2-41) /imilu**Ngu**/ [imilu**ŋgu**] 「週 pl」

/Ng/：[ɲdʑ]_e, i

(2-42) /umuteN**ge**/ [umute**ɲdʑe**] 「屋根 sg」

(2-43) /ifjaN**gi**/ [ífja**ɲdʑi**] 「草 pl」

2.2.2. 摩擦音

2.2.2.2. 有声両唇摩擦音 /β/

有声両唇摩擦音/β/は，鼻音に後続する場合と/w/が後ろに現れる場合には[b]で現れ，それ以外の環境では[β]で現れる。

---

[2] [tɕi]は/ki/の異音としての解釈が有効であると考えるが、通時的に考えると無声歯茎閉鎖音/t/が母音/i/を伴った/ti/の異音が[tɕi]で現れている可能性も否めない。/ti/は[tʰi]のように有気音で現れるが、例えば先述のように補文標識の/ati/は[ɐtʰi]とも[ɐcʰi]とも発音されており、破擦化までは起こしていないものの調音点は歯茎から硬口蓋に移っている。詳細は音節構造のセクションで述べるが、以下の CGV 構造の C が/t/となる場合で、渡り音 G に/j/がくる場合も硬口蓋寄りで発音されることがあるため、[cʰjV:]といった音価が現れることがある。[tɕi]や[tɕɛ]の音価は通時的にみると*/tjV/であった可能性も十分に考えられる。

(2-i) /ukutjamuna/
[ukútʰjɐ:múnɐ]、[ukútijɐmúnɐ]、[ukúcʰɐ:múnɐ] 「くしゃみをすること」

[b]：/N_

(2-44)	/utu**Nβi**li/	[utú**mbi**li]			「ナツメヤシ pl」
(2-45)	/inβeβa/	[**ímbɛ**βɐ]			「ネズミ sg, pl」
(2-46)	/inkuNβu/	[íŋkumbu]	～	[íŋku:mbu]	「慈悲 sg, pl」

[b]：/_w

(2-47)	/βwino/	[**bui**no]			「よく」
(2-48)	/amaβwe/	[ɐmɐ**bwe**]	～	[ɐmɐ**bue**]	「石，岩 pl」

[β]

(2-49)	/uku**βi**:ka/	[ukú**βi**:kɐ]	「置くこと」
(2-50)	/uβu**βi**/	[úβu**βi**]	「悪さ」
(2-51)	/ki:**βe**Nβa/	[tɛ́i**βɛ**mbɐ]	「ベンバ語だ」
(2-52)	/**βo**Nβwe/	[**βɔ́**mbwe]	「カエル sg」
(2-53)	/umuse**βo**/	[umusɛ**βɔ**]	「道 sg」
(2-54)	/u**βu**ne/	[ú**βu**nɛ]	「魅力」
(2-55)	/ifi**βu**/	[ífi**βu**]	「肝臓 pl」

ただし借用語の中に，上記の規則に当てはまらないが閉鎖音で表れるものがあった。

(2-56)	/iβu:ku/	[i**bû**:ku]	「本 sg」

2.2.2.3. 無声唇歯摩擦音 /f/

無声唇歯摩擦音は，狭母音/i/，/u/と円唇母音である/o/の前にしか現れない。

/f/：/_i，u，o

(2-57)	/i**fi**ti/	[í**fi**tʰi]	「棒 pl」
(2-58)	/amaku**fi**/	[ɐmɛ́ku**fi**]	「膝 pl」
(2-59)	/i**fu**pa/	[í**fu**pɐ]	「骨 sg」
(2-60)	/umwe**fu**/	[úmwɛ**fu**]	「髭 sg」

(2-61)　/ukuf**o**loma/　[ukúfɔlɔmɐ]　「いびきをかくこと」

2.2.2.4. 無声歯茎摩擦音 /s/

無声歯茎摩擦音は，前舌狭母音/i/の前では硬口蓋化を起こすため[ɕ]で現れる。それ以外の環境では[s]で現れる。

[ɕ]：/_i

(2-62)　/umu**si**li/　[umú**ɕi**li]　「土 sg」

(2-63)　/umuka**si**/　[umúkɐ**ɕi**]　「妻 sg」

[s]：/Elsewhere

(2-64)　/umu**se**Nga/　[umu**sɛ**ŋgɐ]　「砂 sg」

(2-65)　/inpe:**se**/　[ímpɛ:**sɛ**]　「贈り物 sg,pl」

(2-66)　/imi**sa**na/　[imísɐnɐ]　「背中 pl」

(2-67)　/inpa**sa**/　[ímpɐ**sɐ**]　「ゴザ sg, pl」

(2-68)　/imi**so**Nβo/　[imí**sɔ**mbɔ]　「穴 pl」

(2-69)　/utupoko**so**/　[utúpɔkɔ**sɔ**]　「くるぶし pl」

(2-70)　/aka**su**βa/　[ɐkɛ́**su**βa]　「太陽 sg」

(2-71)　/umukwasu/　[umúkuwɐ**su**]　「姉 sg」

[ɕa]，[ɕe]，[ɕo]については，それぞれ/si/と/a/，/si/と/e/，/si/と/o/の連続と解釈する。母音が連続したときに起こる現象については 2.4.1.2 を参照のこと。

(2-72)　/βamwiNsjo:/　[βɐ:muíɲɕɔ]　「オジ (父方) pl」

2.2.3. 歯茎側面接近音 /l/

歯茎側面接近音は，円唇性のある母音/o/と/u/の前では[l]で現れる。母音/e/と/a/の前では[ɾ]が聞かれる。母音/i/の前では，[ɾ]と[l]のどちらも聞かれた。/j/の後ろでは，必ず[l]で実現される。鼻音の後ろに続く場合は閉鎖音となり[nd]で実現される。

[l]：/_u，o

(2-73) /ulusapato/ [u**lú**sɐtɔ] 「パイソン sg」

(2-74) /aβapalu/ [ɐβɐ́pʰɐ**lu**] 「狩人 pl」

(2-75) /akalolelo/ [ɐkɐ́**lɔ**ɾɛ́lɔ] 「手鏡 sg」

(2-76) /mailo/ [mɐi**lo**] 「昨日／明日」

[ɾ]：/_a，e

(2-77) /ukulemana/ [ukú**ɾɛ**mɐnɐ] 「重いこと，足が不自由であること」

(2-78) /ikilaNβa/ [itɕí**ɾɐ**mbɐ] 「ランバ語」

(2-79) /alaβutuka/ [ɐ**ɾɐ**βutukɐ] 「その人は走る」

[ɾ]〜[l]：/_i

(2-80) /i**li**pi:le/ [i**li**pi:ɾɛ́kɐɾɛ] 〜 [i**ɾi**pi:ɾɛ́kɐɾɛ] 「それ (パン) はすでに焼けている」

(2-81) /na:**li**:le/ [nɐ:**lí**:ɾɛ] 〜 [nɐ:**ɾí**:ɾɛ] 「私は行った」

[l]：/j_

(2-82) /uku**lja**/ [úku**lja**] 「食べること」

(2-83) /a**lja**lukile/[ɐ**ljɐ**:lukiɾɛ] 「その人は変わった」

[nd]：/N_

(2-84) /nlaβutuka/ [**ndɐ́**βutukɐ] 「私は走る」

(2-85) /inlume/ [í**ndu**mɛ] 「弟」

2.2.4. 鼻音

2.2.4.1. 両唇鼻音 /m/

両唇鼻音は，どの環境においても[m]で現れる。

[m]：Elsewhere

(2-86) /umu**mi**no/ [umu**mi**no] 「喉 sg」

(2-87) /uβu:**mi**/ [úβuu**mi**] 「生活」

(2-88)	/muse**me**:ni/	[músɛmɛ́:ni]	「ヒヒ sg」
(2-89)	/umulu**me**/	[umúlu**me**]	「夫 sg」
(2-90)	/**ma**leNganja/	[**ma**lɛ́ŋgaɲa]	「トカゲ sg」
(2-91)	/umuti**ma**/	[umútʰi**ma**]	「心臓 sg」
(2-92)	/ukupolo**mo**ka/	[ukúpolomóka]	「雨が降る，(水が)流れる」
(2-93)	/umulo**mo**/	[umulo**mo**]	「唇 sg」
(2-94)	/**mu**seme:ni/	[**mú**sɛmɛ́:ni]	「ヒヒ sg」
(2-95)	/ulusi**mu**/	[ulúɕi**mu**]	「ミツバチ sg」

2.2.4.2. 歯茎鼻音 /n/

歯茎鼻音は，2.4 で詳述するが，/ni/の後ろに NCV がある場合は必ず[ɲi]で現れる。/i/以外の母音が続く場合と，/i/が後続する音節が語末に位置する場合は必ず[ni]で実現されるが，語中に位置し/ni/の後ろに NCV が続かない場合でも[ɲi]が現れることがある。しかしながら現時点では相補分布とは考えられないため，[ɲ]を音素として立てることはしていない。

[ɲ]/_iNCV

(2-99)	/ninda/	[**ɲí**ndɐ]	「シラミだ」
(2-100)	/iniNβo/	[í**ɲi**mbɔ]	「歌」

[n]：Elsewhere

(2-101)	/umu**ne**fu/	[umunɛfú]	「肉 sg」
(2-102)	/ulwi**ne**/	[úluine]	「右手」
(2-103)	/i**na**ma/	[ínɐmɐ]	「動物」
(2-104)	/amasi**na**/	[ɐmɛ́ɕinɐ]	「名前 pl」
(2-105)	/uku**no**na/	[ukunɔnɐ]	「脂がのっていること」
(2-106)	/imimi**no**/	[imimino]	「喉 pl」
(2-107)	/uku**nu**nka/	[ukunuŋka]	「匂うこと」
(2-108)	/ifi**nu**/	[ifinu]	「臼 pl」

/ulumi**ni**/「舌 sg」や/uluku**ni**/「薪 sg」のように/ni/が語末に位置する場合は歯茎鼻音[ni]で現

れるが，以下のように語中で NCV でない音節が続く場合，歯茎で発音されるものもあれば，調音点が硬口蓋にずれるものも観察された。

[ni]

(2-109)	/ulumi**ni**/	[ulúmi**ni**]	「舌 sg」
(2-110)	/ulukuni/	[ulúku**ni**]	「薪 sg」
(2-111)	/innika/	[í**ni**ka]	「川 sg, pl」

[ɲi]

(2-112)	/ukukanika/	[ukúka**ɲí**ka]	「疑うこと」
(2-113)	/waːifunikapo/	[wɐːifu**ɲí**kɐpɔ]	「あなたは (蓋を) 置いた」

2.2.4.3. 鼻音の解釈に関する Doke (1927，1938) との違い

Doke (1927，1938) は，[ɲi]を/ni/の異音としてではなく別個の音素/ɲ/とみなしているようである (Doke 1927:18，Doke 1938:20-21)。例えば以下の語を音素/ɲ/を持つ例として挙げている。しかし[ɲ]は現時点では[n]とのミニマルペアは見つかっておらず，異音として現れる音価でもある。例えば，[ɲɛ][ɲa][ɲɔ][ɲu]はそれぞれ/nje/，/nja/，/njo/，/nju/の後ろに NCV が後続した場合の異音としての解釈が可能である (詳細は 2.4.2 を参照)。しかし，Doke の音声の記述が正しければ，以下のように当てはまらない例がかなり存在する (Doke の表記では͡ があるñyV が硬口蓋音[ɲV]で、͡ がない nyV は歯茎鼻音[ni]と母音が結合した[njV]である。Doke からの引用は斜体で表記，筆者が現地調査で発音を確かめたものは IPA で表記している)。これだけの例があるのならば，音素として/ɲ/を建てることを検討したほうがいいのかもしれない。また，[nj]で表れているものは形態素境界があるものがほとんどである。形態素境界があると硬口蓋化しにくいということなのかもしれない。

[ɲ]

(2-114)	[βêː**ɲi**nɐ]	「母」
(2-115)	[mɐɾɛ́ŋgɐ**ɲɐ**]	「トカゲ sg」
(2-116)	*ínyeñyesi*	「金星」
(2-117)	*imiñyololo*	「足枷」

(2-118)　*maɲ͡yema*　「弦楽器 (ギターのような 2 弦の楽器)」

(2-119)　*ɲ͡yoŋona*　「すりづぶせ」

cf. [ɲj]

(2-120)　[nɐ:tɕikúmɐnjɐ]　「私は～と会った」

/n-aki-kuma**n-i-a**/

1sgSM-HOD.PST-meet-CAUS1-BF

また，Doke は[ɲ]以外に[ŋ]も別個の音素とみなしている (Doke 1927:18，Doke 1938:21)。例えば以下の語を例として挙げている。

(2-121)　*ŋata*　「がみがみ言う」

(2-122)　*umuŋaŋo*　「不満，苦情」

(2-123)　*liŋwiŋwina*　「つぶやく，ぶつぶつ言う」

(2-124)　*syeŋwina*　「さいなむ」

(上記 4 つの例はすべて Doke 1938:21 からの引用，表記は原文ママ)

詳しくは音節構造，音韻規則のセクションで述べるが，[ŋ]も[ɲ]と同じように後ろに鼻音を含む音節 NCV が後続したときに/Ng/の異音として現れる音価である (cf. マインホフの法則)。Doke (1938) が挙げている例が現在どのような音価を持っているかによるが，それ以外では[ŋ]を別個の音素として建てるのに根拠として十分な例は現時点ではまだ見つかっていない。

2.2.4.4. 同音器官の/N/

鼻音の直後に子音が続く場合，その鼻音は後ろの子音と同調音点となる。2.3.4 で詳しく述べる。

2.2.5. 接近音

ランバ語の/w/と/j/は，2 つの母音が結合した場合に現れるだけでなく (これについては後述する)，以下のように子音としても現れる。

2.2.5.1. 両唇接近音 /w/

/w/：[w]

(2-125)　/i**we**:sa/　[í**wɛ**:sɐ]　「平野 sg」

(2-126)　/ama**we**:sa/　[ɐmé**wɛ**:sɐ]　「平野 pl」

(2-127)　/isi**wi**/　[íɛi**wi**]　「声 pl」

2.2.5.2. 硬口蓋接近音 /j/

/j/：[j]

(2-128)　/i**ja**nβa/　[í**jɐ**mbɐ]　「森 sg」

(2-129)　/ama**ja**nβa/　[ɐmé**jɐ**mβɐ]　「森 pl」

これは、2 つの母音が結合した場合に現れる渡り音とは区別される (2.4.1 を参照のこと)。

(2-130)　/ukukuwa/　[ukúkuwɐ]　「吠えること」

(2-131)　/ukufwaja/　[ukúfuwɐjɐ]　「欲すること」

2.2.6. 借用語にみられる音価

以下に挙げる音価は，音素目録に入れるには値しないが，実際に観察される音価である。発音できないわけではないので，ランバ語固有の音素への置き換えなどは起きていない。

有声歯茎摩擦音[z]

(2-132)　/zaNβia/　[zémbiɐ]　「ザンビア」

2.3. 音節構造

ランバ語の音節構造には，V，CV，CGV，NCV，NCGV がある。以下，それぞれの例を挙げる。

2.3.1. V

(2-133)	/**i**.se/	[ísɛ]	「鍬 sg」
(2-134)	/**u**.tu.ti/	[útutʰi]	「小さい棒 pl」
(2-135)	/**a**.ma.to.**i**/	[ɐmɐ́tɔi]	「灰 pl」

2.3.2. CV

(2-136)	/a.**ma**.**pi**/	[ɐ́mɐpʰi]	「てのひら pl」
(2-137)	/u.**mu**.**si**/	[umuɕi]	「村 sg」
(2-138)	/u.**βu**.**ne**/	[úβunɛ]	「良さ」
(2-139)	/i.**na**.**ma**/	[ínɐmɐ]	「動物 sg, pl」
(2-140)	/u.**mu**.**ku**.**lu**/	[umúkulu]	「長老 sg」
(2-141)	/i.**mi**.**ka**.**lo**/	[imikɐɾo]	「井戸 pl」
(2-142)	/u.**tu**.**po**.**ko**.**so**/	[utúpɔkɔsɔ]	「くるぶし pl」
(2-143)	/a.**βa**.**la**.**je**/	[ɐβɐ́ɾɐjɛ]	「伝統医 pl」
(2-144)	/u.**lu**.**sa**.**pa**.**to**/	[ulúsɐpɐ́tɔ]	「靴 (片方)」

2.3.3. CGV

2.3.3.1. /CwV/

/pw/

(2-145)	/ki.ku.**pwi**:/	[tɕíku**pui**]	～	[tɕíku**pwi**]	「鷹 sg」
(2-146)	/u.ku.**pwa**:/	[úku**puwɐ**]	～	[úku**pwɐ**]	「乾くこと」

/tw/

(2-147)	/u.**twi**:.si.βo/	[u**túí**ɕiβɔ]	～	[u**twí**ɕiβɔ]	「印 pl」
(2-148)	/u.mu.**tw**i:/	[úmu**tui**]	～	[úmu**twi**]	「頭 sg」
(2-149)	/u.ku.**tw**a:/	[úku**tuwɐ**]	～	[úku**twa**]	「搗くこと」

/kw/

(2-150)	/u.**kwi**:.βa/	[ú**kui**βɐ]	「盗むこと」
(2-151)	/u.**kwe**:.Nda/	[u**kuɛ**ndɐ]	「歩くこと」
(2-152)	/**kwe**:.su/	[**kúɛ́**su]	「私たちの (場所)」
(2-153)	/u.mu.**kwa**:.su/	[umú**kuwɐ**su]	「姉 sg」

/ɡw/は，有声軟口蓋閉鎖音/g/のところで述べたとおり，母音間よりも/n/の後ろで[g]が実現されることのほうが多いため，鼻音なしで/ɡw/が現れる例はまだ見つかっていない。

/βw/

(2-154)	/u.**βwi**:.Ngi/	[ú**bui**ŋgi]	「多さ」
(2-155)	/u.ku.**βwe**:.la/	[ukU**buɛ**ɾɐ]	「戻ること」
(2-156)	/u.**βwa**:.to/	[ú**buɐ**tɔ]	「カヌーsg」

/fw/

(2-157)	/u.mu.**fwi**:/	[úmu**fui**]	「矢 sg」
(2-158)	/**fwe**:.βo/	[**fúɛ́**βɔ]	「あなた(独立代名詞)」
(2-159)	/a.ma.**fwa**:.sa/	[ɐmɛ́**fuɐ**sɐ]	「かまど石 pl」

/sw/

(2-160)	/i:.**swi**:.le/	[î:**súí**ɾɛ]	「～が満杯だ」
(2-161)	/i:.**swe**:.te.le/	[î:**súɛ́**tɛɾɛ]	「～が似合っている」
(2-162)	/a.ka.Nsu.**swa**:/	[ɐkɛ́nsú**suwɐ**]	「コウモリ sg」

/lw/

(2-163)	/u.**lwi**:.Nβo/	[ú**lui**mbɔ]	「歌 sg」
(2-164)	/u.βu.**lwe**:.le/	[uβú**luɛ**ɾɛ]	「病気」
(2-165)	/u.ku.**lwa**:.la/	[ukú**luɐ**ɾɐ]	「病気であること」

/mw/

(2-166)	/u.**mwe**:.Nsu/	[ú**muɛ**nsu]	「客 sg」
(2-167)	/u.**mwa**:.na/	[ú**muɐ**nɐ]	「子供 sg」

/nw/

(2-168)	/a.ka.**nwa**:/	[ɐkɐ**nuwɐ**]	「口 sg」

(2-169) /u.mu.**nwe**:/ [umu**nuɛ**] 「指 sg」

2.3.3.2. /CjV/

/pj/

(2-170) /u.ku.**pju**.Nga/ [ukú**pju**ŋgɐ] 「働くこと」

(2-171) /u.ku.**pja**.Nga/ [ukú**pjɐ**ŋgɐ] 「掃くこと」

/tj/

(2-172) /u.ku.**tja**.mu.na/ [ukú**tʰija**múnɐ] ～ [ukú**tjɐ**:múnɐ] 「くしゃみをすること」

/βj/

(2-173) /u.ku.**βja**.la/ [ukú**βiɐ**:ɾɐ] ～[ukú**βjɐ**:ɾɐ] 「種を蒔くこと」

(2-174) /u.ku.**βjo**.la/ [ukú**βiɔ**ɾɐ] ～[ukú**βjɔ**:ɾɐ] 「ゲップをすること」

/fj/

(2-175) /**fje**.nu/ [fiɛnu] ～[**fjɛ**:nu] 「あなた方の」

(2-176) /u.ku.**fja**.la/ [ukú**fiɐ**:ɾɐ] ～[ukú**fjɐ**:ɾɐ] 「産むこと」

(2-177) /u.ku.**fju**.ka/ [ukú**fju**:kɐ] ～[ukúfju:kɐ] 「逃げること」

/mj/

(2-178) /i.**mjo**.na/ [í**miɔ**nɐ] ～ [í**mjɔ**:nɐ] 「鼻 pl」

(2-179) /i.**mju**.Nga/ [i**mju**ŋgɐ] 「トゲ pl」

(2-180) /u.ku.si.**mja**:/ [ukúɕimijɐ] 「消すこと」

/nj/

(2-181) /u.ku.**nja**.Nta/ [ukúɲɐntɐ] 「踏むこと」

(2-182) /u.ku.le.ka.**nja**/ [ukúɾɛkɐ**ɲɐ**] 「分けること」

(2-183) /ma.le.nga.**nja**/ [mɐɾɛ́ŋgɐ**njɐ**] 「トカゲ sg」

2.3.4. NCV

2.2.4.4 で述べたとおり，鼻音の後ろに子音が続く場合，その鼻音は後続する子音と同調音点で実現される。鼻音には同音器官の/N/以外に/n/を建てているが，これは 9, 10 クラスの名詞接頭辞と，1 人称単数の主語接辞あるいは目的語接辞を基底として/n/で建てているためである(名詞接頭辞については 3.1.5 で，1 人称単数主語接辞，目的語接辞については 4.1.1 で説明する)。/n/も/N/も，後ろに続く子音と同調音点で実現されることには変わりない。以下でそれぞれ

の調音点の例を示す。

2.3.4.1. 両唇の口腔音が後続する場合

(2-184) /i.**npi**.la/ [í**mp**iɾɐ] 「ボール」

(2-185) /i.**nβe**.βa/ [í**mb**ɛβɐ] 「ネズミ sg, pl」

2.3.4.2. 唇歯の口腔音が後続する場合

(2-186) /i.**nfu**.la/ [í**ɱf**uɾɐ] 「雨」

2.3.4.3. 歯茎の口腔音が後続する場合

(2-187) /i.**nta**.lo/ [í**nt**ɐɾɔ] 「ポット sg, pl」

(2-188) /i.**nlu**.me/ [í**nd**umɛ] 「弟 sg, pl」

(2-189) /i.**nso**.ka/ [í**ns**ɔkɐ] 「ヘビ」

2.3.4.4. 硬口蓋の口腔音が後続する場合

(2-190) /i.**nki**.to/ [í**ɲtɕi**tɔ] 「仕事」

(2-191) /u.kwi.**Ngi**.la/ [ukúí**ɲdʑi**ɾɐ] 「入ること」

(2-192) /i.**nsi**.la/ [í**ɲɕi**ɾɐ] 「道 sg, pl」

(2-193) /ka.**ngja**:/ [kɐ**ɲdʑɐ**] 「そして私は行った」

2.3.4.5. 軟口蓋の口腔音が後続する場合

(2-194) /i.**nka**.fi/ [í**ŋk**ɐfi] 「櫂 sg, pl」

(2-195) /i.**nko**:.Nlo/ [í**ŋkɔ**:ndɔ] 「戦争 sg, pl」

(2-196) /i.li.**Nga**/ [íli**ŋg**ɐ] 「柵 sg」

(2-197) /i.no.**Ngo**/ [ínɔ**ŋgɔ**] 「水瓶」

2.3.5. NCGV

(2-198) /to.**Npwe**/ [tɔ́**mpue**] 「脳 sg」

(2-199) /i.**nβwa**/ [í**mbuwɐ**] 「犬 sg, pl」

(2-200) /u.ku.**Nfwa**/ [úku**ɱfwa**] 「聞くこと」

(2-201)	/i.**nfjo**:/	[í**ŋfijɔ**]	「腎臓」
(2-202)	/i.**nlja**:.βu.lu.βa/	[í**ɲdʲijɐ**βúluβɐ]	「キリン sg，pl」
(2-203)	/i.**ngwe**.na/	[i**ŋguɛ**nɐ]	「ワニ sg，pl」
(2-204)	/i.mi.la.**Ngwe**/	[imíɾɐ**ŋguɛ**]	「知恵」

2.4. 音韻規則

ここでは，ランバ語の音韻規則について説明を行う。

2.4.1. 母音に関する規則

2.4.1.1. 渡り音

母音が連続すると以下のように渡り音が現れることがある。

(2-205) /u.mwe.o/ [umu**ɛɔ**], ～ [umu**ɛwɔ**] 「生命」

cf. /a.ma.to.i/ [ɐmɐ́t**ɔi**] 「灰」

2.4.1.2. 母音結合

ランバ語では，母音が連続すると母音の組み合わせによっては融合と代償延長を起こし CV:となったり，CGV:となったりする。後述するがランバ語は膠着性の高い言語であり，形態素分析によってどの母音の組み合わせによってどのような音節構造を導かれるのかを判別することが可能である。母音の組み合わせだけでなく，子音によっても CV:となるか CGV:となるかが左右される。

2.4.1.2.1. 同じ母音同士

同じ母音が重なる場合には長母音となって現れる。e で終わる形態素，o で終わる形態素がランバ語にはないため，/i/，/a/，/u/の例のみ示す。

/i/＋/i/→[iː]

(2-206) [í**tɕi**ːnɛ] 「真実」

/i-ki-ine/

Aug-7NP-truth

/a/＋/a/→[aː]

(2-207) [ɐ́**mɐ**ːɾɐ] 「爪」

/a-m**a-a**la/

Aug-6NP-nail

/u/＋/u/→[uː]

(2-208)　[ú.**ku**:.lu]　「脚」

/u-k**u-u**lu/

Aug-15NP-leg

ただし，NCV の前では融合のみが起こり，長音化しない。

(2-209)　[ilínso]

/i-li-inso/

Aug-5NP2-eye

「目」

(2-210)　[βaljáβantu]　「あの人たち」

/βa-lja　a-βa-ntu/

2SM-REM.DEM　Aug-2NP-people

「あの人たち」

(2-211)　[úkuŋfuwa]　「聞くこと」

/u-ku-umfu-a/

Aug-INF-hear-BF

[CVː]となる組み合わせ

子音と母音の組み合わせによっては，融合と代償延長が起こり長母音となって現れるケースがある。ただし代償延長は NCV の前と語末では起こらないため，短母音で実現されることもある。

/Ca/＋V の場合

/a/＋/i/→[ɛː]

(2-212)　[ɐ**kɛ́**:ɛiβɔ]「印」

/a-ka-isiβo/

Aug-12NP-sign

/a/＋/e/→[ɛ:]

(2-213)　[ɐ́**βɛ**nsu]　「客」

/a-β**a-e**nsu/

Aug-2NP-guest

/a/＋/o/→[ɔ:]

(2-214)　[**βɔ**nsɛ]　「すべての」

/β**a-o**nse/

2SM-all

/a/＋/u/→[ɔ:]

(2-215)　[ɐ́**mɔ**:lu]　「脚」

/a-m**a-u**lu/

Aug-6NP-leg

/Cu/＋/o/→[Cɔ:]

(2-216)　[ú**kɔ**:tɕɐ]　「(パンなどを) 焼くこと」

/u-**ku-o**ki-a/

Aug-INF-bake-BF

(2-217)　[ú**mɔ**:nɐ]　「鼻」

/u-**mu-o**na/

Aug-3NP-nose

なお，/o/以外の母音が/Cu/に後続する場合は CGV となるため，次のセクションで述べる。

子音がない場合，渡り音が現れて[wV:]となる。これは後ろの母音が/o/以外であっても同様である。

/u/＋/i/→[wi:]

(2-218)　[**wi**:sɐ]　「どの」

/**u-i**sa/

1/3SM-which

/u/＋/e/→[wɛ:]

(2-219)　[**wɛ**:su]　「私たちの」

/**u-e**su/

1/3SM-1plPOSS

/u/＋/a/→[wɐ:]

(2-220)　[**wɐ**:.βɔ]　「その人たちの」

/**u-a**βo/

1/3SM-3plPOSS

/u/＋/o/→[wɔ:]

(2-221)　[**wɔ**:βɛ]　「あなたの」

/**u-o**βe/

1/3SM-2sgPOSS

/Ci/＋V が[CV:]となる場合

Ci に母音が後続することで子音が硬口蓋化する場合には，[CV:]で実現される。/k/は母音/i/の前で硬口蓋破擦化し[tɕi]で現れるため，この規則に当てはまる。

/ki/＋/e/→[tɕɛ:]

(2-222)　[**tɕɛ**:nu]　「あなた方の」

/**ki-e**nu/

7SM-2plPOSS

/ki/＋/a/→[tɕɐ:]

(2-223)　[**tɕɐ**:kuɛ]　「私の」

/**ki-a**kwe/

7SM-3sgPOSS

/ki/＋/o/→[tɕɔ:]

(2-224)　[**tɕɔ**:βɛ]　「あなたの」

/**ki-o**βe/

7SM-2sgPOSS

/ki＋/u/→[tɕuː]

(2-223)　[í**tɕu**ːni]　「鳥」

/i-**ki-u**ni/

Aug-7NP-bird

/s/も母音 i の前で硬口蓋化を起こすため，この規則に当てはまる。

/si/＋/e/→[ɕɛː]

(2-224)　[**ɕɛ**ːnu]　「あなた方の」

/**si-e**nu/

10SM-2plPOSS

/si/＋/a/→[ɕɐː]

(2-225)　[**ɕɐ**ːβɔ]　「私の」

/**si-a**βo/

10SM-3plPOSS

/si/＋/o/→[ɕɔː]

(2-226)　[**ɕɔ**ːβɛ]　「あなたの」

/**si-o**βe/

10SM-2sgPOSS

/si/＋/u/→[ɕuː]

(2-227)　[ɕúːmíne]　「乾いている」

/si-ø-um-ile/

10SM-PRS-get_dried-ANTF

/nyV/は，後ろに NCV が続いた場合[ɲV]で実現される。

(2-228)　[ukúɲɐntɐ]　「踏むこと」

/u-ku-nyant-a/

Aug-INF-step-BF

(2-229) [ulú**ɲɐ**ŋgu] 「豆」

/u-lu-**nya**ngu/

Aug-11NP-bean

まれに, NCV が後続しておらず語末でも硬口蓋歯茎音で現れる (2-230) のような例も見受けられた。

(2-230) [ukúpɐtɐŋkɛ́**ɲɐ**] 「混ぜること」

/u-ku-patanka**n-i-a**/

Aug-15NP-mix-CAUS-BF

C がない場合は渡り音が現れて[jV:]となる。

/i/＋/e/→[jɛ:]

(2-231) [**jɛ̂**:su] 「私たちの」

/**i-e**su/

4/9SM-1plPOSS

/i/＋/a/→[jɐ:]

(2-232) [**jɐ**:βɔ] 「その人たちの」

/**i-a**βo/

4/9SM-3plPOSS

/i/＋/o/→[jɔ:]

(2-233) [**jɔ**:βɛ] 「あなたの」

/**i-o**βe/

4/9SM-2sgPOSS

/i/＋/u/→[ju:]

(2-234) [**jû**:mínɛ] 「乾いている」

/**i-u**m-ile/

4/9SM-get_dry-ANTF

2.4.1.2.2. CGV で現れる母音の組み合わせ

/CjV/

/Ci/に母音が結合する場合，C の音価が硬口蓋音以外ならば/CjV/となって現れる。[CjV:]のように現れることもあるが，[CiV]や[CijV]といった母音連続と似た現れ方をすることもある。ただし NCV の前では短母音[CjV]でしか現れない。/CjV/の C が/l/の場合，硬口蓋寄りの[lʲ]で実現されることがしばしばある。/njV/は，後ろに NCV が後続しない限り[njV:]である。どの組み合わせも，語 (あるいはフレーズ) 末では長母音化しない。

/Ci/＋/e/→[Cjɛ:]

(2-235) [**lj**ɛ:nu]，[**lʲ**ɛ:nu] 「あなた方の」

/**li-e**nu/

5SM-2plPOSS

(2-236) [ɐβɐ́**βj**ɛ:su]，[ɐβɐ́**βi**ɛsu] 「あなた方の友達」

/a-βa-**βi-e**su/

Aug-2NP-friends-2plPOSS

/Ci/＋/a/→[Cjɐ:]

(2-237) [úku**lja**]～[úku**lʲja**] 「食べること」

/u-ku-**li-a**/

Aug-INF-eat-BF

(2-238) [í**miɐ**kɐ]～[í**mjɐ**:kɐ] 「年」

/i-mi-aka/

Aug-4NP-year

(2-239) [ukúɾɛkɐ**nja**] 「分けること」

/u-ku-leka**n-i-a**/

Aug-15NP-be_divided-FV

/Ci/＋/o/→[Cjɔ:]

(2-240) [í**miɔ**nɐ]～[í**mjɔ**:nɐ] 「鼻」

/i-mi-ona/

Aug-4NP-nose

/Ci/＋/u/→[Cjuː]

(2-241)　[**ljû**:míne]　「(服が) 乾いている」

/**li**-ø-**u**m-ile/

5SM-PRS-get_dry-ANTF

(2-242)　[imjuŋgɐ]　「トゲ」

/i-**mi**-**u**Nga/

Aug-4NP-thorn

/CwV/

先のセクションでもふれたが/Cu/＋V は，V が/o/以外の場合に限り渡り音[w]が現れて/CwV/となる。C は接近音以外のどの子音も来ることができる。[CjV:]のように結合した母音が長く実現されるというよりは，[CuV]あるいは[CuGV]といったように，母音連続のように発音されることが多い。また，/β/以外は子音の音価に影響はない。なお，/CwV/の C が/β/の場合，/β/の音価は[b]となる。ほかの子音は音価に変化はない。

/Cu/＋/i/→[Cui]～[Cuwi]

(2-243)　[u**kúí**ɛiβɐ]　「知ること」

/u-**ku**-**i**siβ-a/

Aug-INF-know-BF

/Cu/＋/e/→[Cuɛ]～[Cuwɛ]

(2-244)　[ú**muɛ**nsu]　「客」

/u-**mu**-**e**nsu/

Aug-1NP-guest

/Cu/＋/a/→[Cuɐ]～[Cuwɐ]

(2-245)　[ú.**buɐ**.tɔ]　「カヌー」

/u-β**u**-**a**to/

Aug-14NP-canoe

ほかの組み合わせで CGV となるもの

/Co/+/i/→[Cuɛ]～[Cuwɛ]

(2-246) [inuémpindi] 「現時点」

/i-no i-n-pinli/

9SM-PROX.DEM Aug-9NP-time

2.4.2. 鼻音と子音が結合する場合

2.3.4 でも述べたとおり，鼻音の後ろに子音が続く場合，その鼻音は後続する子音と同調音点で実現される。以下でそれぞれの調音点の例を示す。

①両唇音

/np/：[mp$^{(h)}$]

(2-247) [ímpɐsɐ] 「マット」

/i-n-pasa/

Aug-9NP-mat

/nβ/：[mb]

(2-248) [í**mbɐ**fu] 「肋骨」

/i-n-βafu/

Aug-10NP-rib

cf. [ulúβɐfu] 「肋骨」

/u-lu-βafu/

Aug-11NP-rib

②唇歯音

/nf/：[ɱf]

(2-249) [íɱfuŋgúlɔ] 「カギ」

/i-n-fuNgulo/

Aug-9NP-key

③歯茎音

/nt/：[nt$^{(h)}$]

(2-250) [íntɐlɔ] 「(料理用の) ポット」

/i-n-talo/

Aug-9NP-cooking_pot

/nl/：[nd]

(2-251) [ndɛ́βutukɐ] 「私は走る」

/n-la-βutuk-a/

1sgSM-HAB-run-FV

cf. [ɐrɛ́βutukɐ] 「その人は走る」

/a-la-βutuk-a/

3sgSM-HAB-run-BF

/ns/：[ns]

(2-252) [ínsɔni] 「悲しみ」

/i-n-soni/

Aug-9NP-sarroow

④硬口蓋音

/nsi/：[ɲɕi]

(2-253) [íɲɕimu] 「ミツバチ pl」

/i-n-simu/

Aug-10NP-honey_bee

/nki/：[ɲtɕi]

(2-254) [**íɲtɕi**tɔ] 「仕事」

/i-n-kito/

Aug-9NP-work

/ngi/：[ɲdʑi]

(2-255) [**ɲdʑi**kɛ́rɛmɔ]「私が入るように」

/n-ikal-e-mo/

1sgSM-enter-SF-18LOC

(2-256)　[kɛ́**ɲdʑɐ**]　「そして私は行った」

/ka-**n-i**-a/

NAR-1sgSM-go-BF

⑤軟口蓋音

/nk/：[ŋk]

(2-257)　[íŋkɐfi]　「櫂」

/i-n-kafi/

Aug-9NP-paddle

/ng/：[ŋg]

(2-258)　[iŋgɐβɔ́]　「盾」

/i-n-gaβo/

Aug-10NP-shield

(2-259)　[íŋgɔmɐ], [íŋgɔːmɐ] 「太鼓」

/i-n-goma/

Aug-10NP-drum

2.4.3. 鼻音に関する規則

2.4.3.1. マインホフの法則

鼻音＋有声閉鎖音となっている音節の後ろにさらに NCV がある場合，マインホフの法則が適用され, 鼻音と子音の子音結合が単なる鼻音になるという現象が起こる (cf. Meinhof 1913:274, 日本語訳は清水 1988 による)。

(2-260)　[anáŋge]　「その人が私に示す」

/a-n-laNg-e/

3sgSM-1sgOM-show-SF

(2-261)　[íŋɐndɐ], [íŋgɐndɐ]　「家」

/i-n-gaNda/

Aug-9/10NP-house

(2-262) [kamú**ŋu**ŋfuwɐ] 「そしてあなたは私の言うことを聞いた」

/ka-mu-n-uNfu-a/

NAR-2plSM-1sgOM-hear-BF

(2-263) [ɲímbɛpɔ] 「私が歌うように」

/n-iNb-e-po/

1sgSM-sing-SF-16LOC

2.4.3.2. 鼻音同士の縮約

鼻音同士が結合すると縮約を起こす。音節子音にはならない。

(2-264) [ímini] 「舌 pl」

/i-n-mini/

Aug-10NP-tongue

cf. [ulúmini] 「舌 sg」

u-lu-mini

Aug-11NP-tongue

(2-265) [muíɛi]

/n-ø-mu-ishiβ-ile/

1sgSM-NUL-3sgOM-know-ANTF

「私はその人を知っている」

cf. [tumúíɛi]

/tu-ø-mu-ishiβ-ile/

1plSM-NUL-3sgOM-know-ANTF

「私たちはその人を知っている」

(2-266) [ínika] 「川 sg」

/i-n-nika/

Aug-9NP-river

cf. [ɐkɛ́nikɐ] 「小川 sg」

/a-ka-nika/

Aug-12NP-river

(2-267) [íɲæŋgu] 「豆」

/i-n-njaNgu/

Aug-10NP-bean

cf. [ulúɲæŋgu] 「豆」

/u-lu-njaNgu/

Aug-11NP-bean

2.4.3.3. NCV と母音の長短

例えば/impinli/「時間」は，[ímpi:ndi]とも[ímpindi]とも発音される。/ingoma/「太鼓」もそれぞれ[íŋgo:ma]と[íŋgoma],「空腹」もそれぞれ[ínsa:ɾa]と[ínsaɾa]というように，長短どちらも観察される。いずれもその 1 語のみ発音させた場合に長母音で現れる傾向にある。「山」は単数形が/ulupili/ [ulupʰili]で複数形が/inpili/ [impʰili]であるが，複数形は[impʰi:li]のように長く発音されることがあるのに対し，単数形[ulupʰili]ではそれがない。つまり，その音節自体が NCV である場合に，母音の長短の変異が現れている。また/umupunda/「椅子」のように後ろに NCV がある環境でも，[umúpu:nda]と[umúpunda]のように長短どちらの発音も観察された。母音が連続して融合が起こると，後ろに NCV が続く場合や語末では代償延長は起こらず必ず短母音で現れるが，[impʰindi]「時間」や[iŋgoma]「太鼓」，[insaɾa]「空腹」，[impʰili]「山 pl」，[umúpunda]「椅子」の長短の変異についても NCV の存在が影響している可能性が考えられる。

2.5. 表記法

本論文では，音素表記の場合には/　/，音声表記の場合には[　]を用いている。これらの囲みがない場合は，特に断りのない限り，筆者が定めた以下の表記法を用いる。これは，地域共通語であるベンバ語の表記も反映させたものである。

まず，/n/は後ろの子音と同調音点で現れ，唇音の前に現れる鼻音については *m* と表記し，それ以外の子音の前に現れる鼻音は *n* と表記する。例えば/nβ/は *mb*，/nf/は *mf* と表記するが，/ns/は *ns*，/nk/は *nk*，/ng/は *ng* と表記する。[d]は/n/の後ろに歯茎側面接近音/l/が続く場合の異音であり，音韻論的には/nl/であるが，表記は *nd* とする。/ng/については，[ŋ]についてはマインホフの法則が適用された場合の表記を *ng'*とする。マインホフの法則が適用されない場合の表記は *ng* である。/ng/が硬口蓋化を起こす場合，マインホフの法則が適用された場合の[ɲ]は *ny*，とそうでない場合の[ɲdʒ]は *nj* とそれぞれ表記する。硬口蓋化を起こす/s/，/k/，/g/についても，音声の変化を表記に反映させている。例えば[ɕ]は *sh*，[tɕ]は *chi*，[dʒ]は *j* とそれぞれ表記する。/j/については，*y* と表記する。声調については実現形を記している。

第 3 章 名詞類

3.1. 名詞

ランバ語の名詞は，以下のような構造をとる。名詞によっては，冒頭母音の現れないもの，あるいは冒頭母音，名詞接頭辞ともに現れず語幹のみで現れるものもある。

冒頭母音 - 名詞接頭辞 - 語幹

ランバ語では，接頭辞の形によってクラス分類がなされる。これはほかのバントゥ諸語でも同様である。ランバ語では，1～18 までのクラス番号が割り振られる。12, 14 クラスが単数形，13 クラスが複数形であるほかは，原則として奇数番号が単数形，偶数番号が複数形となる。15 クラスはいわゆる不定詞のクラスで，16～18 クラスは場所クラス名詞と呼ばれる。人を表す語では複数形が敬称として使われることがある。以下の表で示しているように，接頭辞の前には各々の接頭辞の母音と同じものが付加され，これは冒頭母音と呼ばれる。1a，2a クラス名詞や 16～18 クラスの場所クラス名詞については，冒頭母音は見られない。名詞クラスの別に呼応して動詞や名詞修飾語の接頭辞が決定される。次頁の表 3-1 で各クラスの冒頭母音と名詞接頭辞，語例を示す。

表 3-1：ランバ語の名詞クラス

クラス番号	冒頭母音 - 名詞接頭辞	語例
1 クラス (3sg)	u-mu-	*úmuntu*「人」
2 クラス (3pl)	a-βa-	*áβantu*「人々」
3 クラス (sg)	u-mu-	*úmuti*「薬」
4 クラス (pl)	i-mi-	*ímiti*「薬」
5 クラス (sg)	i-ø-，i-li-	*íβala*「庭」，*ílinso*「目」
6 クラス (pl)	a-ma-	*amáβala*「庭」，*ámenso*「目」
7 クラス (sg)	i-chi-	*íchiti*「木」
8 クラス (pl)	i-fi-	*ífiti*「木々」
9 クラス (sg)	i-n-	*índume*「弟」
10 クラス (pl)	i-n-	*índume*「弟」
11 クラス (sg)	u-lu-	*ulúcheelo*「朝」
12 クラス (sg)	a-ka-	*akanwa*「口」
13 クラス (pl)	u-tu-	*utunwa*「口」
14 クラス (sg)	u-βu-	uβúshiku「夜」
15 クラス (不定詞)	u-ku-	*ukúshaana*「踊ること」
16 クラス (場所)	pa-	*pámenso*「顔 (目のある所)」
17 クラス (場所)	ku-	*kúndume*「弟によって」
18 クラス (場所)	mu-	*muíβala*「庭で」
ø-接頭辞 (sg)	ø-	*kólwe*「サル」
2a クラス (3pl)	βa-	*βáákolwe*「サル」

以下，クラス番号の若い順に例を挙げながら説明していく。

3.1.1. 1，2 クラス

1 クラスの名詞接頭辞は *mu*-，2 クラスの名詞接頭辞は *βa*-である。冒頭母音はそれぞれ *u*-，*a*-である。

(3-1)	*úmuntu*	*áβantu*	「人」
	u-mu-ntu	**a-βa**-ntu	
	Aug-1NP-person	Aug-2NP-pesron	
(3-2)	*umúkwasu*	*aβákwasu*	「オジ」
	u-mu-kwasu	**a-βa**-kwasu	
	Aug-1NP-uncle	Aug-2NP-uncle	
(3-3)	*umusánkwa*	*aβasánkwa*	「少年」
	u-mu-sankwa	**a-βa**-sankwa	
	Aug-1NP-boy	Aug-2NP-boy	
(3-4)	*úmwana*	*áβaana*	「子供」
	u-mu-ana	**a-βa**-ana	
	Aug-1NP-child	Aug-2NP-child	

動詞の主語接辞，目的語においては，以下のように 1 クラス名詞は 3 人称単数で，2 クラス名詞は 3 人称複数で呼応する。

(3-5)	*umúβyanji*	*aalipúneeme*
	u-mu-βi-anji	**a**-a-li-puman-ile
	Aug-1NP-friend	1SM-PST-ANT-be_stupid-ANTF
	「私の友人は愚かだった」	
(3-6)	*aβáβyanji*	*βaalipúneeme*
	a-βa-βi-anji	**βa**-a-li-puman-ile
	Aug-2NP-friend	2SM-PST-ANT-be_stupid-ANTF
	「私の友人たちは愚かだった」	

3.1.2. 3，4 クラス

3 クラスの名詞接頭辞は 1 クラスと同型で *mu*-であるが，これに対応する複数形の 4 クラス名詞接頭辞は *mi*-である。冒頭母音はそれぞれ *u*-，*i*-となる。

(3-7)	*úmuti*	*ímiti*	「薬」
	u-mu-ti	**i-mi**-ti	
	Aug-3NP-medicine	Aug-4NP-medicine	
(3-8)	*umúpaka*	*imípaka*	「境界」
	u-mu-paka	**i-mi**-paka	
	Aug-3NP-border	Aug-4NP-border	
(3-9)	*umulilo*	*imililo*	「火」
	u-mu-lilo	**i-mi**-lilo	
	Aug-3NP-fire	Aug-4NP-fire	
(3-10)	*úmwaka*	*ímiaka*，*ímyaaka*	「年」
	u-mu-aka	**i-mi**-aka	
	Aug-3NP-year	Aug-4NP-year	

3.1.3. 5，6 クラス

5 クラスの接頭辞は基本的に冒頭母音 *i*-と接頭辞の ø-で現れるが，(3-12) や (3-13) のように語幹が母音始まりの場合は接頭辞 *li*-が現れる。複数形を表す 6 クラスの接頭辞は *ma*-である。6 クラスの接頭辞 *ma*-は，後述するようにほかの名詞クラスの複数形を作る際にも用いられることがある。*ibúuku*「本」や *ióófishi*「オフィス」ように借用語が入ることの多いクラスでもある。なお *ióófisi*「オフィス」は語幹が母音始まりであるが接頭辞は *li*-ではなく ø-である。

(3-11)	*íβala*	*amáβala*	「庭」
	i-ø-βala	**a-ma**-βala	
	Aug-5NP1-garden	Aug-6NP-garden	
(3-12)	*isako*	*amasako*	「毛皮」
	i-ø-sako	**a-ma**-sako	
	Aug-5NP1-fur	Aug-6NP-fur	
(3-12)	*íliino*	*ámeeno*	「歯」
	i-li-ino	**a-ma**-ino	
	Aug-5NP2-tooth	Aug-6NP-tooth	

(3-13)	*ílinso*	*ámenso*	「目」
	i-li-nso	**a-ma**-inso	
	Aug-5NP2-eye	Aug-6NP-eye	
(3-14)	*ibúuku*	*amabúuku*	「本」
	i-ø-buuku	**a-ma**-buuku	
	Aug-5NP1-book	Aug-6NP-book	
(3-15)	*ióofishi*	*amaóófishi*	「オフィス」
	i-ø-oofishi	**a-ma**-oofishi	
	Aug-5NP1-office	Aug-6NP-office	

6 クラスのみ，すなわち対応する 5 クラスの名詞がないものもある。

(3-16)	*ámate*	「唾液」
	a-ma-te	
	Aug-6NP-saliva	
(3-17)	*amapésa*	「小銭」
	a-ma-pesa	
	Aug-6NP-coin	
(3-18)	*amáano*	「知恵」
	a-ma-ano	
	Aug-6NP-wisdom	

3.1.4. 7，8 クラス

7 クラスの接頭辞は *chi-*，8 クラスの接頭辞は *fi-*である。冒頭母音はどちらも *i-*である。

(3-19)	*íchiti*	*ífiti*	「木」
	i-chi-ti	i-fi-ti	
	Aug-7NP-tree	Aug-8NP-tree	

(3-20)	*ichínani*	*ifínani*	「肉」
	i-chi-nani	i-fi-nani	
	Aug-7NP-meat	Aug-8NP-meats	
(3-21)	*ichifushi*	*ifífushi*	「肩」
	i-chi-fushi	**i-fi**-fushi	
	Aug-7NP-shoulder	Aug-8NP-shoulders	
(3-22)	*íchuuni*	*ífyuuni*	「鳥」
	i-chi-uni	**i-fi**-uni	
	Aug-7NP-bird	Aug-8NP-birds	

これらの接頭辞は, 以下の例のように指大辞としても用いられる。*ichíshiβa*／*ifíshiβa*「海」は，それぞれ冒頭母音と接頭辞ごと元の 5，6 クラスから 7，8 クラスのものに交替しており,「岩」の *ibwe*「岩」も冒頭母音と接頭辞ごと 7 クラスのものに交替している。それに対して「岩」の複数形 *amabwe* は 6 クラスの冒頭母音 *a*-のみが 8 クラスの名詞接頭辞 *fi*-と交替し，二重接頭辞となっている。

(3-23)	*ichíshiβa*	*ifíshiβa*	「海」
	i-chi-shiβa	**i-fi**-shiβa	
	Aug-7NP-sea	Aug-8NP-sea	
cf.	*íshiβa*	*amáshiβa*	「湖」
	i-ø-shiβa	a-ma-shiβa	
	Aug-5NP1-lake	Aug-6NP-lake	
(3-24)	*itɕibwe*	*fi:mabwe*	「岩」
	i-chi-bwe	**fi-ma**-bwe	
	Aug-7NP-rock	8NP-6NP-rock	
cf.	*ibwe*	*amabwe*	「岩」
	i-ø-bwe	a-ma-bwe	
	Aug-5NP1-stone	Aug-6NP-stone	

3.1.5.　9，10 クラス

接頭辞は，9，10 クラスともに鼻音 *n*-であり，語幹頭の子音の調音点に同化する。語幹が鼻音で始まる場合は，(3-27) のように接頭辞の鼻音と融合する。冒頭母音は *i*-である。基本的に単複同形であるが, (3-27) のように 6 クラスが複数形として対応する場合もある。

(3-25)	*ímbongolo*	*ímbongolo*	「ロバ」
	i-n-bongolo	**i-n**-bongolo	
	Aug-9NP-donkey	Aug-10NP-donkey	
(3-26)	*ínsofu*	*ínsofu*	「ゾウ」
	i-n-sofu	**i-n**-sofu	
	Aug-9NP-elephant	Aug-10NP-elephant	
(3-27)	*ínika*	*amánika*	「川」
	i-n-nika	**a-ma**-nika	
	Aug-9NP-river	Aug-6NP-river	

語幹が母音始まりの場合，名詞接頭辞 *n*-の後ろに *g* が挿入される。この *ng* の音価は，始まりの母音や音節構造の影響を受け変化して現れる。語幹頭が *e*，*a*，*o*，*u* の場合は *ng* [ŋɡ] で現れるが，*i* の場合硬口蓋化が起こり *nj* [ɲdʒ]となる (Doke 1922:22，Doke 1938:74)。語幹に NCV が含まれている場合はマインホフの法則が起こり (2.4.3.1 を参照のこと)，それぞれ *ng'* [ŋ]，*ny* [ɲ]となる (cf. Doke 1922:22，Doke 1938:75)。

(3-28)	*ingwena*	「ワニ」
	i-n-ena	
	Aug-9NP-crocodile	
(3-29)	*íng'umba*	「不妊の女性」
	i-n-umba	
	Aug-9NP-barren_woman	
(3-30)	*ínyimbo*	「歌」
	i-n-imbo	
	Aug-10NP-song	

3.1.6.　11 クラス

名詞接頭辞は *lu*-で冒頭母音は *u*-である。6 クラス名詞や 10 クラス名詞が複数形として対応する。

(3-31)	*úlupi*	*ámapi*	「てのひら」
	u-**lu**-pi	**a**-**ma**-pi	
	Aug-11NP-palm	Aug-6NP-palm	
(3-32)	*ulúshimu*	*ínshimu*	「ミツバチ」
	u-**lu**-shimu	**i**-**n**-shimu	
	Aug-11NP-honey_bee	Aug-10NP-honey_bee	
(3-33)	*ulupili*	*impili*	「山」
	u-**lu**-pili	**i**-**n**-pili	
	Aug-11NP-mountain	Aug-10NP-moutain	

3.1.7.　12，13 クラス

12 クラスの名詞接頭辞は *ka*-，13 クラスの名詞接頭辞は *tu*-である。冒頭母音はそれぞれ *a*-，*u*-である。奇数が単数形で偶数が複数形となるほかのクラスとは異なり，12 クラスが単数形で 13 クラスが複数形である。

(3-34)	*akanwa*	*utunwa*	「口」
	a-**ka**-nwa	**u**-**tu**-nwa	
	Aug-12NP-mouth	Aug-13NP-mouth	
(3-35)	*akámbili*	*utúmbili*	「ナツメヤシ」
	a-**ka**-mbili	**u**-**tu**-mbili	
	Aug-12NP-date_palm	Aug-13NP-date_palm	

以下のように指小辞としても用いられる。冒頭母音と名詞接頭辞ごと 12 あるいは 13 クラス名詞のものと交替する。

(3-36)	*akáshila*	*utúshila*	「小道」
	a-ka-shila	**u-tu**-shila	
	Aug12NP-path	Aug-13NP-path	
cf.	*ínshila*	*ínshila*	「道」
	i-n-shila	i-n-shila	
	Aug-9NP-path	Aug-10NP-path	
(3-37)	*ákati*	*útuti*	「棒」
	a-ka-ti	**u-tu**-ti	
	Aug-12NP-stick	Aug-13NP-stick	
cf.	*íchiti*	*ífìti*	「木」
	i-chi-ti	i-fi-ti	
	Aug-7NP-tree	Aug-8NP-tree	

3.1.8. 14 クラス

名詞接頭辞は *βu-*，冒頭母音は *u-*。複数形は 6 クラス名詞で表される。

(3-38)	*úβuta*	*ámata*	「弓」
	u-βu-ta	**a-ma**-ta	
	Aug-14NP-bow	Aug-6NP-bow	
(3-39)	*uβúlwele*	*amálwele*	「病気」
	u-βu-lwele	**a-ma**-lwele	
	Aug-14NP-sickness	Aug-6NP-sickness	
(3-40)	*úbwato*	*ámaato*	「カヌー」
	u-βu-ato	**a-ma**-ato	
	Aug-14NP-canoe	Aug-6NP-canoe	

3.1.9. 15 クラス

15 クラスの名詞接頭辞は *ku-*，冒頭母音は *u-*である。複数形としては 6 クラス名詞が用いられるが，このクラスに属する名詞は動詞語幹と共起した不定詞が主で，ほかに「脚」や「耳」，「腕」など少数の例がある (3-41) ～ (3-43)。

(3-41)	*úkuulu*	*ámoolu*	「脚」
	u-ku-ulu	**a-ma**-ulu	
	Aug-15NP-leg	Aug-6NP-leg	
(3-42)	*úkutwi*	*ámatwi*	「耳」
	u-ku-twi	**a-ma**-twi	
	Aug-15NP-ear	Aug-6NP-ear	
(3-43)	*ukúβoko*	*amáβoko*	「腕」
	u-ku-βoko	**a-ma**-βoko	
	Aug-15NP-arm	Aug-6NP-arm	
(3-44)	*ukúfika*		「到着すること」
	u-ku-fik-a		
	Aug-INF-arrive-BF		
(3-45)	*ukwásuka*		「答えること」
	u-ku-asuk-a		
	Aug-INF-answer-BF		
(3-46)	*úkuya*		「行くこと」
	u-ku-i-a		
	Aug-INF-go-BF		
(3-47)	*ukúfimba*		「腫れること」
	u-ku-fimb-a		
	Aug-INF-get_swoolen-BF		
(3-48)	*ukubwela*		「戻ること」
	u-ku-bwel-a		
	Aug-INF-return-BF		

3.1.10. 16，17，18 クラス

16 クラスの名詞接頭辞は *pa-*，17 クラスの名詞接頭辞は *ku-*，18 クラスの名詞接頭辞は *mu-*である。これらは場所クラス名詞と呼ばれ，もともとこれらのクラスに属するという名詞はほとんどない。名詞の冒頭母音とこれらの場所クラス名詞接頭辞が交替し，二重接頭

辞となったものがよく観察される。ただし冒頭母音が *i*-，名詞接頭辞が ø-である 5 クラスでは，冒頭母音が交替するのではなく，(3-52) のように場所クラス名詞の接頭辞がそのまま付加される。

(3-49) *pámenso* 「顔 (目のあるところ)」
pa-ma-inso
16NP-6NP-eye
cf. *ámenso* 「目」
a-ma-inso
Aug-6NP-face
(3-50) *kucháalo* 「国で／から」
ku-chi-alo
17NP-7NP-earth
cf. *icháálo* 「陸，土地」
i-chi-alo
Aug-7NP-land
(3-51) *múnshila* 「道中」
mu-n-shila
18NP-9NP-path
cf. *ínshila* 「道」
i-n-shila
Aug-9NP-path
(3-52) *muíβala* 「庭で」
mu-i-ø-βala
18NP-Aug-5NP1-garden
cf. *íβala* 「庭」
i-ø-βala
Aug-5NP1-garden

6 クラス名詞や 11，14 クラス名詞の中には副詞として働くものが見受けられる。これに

ついては後述する。また，語形変化についても別の章で述べる。

3.1.11. そのほかの名詞

単数形において，冒頭母音，名詞接頭辞ともに現れない名詞がある。複数形では 2 クラスの接頭辞 *βa-*が冒頭母音なしで現れる。*βa-*は長母音で実現されることが多いが，*ndokotaala*「医者」のように直後の音節が NCV である場合は短母音で実現される。これは母音融合が起きた直後の音節が NCV である場合に長音化しなくなる現象と同じである。よって基底形は *βa-*であると考えられる。

(3-53)	*kaluβula*		「血」
	ø-kaluβula		
	NUL-blood		
(3-54)	*kambwanga*	βaakambwanga	「人形」
	ø-kambwanga	**βa**-kambwanga	
	NUL-doll	2NP-doll	
(3-55)	*ndók(o)taala*	*βandók(o)taala*	「医者」
	ø-dokotaala	**βa**-ndokotaala	
	NUL-doctor	2NP-doctor	

3.2. 名詞修飾語

ランバ語の名詞修飾語も，接頭辞と語幹によって構成され (一部の指示詞を除く)，修飾語によっては冒頭母音も現れる。名詞修飾語は, 原則として被修飾名詞の後ろに置かれる。接頭辞は被修飾名詞の名詞クラスに呼応したものが付けられる。接頭辞のパターンとして，1 クラスのみ名詞接頭辞をとり，ほかのクラスでは動詞の主語接辞[4]をとる混合パターン[5]と，主語接辞をとるパターンの 2 種類がある。どちらのパターンをとるのかは修飾語によって異なる。混合パターンをとるのは *tali*「長い，高い」，*kulu*「大きい，偉大な」などの形容詞で，主語接辞をとるのは数量に関わる *onse*「すべての」などの修飾語や，数詞，所有詞，属辞，指示詞である。次頁の表 3-2 は，2 パターンの修飾語おける各クラスの呼応を示したものである。各クラスの名詞に呼応したそれぞれの接頭辞を次頁の表 3-2 に示す。*tali*「長い，高い」，*mbi*「ほかの」をそれぞれの例として挙げている。混合パターンでは，修飾用法では原則として表中の形，すなわち冒頭母音を伴った形で現れるが，叙述用法では冒頭母音がない形で現れる。一方，主語接辞のみをとるパターンでは修飾用法と叙述用法の区別なく同じ形で現れる。

3.2.1. 形容詞

ランバ語の形容詞は, ほかのバントゥ諸語と同様, あまり数は多くない。*-kulu*「大きい」，*-ipi*「小さい」，*-tali*「長い，高い」，*-inine*「太い」，*-pamfi*「太い」などが，1 クラスのみ名詞接頭辞をとり，ほかのクラスは主語接辞をとる。

(3-56)	*umúβyanji*	*umúkulu*
	u-mu-βi-anji	**u-mu-kulu**
	Aug-1NP-friend-1sgPOSS	Aug-1NP-old
	「年をとった友人」	
(3-57)	*aβáβyanji*	*aβákulu*
	a-βa-βi-anji	**a-βa**-kulu
	Aug-2NP-friend-1sgPOSS	Aug-2SM-old
	「年をとった／偉大な友人」	

[4] 動詞の主語接辞については 4.1 で改めて述べる。
[5] Doke (1922，1938) では 1 クラス以外に 3，4，クラスも名詞接頭辞をとると報告されている (Doke 1922:37，Doke 1938:142-143)。

表 3-2：形容詞における各クラスの呼応パターン

クラス番号	Aug-NP-	*tali*「長い」	主語接辞 -	*mbi*「ほかの」
1 クラス	u-mu-	*umútali*	u-	*umbi*
2 クラス	a-βa-	*aβátali*	βa-	*βambi*
3 クラス	u-mu-	*uútali*	u-	*umbi*
4 クラス	i-mi-	*iítali*	i-	*imbi*
5 クラス	i-ø-, i-li-	*ilítali*	li-	*limbi*
6 クラス	a-ma-	*aátali*	a-	*ambi*
7 クラス	i-chi-	*ichítali*	chi-	*chimbi*
8 クラス	i-fi-	*ifítali*	fi-	*fimbi*
9 クラス	i-n-	*iítali*	i-	*imbi*
10 クラス	i-n-	*iítali*	shi-	*shimbi*
11 クラス	u-lu-	*ulútali*	lu-	*lumbi*
12 クラス	a-ka-	*akátali*	ka-	*kambi*
13 クラス	u-tu-	*utútali*	tu-	*tumbi*
14 クラス	u-βu-	*uβútali*	βu-	*βumbi*
15 クラス	u-ku-	*ukútali*	ku-	*kumbi*
16 クラス	pa-	*apátali*	pa-	*pambi*
17 クラス	ku-	*ukútali*	ku-	*kumbi*
18 クラス	mu-	*umútali*	mu-	*mumbi*

(3-58) *úmushi* *uúkulu*

u-mu-shi **u-u-kulu**

Aug-3NP-village Aug-3SM-big

「都市 (大きい村)」

(3-59) *ífyuuni* *ifíkulu*

i-fi-uni **i-fi**-kulu

Aug-8NP-bird Aug-8SM-big

「大きな鳥」

(3-60)	*impilí*	*ishítali*
	i-n-pili	**i-shi-tali**
	Aug-10NP-mountain	Aug-10SM-long
	「高い山々」	

(3-61)	*índume*	*shanji*	*íshiipi*
	i-n-lume	shi-anji	**i-shi-ipi**
	Aug-10NP-brother	10SM-1sgPOSS	Aug-10SM-small
	「背の低い私の弟たち」		

3.2.2. 数量に関する修飾語

表で示した*-mbi*「ほかの」のほか，*-onse*「すべての」などは 1 クラス含めすべてのクラスで主語接辞をとる。冒頭母音は現れない。

(3-62)	*ínama*	*shonse*
	i-n-nama	shi-**onse**
	Aug-10NP-animal	10SM-all
	「すべての動物」	

なお，*-mbi*「ほかの」は前置修飾で現れることもある。

(3-63)	*shimbí*	*nshikú*	*tatupéndapo*
	shi-**mbi**	i-n-shiku	ta-tu-ø-pend-a-po
	10SM-other	Aug-10NP-day	NEG-1plSM-null-read-BF-16LOC
	「私たちはほかの日には本を読まない」		

3.2.3. 数詞

数詞も以下に示しているように主語接辞を接頭辞としてとる。

(3-64)	*índume*	*ímo*
	i-n-lume	i-mo
	Aug-9NP-brother	9SM-one
	「ひとりの弟」	
(3-65)	*índume*	*shiβíli*
	i-n-lume	shi-βili
	Aug-10NP-brother	10SM-two
	「2 人の弟」	
(3-66)	*índume*	*shitátu*
	i-n-lume	shi-tatu
	Aug-10NP-brother	10SM-three
	「3 人の弟」	
(3-67)	*índume*	*shíne*
	i-n-lume	shi-ne
	Aug-10NP-brother	10SM-four
	「4 人の弟」	
(3-68)	*índume*	*shisánu*
	i-n-lume	shi-sanu
	Aug-10NP-brother	10SM-five
	「5 人の弟」	

6 以降は，SM-*sanu na* SM-*mo*「5 足す 1」，SM-*sanu na* SM-*βili*「5 足す 2」となる。足される方の 1 や 2 も前の名詞と呼応する。10 は *ikumi* であり，呼応はしない。11 以降は *ikumi na* SM-*mo*「10 足す 1」…と現れる。足される方の 1 は前の名詞と呼応する。例えば「7」は以下のように表される。

(3-69)	*ínkumbu*	*shisánu*	*na*	*shiβíli*	*shaa*	*βámalía*
	i-n-kumbu	shi-tatu	**na**	shi-**βili**	shi-a	βa-Malia
	Aug-10NP-mercy	10SM-five	CONJ	10SM-two	10SM-CONN	2NP-Maria
	「マリアの 7 つの悲しみ」					

20 や 30 を表す固別の語はなく，*amákumi aβili*「2 つの 10」や *amákumi atatu*「3 つの 10」と表される。21 や 31 以降は，20 あるいは 30 足す 1，20 あるいは 30 足す 2…となり，例えば 22 は *amákumi aβíli na* SM-*βili*「2 つの 10 足す 2」である。*amakumi* は前の名詞と呼応しないが，「足す 2」の *βili* は前の名詞と呼応する。以下 8 クラス名詞を修飾した場合の例を示す。

(3-70)	*amákumi*	*aβíli*	*ná*	*fiβíli*
	a-ma-kumi	a-βili	na	**fi**-βili
	Aug-6NP-ten	6SM-two	CONJ	8SM-two
	「22」			

3.2.4. 所有詞

所有詞がとる接頭辞も主語接辞である。ランバ語の所有詞の語幹と呼応パターンは次頁の表 3-3 の通りである。語幹はすべて母音始まりであるため，接頭辞の母音と縮約を起こす。縮約のパターンについては 2.4.1 を参照のこと。

(3-71)	*índume*	*shanji*
	i-n-lume	shi-**anji**
	Aug-10NP-brother	10SM-1sgPOSS
	「私の弟たち」	
(3-72)	*ichíβusa*	*chooβe*
	i-chi-βusa	chi-**oβe**
	Aug-7NP-friend	7SM-2plPOSS
	「あなたの友人」	
(3-73)	*áβana*	*βaakwe*
	a-βa-na	βa-**akwe**
	Aug-2NP-child	2SM-3sgPOSS
	「その人の子供たち」	

表 3-3：ランバ語の所有詞

クラス番号	1sg -anji	1pl -esu	2sg -oβe	2pl -enu	3sg -akwe	3pl -aβo
1 クラス	*wanji*	*weesu*	*wooβe*	*weenu*	*waakwe*	*waaβo*
2 クラス	*βanji*	*βeesu*	*βooβe*	*βeenu*	*βaakwe*	*βaaβo*
3 クラス	*wanji*	*weesu*	*wooβe*	*weenu*	*waakwe*	*waaβo*
4 クラス	*yanji*	*yeesu*	*yooβe*	*yeenu*	*yaakwe*	*yaaβo*
5 クラス	*lyanji*	*lyeesu*	*lyooβe*	*lyeenu*	*lyaakwe*	*lyaaβo*
6 クラス	*anji*	*eesu*	*ooβe*	*eenu*	*aakwe*	*aaβo*
7 クラス	*chanji*	*cheesu*	*chooβe*	*cheenu*	*chaakwe*	*caaβo*
8 クラス	*fyanji*	*fyeesu*	*fyooβe*	*fyeenu*	*fyaakwe*	*fyaaβo*
9 クラス	*yanji*	*yeesu*	*yooβe*	*yeenu*	*yaakwe*	*yaaβo*
10 クラス	*shanji*	*sheesu*	*shooβe*	*sheenu*	*shaakwe*	*shaaβo*
11 クラス	*lwanji*	*lwesu*	*looβe*	*lwenu*	*lwakwe*	*lwaβo*
12 クラス	*kanji*	*keesu*	*kooβe*	*keenu*	*kaakwe*	*kaaβo*
13 クラス	*twanji*	*twesu*	*tooβe*	*twenu*	*twakwe*	*twaβo*
14 クラス	*bwaji*	*βeesu*	*βooβe*	*bwenu*	*bwakwe*	*bwaβo*
15 クラス	*kwanji*	*kwesu*	*kooβe*	*kwenu*	*kwakwe*	*kwaβo*
16 クラス	*panji*	*peesu*	*pooβe*	*peenu*	*paakwe*	*paaβo*
17 クラス	*kwanji*	*kwesu*	*kooβe*	*kwenu*	*kwakwe*	*kwaβo*
18 クラス	*mwanji*	*mwesu*	*mooβe*	*mwenu*	*mwakwe*	*mwaβo*

(3-74) *umwénsu* *weesu*

u-mu-ensu u-**esu**

Aug-1NP-guest 1SM-1plPOSS

「私たちの客」

(3-75) *ichíβusa* *cheenu*

i-chi-βusa chi-**enu**

Aug-7NP-friend 7SM-2plPOSS

「あなたたちの友人」

(3-76) *aβákwasu* *βááβo*

a-βa-kwasu βa-**aβo**

Aug-2NP-brother 9SM-1sgPOSS

「その人たちの弟たち」

例外的なものとして，*úmuβi*，*áβaβi*「友人」は，以下のように所有詞の語幹がそのまま接頭辞なしで後続する。

(3-77) *umúβyanji*

u-mu-βi-**anji**

Aug-1NP-friend-1sgPOSS

「私の友人」

(3-78) *umúβyaaβo*

u-mu-βi-**aβo**

Aug-1NP-friend-3plPOSS

「その人たちの友人」

「父」「母」は，所有者の人称によって以下のように語幹そのものが異なった形態で現れる。

(3-79) *βáámaama*

βa-**maama**

2NP-mother.1sg/plPOSS

「私の／私たちの母」

(3-80) *βáánoko*

βa-**noko**

2NP-mother.2sg/plPOSS

「あなた／あなたたちの母」

(3-81) *βáányina*

βa-**nyina**

2NP-mother/3sg/plPOSS

「その人／その人たちの母」

(3-82) *ndípalire* *βáataata*

n-ø-li-pal-ile βa-**taata**

1sgSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.1sg/plPOSS

「私は私の父に似ている」

(3-83) *tulipalilé* *βáátaata*

tu-ø-li-pal-ile βa-**taata**

1plSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.1sg/plPOSS

「私たちは私たちの父に似ている」

(3-84) *ulípalilé* *βáawiiso*

u-ø-li-pal-ile βa-**wiiso**

2sgSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.2sg/plPOSS

「あなたはあなたの父に似ている」

(3-85) *mulipalilé* *βááwiiso*

mu-ø-li-pal-ile βa-**wiiso**

2plSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.2sg/plPOSS

「あなたたちはあなたたちの父に似ている」

(3-86) *Yúuka* *alipalilé* *βááwiishi*

Yuka a-ø-li-pal-ile βa-**wiishi**

Yuka 3sgSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.3sg/pl

「その人は自分の父に似ている」

(3-87) *βalipalilé* *βááwiishi*

βa-ø-li-pal-ile βa-**wiishi**

3plSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.3sg/pl

「その人たちは自分たちの父に似ている」

3.2.5. 属辞

以下の (3-88) のように,「…の〜」と表現する場合の「の」は，ランバ語では属辞によって表される。属辞の形式は，主語接辞-*a* である。ここでも母音の組み合わせによって融合が起こったり, 渡り音が現れたりする。後ろに来る被修飾名詞は冒頭母音のない形となる。後ろが NCV (つまり 9/10 クラス名詞) である場合，先述した音韻規則にしたがって属辞は

短母音で実現されるが，子音と母音 *u* で構成される接頭辞では，後ろに来る語の音節構造による長さの違いはあまり見られない。それぞれのクラスに呼応した形式は，表 3-4 に示しているとおりである。

表 3-4：ランバ語の属辞

クラス番号	主語接辞-a
1 クラス	*waa*
2 クラス	*βaa*
3 クラス	*waa*
4 クラス	*yaa*
5 クラス	*lyaa*
6 クラス	*aa*
7 クラス	*chaa*
8 クラス	*fyaa*
9 クラス	*yaa*
10 クラス	*shaa*
11 クラス	*lwa*
12 クラス	*kaa*
13 クラス	*twa*
14 クラス	*bwa*
15 クラス	*kwa*
16 クラス	*paa*
17 クラス	*kwa*
18 クラス	*mwa*

(3-88) *ifiseepo* *fyaa* *chiβusa* *chanji*

i-fi-seepo fi-**a** chi-βusa chi-anji

Aug-8NP-fruits 8SM-CONN 7NP-friend 7SM-1sgPOSS

「私の友人の果物」

人称以外のものが所有しているものを表現するときは，被修飾名詞と呼応した属辞に主語接辞が*-ko* をとった形式か，あるいは属辞に 3 人称の指示詞が後続した形で表される。属辞に後続する形式や指示詞は，その所有者である名詞が属するクラスに呼応する。Doke (1922) は，所有詞を使っても非文になるということではなく，選択には個人差が見られると述べているが (Doke 1922:46)，以下のようにこの所有表現を使わなければ誤読が起こることもある。

(3-89)

ínkalamu	*uluchéelo*	*yaachiβútusha*	
i-n-kalamu	u-lu-cheelo	i-achi-βutuk-i-a	
Aug-9NP-lion	Aug-11NP-morning	9SM-HOD.PST-run-CAUS1-BF	
chingalika	*umúlandu*	*wáá*	*βaana*
ø-chingalika	u-mu-landu	u-a	βa-ana
1aNP-zebra	Aug-3NP-reason	3SM-CONN	2NP-child
βaa	*íko*		
βa-a	**i-ko**		
2SM-CONN	9SM-17LOC		

「今朝，ライオンは自分の子のためにシマウマを追いかけた」

(3-89) *βaana βaa íko*「それの子」の *íko*「それの」は，ライオンを受けて 9 クラス接頭辞 *i-* をとっている。つまり「ライオンの子」という意味になっている。ここで所有詞 *βaakwe* を用いると，以下のように「ライオンの子」ではなく，「キリンの子」とだという解釈しかできなくなる。

(3-90)

ínkalamu	*uluchéelo*	*yaachiβútusha*		
i-n-kalamu	u-lu-cheelo	i-achi-βutuk-i-a		
Aug-9NP-lion	Aug-11NP-morning	9SM-HOD.PST-run-CAUS1-BF		
chingalika	*umúlandu*	*wáa*	*βaana*	*βáakwe*
ø-chingalika	u-mu-landu	u-a	βa-ana	**βa-akwe**
1aNP-zebra	Aug-3NP-reason	3SM-CONN	2NP-child	2SM-3sgPOSS

「ライオンはシマウマの子のためにシマウマを追いかけた」

3.2.6. 指示詞

ランバ語の近，遠のパターンは全部で 4 種類ある。湯川 (1992) では，近称に 2 種類，続いて中称と遠称がそれぞれ 1 種類あるとされている (湯川 1992:721)。近称①は主語接辞-*no* で構成され，近称②は冒頭母音-主語接辞で構成される。中称は主語接辞の母音-主語接辞-*o* で，遠称は主語接辞-*lya* で構成される。次頁の表にすべてクラスの呼応を示す。

表 3-5：ランバ語の指示詞

クラス番号	近称① SM-no	近称② Aug-SM	中称 Aug-SM-o	遠称 SM-lya
1 クラス	*uno*	*uyu*	*uyo*	*ulya*
2 クラス	*βano*	*aβa*	*aβo*	*βalya*
1a クラス	*uno*	*uyu*	*uyo*	*ulya*
2a クラス	*βano*	*aβa*	*aβo*	*βalya*
3 クラス	*uno*	*uyu*	*uyo*	*ulya*
4 クラス	*ino*	*iyi*	*iyo*	*ilya*
5 クラス	*lino*	*ili*	*ilo*	*lilya*
6 クラス	*ano*	*aya*	*ayo*	*alya*
7 クラス	*chino*	*ichi*	*icho*	*chilya*
8 クラス	*fino*	*ifi*	*ifyo*	*filya*
9 クラス	*ino*	*iyi*	*iyo*	*ilya*
10 クラス	*shino*	*iyi*	*isho*	*shilya*
11 クラス	*luno*	*ulu*	*ulo*	*lulya*
12 クラス	*kano*	*aka*	*ako*	*kalya*
13 クラス	*tuno*	*utu*	*uto*	*tulya*
14 クラス	*βuno*	*uβu*	*uβo*	*βulya*
15 クラス	*kuno*	*uku*	*uko*	*kulya*
16 クラス	*pano*	*apa*	*apo*	*palya*
17 クラス	*kuno*	*uku*	*uko*	*kulya*
18 クラス	*muno*	*umu*	*umo*	*mulya*

名詞を修飾するだけでなく，名詞と同じように自立する。名詞を修飾する場合，後置修飾しているケースもいくつか見られるが (cf. Doke 1938:117)，ほかの修飾語と違って基本的に前置修飾である。

3.2.6.1. 近称①SM-*no*

SM-*no* によって表される近称①は，Doke (1922，1938) ではそれぞれ「話し手が持っているか，話し手に非常に近いところにある (Doke 1922:50)」，「話し手の近くにあり，手で (つまりジェスチャーで) 指して示す場合に使われる (Doke 1938:123)」とされる。以下のように時間，場所を示す表現に多い。

(3-91)	*naalí*	*naaβúuka*	*βunó*	*βukúumo*
	n-a-li	n-a-βuuk-a	**βu-no**	βu-kuumo
	1sgSM-PST-be	1sgSM-PST-wake_up-FV	14SM-DEM.PROX	14NP-now

「私はたった今起きた」

(3-92)	*umwénsu*	*né*	*mbuwa*	*aatɕíisa*
	u-mu-ense	ne	n-bwa	a-achi-is-a
	Aug-1NP-guest	CONJ	9NP-dog	3sgSM-HOD.PST-come-BF
	kuno			
	ku-no			
	17SM-DEM.PROX			

「その客は犬と一緒にここに来た」

3.2.6.2. 近称②Aug-SM

Aug-SM によって表される近称②は，Doke (1922，1938) ではそれぞれ「さほど話し手に近くないものを表す(Doke 1922:52)」，「話し手の比較的近くにあるものを指したり，すでに言及されているものを指す (Doke 1938:117)」とされている。

(3-93)	*ulú*	*ulucheche*	*lwafyaalwá*	*leelo*
	u-lu	u-lu-cheche	lu-a-fyaalw-a	leelo
	Aug-11SM	Aug-11NP-baby	11SM-PST-be_born-FV	today

「この赤ん坊は今日生まれた」

(3-94) *ilí* *ikeléesha* *liliwiilé* *impindí*

i-li i-ø-keleesha li-ø-li-w-ile i-n-pindi

Aug-5SM Aug-5NP1-church 5SM-PRS-ANT-collapse-ANTF Aug-9NP-time

yaa *kúti* *úbwingí*

i-a ku-ti u-βu-ingi

9SM-CONN 15NP-COMP Aug-14NP-many

ukúfika *ná* *βukúumo*

u-ku-fik-a na βu-kuumo

Aug-INF-arrive-BF CONJ 14NP-now

「この教会は今までに何度も崩壊している」

動詞の章で述べるが，近称②は関係節を導く機能もある。さらに，5 クラスと 11 クラスの近称②には時を表す副詞節を導く機能もある。

近称②と近称①は, どちらも話者に近いものを指すが, 近称①は話者に近いだけでなく, さらにそれを指し示すような (場合によってはジェスチャーも付け加えて) 場合に用いられる (Doke 1938:123)。一方で近称②は「比較的話者に近いものを指す (Doke 1938:117)」程度であり, 湯川では「比較的話者に近くないものを指す」と述べられている (湯川 1992:721)。これらは時間表現にも用いられるが，近称①＋「週／月／年」は「今週，今月，今年」を表すのに対し，近称②＋「週／月／年」は「先週 (あるいは来週)／先月(あるいは来月)／昨年(あるいは来年)」を表す。主語接辞に-no がつく近称①の方が近称②よりも近接性が高いと言える。

3.2.6.3. 中称 Aug-SM-*o*

近称②に接尾辞-*o* がつくことによって表される中称は，Doke (1922，1938) ではそれぞれ「話者から比較的遠いものを指す (Doke 1922:54)」，「話し手から比較的遠くにあるものを指したり，すでに言及されていることやすでに起こった出来事を指す (Doke 1938:120-121)」とされている。後置修飾で現れることが多い。聖書ではみられたが，筆者のデータではあまり現れなかった。

(3-95)	*pakúti*	*ukúβiifya*	*kwa*
	pakuti	u-ku-βiip-i-a	ku-a
	because	Aug-INF-spoil-CAUS1-BF	15SM-CONN
	βantu	*áβo*	
	βa-ntu	**a-βa-o**	
	2NP-person	Aug-2SM-MESIO	

kuliishilé	*pámenso*	*ánji*
ku-ø-li-is-ile	pa-ma-inso	a-nji
15SM-PRS-ANT-come-ANTF	16NP-6NP-eye	6SM-1sgPOSS

「(立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。) 彼らの悪が私の前に上って来たからだ。」(Jonah 1:2 より抜粋)

動詞の章で例を挙げるが，16 クラスの *apo* も近称②の *apa* と同様，時を表す副詞句を導く機能がある。

3.2.6.4. 遠称 SM-*lya*

主語接辞に-*lya* がつくことによって表される遠称は，Doke (1922，1938) ではそれぞれ「話し手と聞き手両方から遠いところにあるものを示す (Doke 1922:55)」，「話し手から遠いところにあるが，かろうじて視界に入っており，ジェスチャーで指し示せる場所にあるものを示す (Doke 1938:126)」とされている。

(3-96)	*βóneeni*	*íŋkalámu*	*ilya*	*ilíleele*
	βon-a-eni	i-n-kalamu	**i-lya**	i-ø-li-laal-ile
	see-BF-PL	Aug-9NP-lion	9SM-DEM.REM	9SM-PRS-BE-fall_asleep-ANTF

{サファリツアー中に遠くにライオンを発見して}

「あのライオンを見て！眠ってる」

以下のように，その場にはないが聞き手と話し手が共有している存在について言及しているときにも遠称 SM-*lya* が用いられている。

(3-97)	*lilyá*	*ikeléeɕa*	*lyaalukuwa*	
	li-lya	i-kleesha	li-a-li	u-ku-w-a
	5SM-DEM.REM	5NP-church	5SM-PST-be	Aug-INF-collapse-BF
	paníini	*paníini*		
	pa-niini	pa-niini		
	16SM-little	16SM-little		

「あの教会は少しずつ壊れていっていた」

3.2.7. 名詞修飾語が複数並ぶとき

複数の名詞修飾語によって名詞を修飾する場合，所有詞が含まれる場合は所有詞が名詞の直後に置かれる。

(3-98)	a.	*amabúuku*	*eenú*	*aβili*
		a-ma-buuku	a-**enu**	a-**βili**
		Aug-6NP-book	6SM-2plPOSS	6SM-two
	b. *	a-ma-buuku	a-**βili**	a-**enu**
		Aug-6NP-book	6SM-two	6SM-2plPOSS

「あなたの 2 冊の本」

(3-99)	a.	*amabúuku*	*eenú*	*áya*
		a-ma-buuku	a-**enu**	**a-a**
		Aug-6NP-book	6SM-2plPOSS	Aug-6SM
	b. *	a-ma-buuku	**a-a**	a-**enu**
		Aug-6NP-book	Aug-6SM	6SM-2plPOSS

「あなたのこれらの本」

3.3. 文修飾要素

名詞や名詞修飾語は, 文修飾にも用いることができる。例えば以下 (3-100) の *makosa* は, *amakosa*「強さ」という名詞の冒頭母音のない形であり,「とても」というように副詞の機能を果たしている。

(3-100)	*ilí*	*ibuuku*	*lyaa*	*kále*	*makosa*
	i-li	i-ø-buuku	li-a	ka-le	**ma-kosa**
	Aug-5SM	Aug-5NP-book	5SM-CONN	12NP-past	6NP-strength
	「この本はとても古い」				

(3-100) の *makosa*「強さ」だけでなく, 以下の (3-101) の *βukuumo*「今」や (3-102) の *bwino*「よく」など, 冒頭母音のない名詞が副詞として機能することが多いが, (3-103) の *ulúcheelo*「朝」のように冒頭母音のある形でも文修飾要素として機能している。

(3-101)	*naaβyaalá*	*ímbuto*	*βukúumo*
	n-a-βyaal-a	i-n-βuto	**βu-kuumo**
	1sgSM-PST-plant-FV	Aug-10NP-seeds	14NP-now
	「私はたった今種を蒔いた」		
(3-102)	*mwalimbilé*	*bwino*	
	mu-a-li-imb-ile	**βu-ino**	
	2plSM-PST-ANT-sing-ANTF	14NP-well	
	「あなたは上手に歌った」		
(3-103)	*naafiká*	*ulúcheelo*	
	n-a-fik-a	**u-lu-cheelo**	
	1sgSM-PST-arrive-FV	Aug-11NP-morning	
	「私は今朝着いた」		

ákale「昔」は, 以下のように冒頭母音のあるものとないものの両方ともが副詞として機能する。

(3-104) *ndimwishí* *kale*

n-li-mu-ishiβ-ile **ka-le**

1sgSM-ANT-3sgOM-know-ANTF 12NP-past

「私はその人のことをすでに知っている」

(3-105) *naalimwishí* *ákale*

n-a-li-mu-ishiβ-ile **a-ka-le**

1sgSM-PST-BE-3sgOM-know-ANTF Aug-12NP-past

「私はその時すでにその人を知っていた」

以下のように，名詞だけでなく名詞修飾語も文修飾要素の役割を果たす。以下の (3-106) では 17 クラスの近称①の指示詞によって場所が表されている。

(3-106) *naachíisa* *kuno*

n-achi-is-a **ku-no**

1sgSM-HOD.PST-come-BF 17SM-PROX.DEM

「私はここに来た」

近称①の指示詞は，16 クラスに呼応した *pano* では以下の (3-107) ように逆接の接続詞の役割を果たす。

(3-107) *ímfungúlo* *yaaluβilé*

i-n-fungulo i-a-li-luβ-ile

Aug-9NP-key 9SM-PST-ANT-get_lost-ANTF

ukufumá *uyú* *umulúngu*

u-ku-fum-a u-u u-mu-lungu

Aug-INF-come_from-BF Aug-3SM Aug-3NP-week

panó *yaaβoneká* *βukúumo*

pa-no i-a-βon-ik-a βu-kuumo

16SM-PROX.DEM 9SM-PST-see-NEUT-FV 14NP-now

「カギは先週からなかったが，今はもう見つかっている」

以下のように，16 クラスの接頭辞がついた名詞修飾語-*mbi*「ほかの」接続詞の役割を果たす。

(3-108)

úlu	*mukabwela*	*pambi*
u-lu	mu-ka-bwel-a	**pa-mbi**
Aug-11SM	2plSM-REM.FUT-return-BF	16SM-other
mukásanga		*ndísiilile*
mu-ka-sang-an-a		n-ø-li-shil-ile
2plSM-REM.FUT-find-RECI-BF		1sgSM-PRS-ANT-finish-ANTF
ukúlemba	*iínkaláta*	
u-ku-lemb-a	i-i	i-n-kalata
Aug-INF-write-BF	Aug-9SM	Aug-9NP-letter

「あなたが戻ってきたときには、私がこの手紙を書き終えているのを見つけるでしょう」(Dahl 1985 Q.107 より)

第 4 章 動詞

ランバ語の直説法の動詞は，ほかのバントゥ諸語と同じく，以下のように動詞語根に接辞が膠着して構成される。動詞語根と派生接辞，語尾までをまとめて動詞語幹と呼ぶ。

(前主語接辞‐) 主語接辞‐TA(M)接辞‐(目的語接辞‐) 動詞語根 (‐派生接辞)‐語尾

主語接辞と TA(M)接辞, 動詞語根, 語尾は必須の要素であり, (　) 内の要素は任意である。前主語接辞，TA(M)接辞，語尾は，テンス・アスペクト，極性，接続法など，いわゆる活用に関わる要素である。派生接辞は態の変化や項数の変化，意味の変化をもたらす。TA(M)接辞と派生接辞のスロットには複数の接辞が入ることがある。

4.1. 主語接辞と目的語接辞

主語接辞とは，主語となる名詞のクラスあるいは人称に呼応して現れる接頭辞で，目的語接辞とは，目的語となる名詞のクラスあるいは人称に呼応して現れる接頭辞である。主語接辞が必須要素であるのに対し，目的語接辞は必須ではない。目的語接辞の挿入については 4.1.3，4.1.4 で詳しく述べる。また，これらの要素は名詞が文中に現れていない場合に代名詞としても機能する。

4.1.1. 主語接辞と目的語接辞の形式

ランバ語の主語接辞と目的語接辞は，主語あるいは目的語としてとる名詞が属するクラスや人称・数に呼応して形態が異なる。次頁の表 4-1 では各人称の主語接辞，目的語接辞の形態を示している。

表 4-1：ランバ語の主語接辞，目的語接辞（人称のみ）

	主語接辞-	目的語接辞-
1 人称単数	*n-*	*n-*
1 人称複数	*tu-*	*tu-*
2 人称単数	*u-*	*ku-*
2 人称複数	*mu-*	*mu-*
3 人称単数（1 クラス）	*a-*，*u-*	*mu-*
3 人称複数（2 クラス）	*βa-*	*βa-*

まず，それぞれの人称に呼応する主語接辞と目的語接辞を示す。なお，1 人称単数は独自のふるまいをするため後述する。

(4-1) ～ (4-5) はそれぞれの人称に呼応する主語接辞の例である。例文の動詞のテンス・アスペクト形式については 4.5 で説明する。

(4-1) 1pl *tulipalilé* *βáátaata*
tu-ø-li-pal-ile βa-taata
1plSM-PRS-resemble-ANTF 2NP-father.1sg/plPOSS
「私たちは父に似ている」

(4-2) 2sg *ulipalilé* *βááwiiso*
u-ø-li-pal-ile βa-wiiso
2sgSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.2sg/plPOSS
「あなたはあなたの父に似ている」

(4-3) 2pl *mulipalilé* *βááwiiso*
mu-ø-li-pal-ile βa-wiiso
2plSM-ORS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.2sg/plPOSS
「あなたがたは父に似ている」

(4-4) 3sg *alipalilé* *βááwiishi*
a-ø-li-pal-ile βa-wiishi
3sgSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.3sg/plPOSS
「その人は自分の父に似ている」

(4-5) 3pl *βalipalilé* *βááwiishi*

βa-ø-li-pal-ile βa-wiishi

3plSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-father.3sg/plPOSS

「その人たちは自分たちの父に似ている」

(4-6) ～ (4-9) はそれぞれの人称に呼応する目的語接辞の例である。

(4-6) 1pl *utúβuule* *áti*

u-**tu**-βuul-e ati

2sgSM-1plOM-tell-SF COMP

「あなたは私たちに…を言うように」(Jonah 1:8 より一部抜粋)

(4-7) 2sg *ndéekuβoná* *akásuβa*

n-ø-lee-**ku**-βon-a a-ka-suβa

1sgSM-PRS-IMPFV-2sgOM-see-BF Aug-12NP-day

「私は今日の午後あなたと会うだろう」

(4-8) 3sg *naalimwishí* *ákale*

n-a-li-**mu**-ishiβ-ile a-ka-le

1sgSM-PST-BE-3sgOM-know-ANTF Aug-12NP-past

「私はその時すでにその人を知っていた」

(4-9) 3pl *naaliβabwénepo* *límo*

n-a-li-**βa**-βon-ile-po li-mo

1sgSM-PST-ANT-3plOM-see-ANTF-16LOC 5SM-one

「私はその人たちに 1 回会った」(Dahl 1985 Q.43 より)

2 人称複数の目的語接辞は，目的語接辞のスロットに入る *mu*-と，動詞末に付加される接語の*-eni* の組み合わせによって表される。

(4-10) 2pl *ndeemupeeleení* *índaláma*

n-ø-lee-**mu**-peel-a-**eni** i-n-lalama

1sgSM-PRS-PRG-2plOM-give-BF-PL Aug-9NP-money

「(もし私に道を教えてくれたら) 私はあなたたちにお金をあげよう」

1 人称単数の主語接辞と目的語接辞の現れ方

1 人称単数の主語接辞と目的語接辞は，表のとおり基底形は *n*-である。1 人称の主語接辞と目的語接辞は，9，10 クラス名詞接頭辞と同様に，後ろに続く音節構造によって異なる音価で現れる。まず，子音で始まる動詞語根が続く場合には *n*-が現れ，子音と同調音点の鼻音で実現される。

(4-11) *kampóosa*
ka-**n**-poos-a
NAR-1sgSM-throw-BF
「そして私は投げた」(Dahl 1985 Q.(B1)より)

(4-12) *ndipalilé* *βáátaata*
n-ø-li-pal-ile βa-taata
1sgSM-PRS-IMPFV-think-BF 2NP-father.1sg/plPOSS
「私は父に似ている」

直後に母音で始まる動詞語根が続く場合には異形態の *ng*-が現れる (テンス・アスペクト接辞においてはこの限りではない。これについては後述する)。2.2 において説明したとおり，*g*[g]は後続する母音によっては硬口蓋化が起こる。語根頭の母音が *a*，*o*，*u* である場合の音価は[ŋg] (*ng*) であり (Doke 1922:6-7，Doke 1927:21，Doke 1938:301-302)，語根頭の母音が *i* である場合は硬口蓋化が起こり音価は[ɲdʒ] (*ny*) となる (Doke 1922:7, Doke 1927:21)。語根頭の母音が *e* である場合は[ŋg]と[ɲdʒ]どちらの音価も観察される。例は以下に示しているとおりであるが，始まりの母音によっては筆者のデータが不足しているため，部分的に Doke (1922，1927，1938) のデータを引用している。その場合も形態素分析は筆者による。

(4-13) ～ (4-16) は主語接辞の例，(4-17) ～ (4-19) は目的語接辞の例である。

(4-13) *ngaβuke*
n-aβuk-e
1sgSM-across-SF
「私が渡れるように」(Doke 1922:6，Doke 1927:21，Doke 1938:302)

(4-14) *ngowe*

n-ou-e

1sgSM-row-SF

「私が漕げるように」(Doke 1922:6，Doke 1927:21，Doke 1938:302)

(4-15) *ngupe*

n-up-e

1sgSM-marry_a_woman-SF

「私 (男性) が結婚するように」(Doke 1922:6，Doke 1927:21，Doke 1938:302)

(4-16) *teekúti* *njikálemo*

te-ku-ti **n**-ikal-e-mo

NEG-15NP-COMP 1sgSM-sit-SF-18LOC

「私はその中に座らない」

(4-17) *βaachinjíshiβa*

βa-achi-**n**-ishiβ-a

3plSM-HOD.PST-1sgOM-know-BF

「その人は私のことは認識した」

(4-18) *umúkwasu* *anjéβa* *atí* …

u-mu-kwasu a-a-**n**-eβ-a ati

Aug-1NP-relative 3sgSM-PST-1sgOM-tell-BF COMP

「親戚は私に…と言った」(Dahl 1985:Q8 より)

(4-19) *filúngeeléelue*

fi-ø-li-**n**-eleelu-ile

8SM-PRS-ANT-1sgOM-suit-ANTF

「それは私に合っている」(Jonah 4:9 より一部抜粋)

語根が母音始まりであり，かつ NCV が含まれる場合，2.4 で述べたとおりマインホフの法則が適用され，鼻音と子音の子音結合が単なる鼻音になるという現象が起こる (cf. Meinhof 1913:274，日本語訳は清水 1988 による)。語根に NCV が含まれており，かつ語根頭の母音が *a*，*o*，*u* の場合，音価は *ng* [ŋɡ]から *ng'* [ŋ] となり (Doke 1922:7，Doke 1927:21，Doke 1938:302)，語根頭の母音が *i*, *e* の場合の音価は *nj* [ɲdʒ]から *ny* [ɲ] となる (Doke 1922:7,

Doke 1927:21)。ここでも足りないデータについては Doke (1922，1927，1938) から引用している。

(4-20) *ng'ante*

n-ant-e

1sgSM-toss-SF

「私がトスできるように」(Doke 1922:7，Doke 1927:21，Doke 1938:302)

(4-21) *ng'onte*

n-ont-e

1sgSM-suck-SF

「私が吸い込めるように」(Doke 1922:7，Doke 1927:21，Doke 1938:302)

(4-22) *kang'úmfwa* *íchongo*

ka-**n**-umfu-a i-chi-ongo

NAR-1sgSM-hear-BF Aug-7NP-noise

「私は騒音を聞いた」

(4-23) *teekúti* *nyímbepo*

te-ku-ti **n**-imb-e-po

NEG-15NP-COMP 1sg-sing-SF-16LOC

「私は歌わない」

(4-24) *nyende*

n-end-e

1sgSM-go-SF

「私が行くように」(Doke 1938:301)

(4-25) *kamúng'umfwa*

ka-mu-**n**-umfu-a

NAR-2plSM-1sgOM-hear-BF

「そしてあなた方は私の言うことを聞いた」

次に，主語接辞と目的語接辞が各名詞クラスに呼応した例を挙げる。各クラスに応じた形式は次頁の表 4-2 に示しているとおりである。

表 4-2：ランバ語の主語接辞，目的語接辞

	主語接辞-	目的語接辞-
1 クラス(3 人称単数)	*a-*，*u-*	*mu-*
2 クラス(3 人称複数)	*βa-*	*βa-*
3 クラス	*u-*	*u-*
4 クラス	*i-*	*i-*
5 クラス	*li-*	*li-*
6 クラス	*a-*	*a-*
7 クラス	*chi-*	*chi-*
8 クラス	*fi-*	*fi-*
9 クラス	*i-*	*i-*
10 クラス	*shi-*	*shi-*
11 クラス	*lu-*	*lu-*
12 クラス	*ka-*	*ka-*
13 クラス	*tu-*	*tu-*
14 クラス	*βu-*	*βu-*
15 クラス	*ku-*	*ku-*
16 クラス	*pa-*	*pa-*
17 クラス	*ku-*	*ku-*
18 クラス	*mu-*	*mu-*

(4-26) ～ (4-43) が各名詞クラスに呼応した主語接辞の例である。

(4-26) cl.1 *umúβyanji* *aalipúneeme*

u-mu-βi-anji **a**-a-li-puman-ile

Aug-1NP-friend 1SM-PST-ANT-be_stupid-ANTF

「私の友人は愚かだった」

(4-27) cl.2 *aβáβyanji* *βaalipúneeme*

a-βa-βi-anji **βa**-a-li-puman-ile

Aug-2NP-friend 2SM-PST-ANT-be_stupid-ANTF

「私の友人たちは愚かだった」

(4-28) cl.3 *umúpandó* *úupúβile*

u-mu-pando **u**-ø-puβ-ile

Aug-3NP-chair 3SM-PRS-be_light-ANTF

「そのイスは軽い」

(4-29) cl.4 *imípandó* *íipúβile*

i-mi-pando **i**-ø-puβ-ile

Aug-4NP-chair 4SM-PRS-be_light-ANTF

「そのイスは軽い」

(4-30) cl.5 *ilí* *ikeléesha* *liliwiilé*

ili i-ø-keesha **li**-ø-li-u-ile

5.DEM Aug-5NP-church 5SM-PRS-ANT-fall-ANTF

imikú *iíngi*

i-mi-ku i-i-ingi

Aug-4NP-count Aug-4SM-many

「この教会は何回も崩壊している」

(4-31) cl.6 *amakosá* *aashíla*

a-ma-kosa **a**-a-shil-a

Aug-6NP-strength 6SM-PST-finish-FV

「力が尽きた」

(4-32) cl.7 *ícheeβo* *chíipúβile*

i-chi-eβo **chi**-ø-puβ-ile

Aug-7NP-problem 7SM-PRS-be_light-ANTF

「(その) 問題は易しい」

(4-33) cl.8 *ifí* *ifíseepó* *fyáapya*

ifi **i-fi**-seepo **fi**-a-pi-a

8.DEM Aug-8NP-fruit 8SM-PST-ripe-FV

「それらの果物は熟している」

(4-34) cl.9 *íng'anda* *yanji* *ilipiié* *litátu*

i-n-ganda i-anji **i**-ø-li-pi-ile li-tatu

Aug-9NP-house 9SM-1sgPOSS 9SM-PRS-ANT-burn-ANTF 5SM-three

「私の家は 3 回消失している」

(4-35) cl.10 *íng'anda* *shanji* *shilipiié* *litátu*

i-n-ganda shi-anji **shi**-ø-li-pi-ile li-tatu

Aug-10NP-house 10SM-1sgPOSS 10SM-PRS-ANT-burn-ANTF 5SM-three

「私の家は 3 回消失している」

(4-36) cl.11 *ulucheche* *lwánji* *lulipalilé* *neβo*

u-lu-cheche lu-anji **lu**-ø-li-pal-ile neβo

Aug-11NP-baby 11SM-1sgPOSS 11SM-PRS-ANT-resemble-ANTF 1SG

「私の赤ん坊は私に似ている」

(4-37) cl.12 akásuβa *kaanáka*

a-ka-suβa **ka**-a-nak-a

Aug-12NP-sun 12SM-PST-be_soft-FV

「太陽 (の光) が弱まった」

(4-38) cl.13 *útuuni* *tulileelé* *múchiti*

u-tu-uni **tu**-ø-li-laal-ile mu-chi-ti

Aug-13NP-little_bird 13SM-PRS-ANT-fall_asleep-ANTF 18NP-7NP-tree

「小さい鳥たちは木の上で寝ている」

(4-39) cl.14 *uβútemue* *βuláteekomútima*

u-βu-temwe **βu**-la-teek-a u-mu-tima

Aug-14NP-love 14SM-PFV-breed-BF Aug-3NP-heart

「愛は心を育てるものだ」(First Epistle to the Corinthians 13:4 より抜粋)

(4-40) cl.15 *ukúulu* *kwanji* kléésooména

u-ku-ulu ku-anji **ku**-ø-lee-soomen-a

Aug-15NP-leg 15SM-1sgPOSS 15NP-PRS-IMPFV-hurt-BF

「私の脚が痛い」

(4-41) cl.16 *ápa* *pangálaala* *umuntú* *umo*

apa **pa**-nga-laal-a u-mu-ntu u-mu-o

16.DEM 16SM-POT-fall_asleep-ANTF Aug-1NP-person Aug-18SM-MESIO

「ここは中で眠れる」

(4-42) cl.17 *kuleeβá* *íchongo*

ku-ø-lee-βa i-chi-ongo

17SM-PRS-IMPFV-be Aug-7NP-noise

「騒音がある」

(4-43) cl.18 *muóofishi* *mwalí* *βaadókotaalá* *βatátu*

mu-ø-oofishi **mu**-a-li βa-dokotaala βa-tatu

18NP-5NP-office 18SM-PST-be 2NP-doctor 2SM-three

aβákolulwe

a-βa-ø-ø-kolu-ile

Aug-2SM-PRS-NUL-get_drunk-ANTF

「オフィスには 3 人の酔っ払った医者がいた」

(4-44) ～ (4-50) が各クラスに呼応した目的語接辞の例である。

(4-44) cl.3 *úmushi* *uúkulu* ... *ukaúβilikíle*

u-mu-shi u-u-kulu u-ka-**u**-βilik-il-e

Aug-3NP-village Aig-3SM-big 2sgSM-ITV-3OM-preach-APPL-SF

「大きな街 (ニネベへ行き，) それ (街) に向かって説教をしてこい」

(Jonah 1:2 より一部抜粋)

(4-45) cl.5 *úlu* *naachilísangána* *ulúcheelo*

ulu n-achi-**li**-sang-an-a u-lu-cheelo

11.DEM 1sgSM-HOD.PST-5OM-find-RECI-BF Aug-11NP-morning

「今朝私がそれ (*íkeleesha*「教会」) を見つけたとき…」

(4-46) cl.7 *waachiléngelénkumbu* *íchitele* *íchi*

u-a-**chi**-leng-il-a i-n-kumbu i-chi-tele ichi

2sgSM-PST-7OM-make-APPL-FV Aug-9NP-mercy Aug-7NP-plant 7.DEM

「あなたはこの草に対して慈悲をもっている」(Jonah 4:10 より一部抜粋)

(4-47) cl.8 *βaláfiteβeta*

βa-la-**fi**-teβet-a

3plSM-PFV-8OM-feed-BF

「その人 (あなた方の天の父) はこれら (*ífyuuni*「鳥」) を養ってくださる」

(Gospel of Matthew 6:26 より一部抜粋)

(4-48) cl.9 *indume* *yanji* *βaliikachíle*

i-**n**-lume i-anji βa-ø-li-**i**-kak-a

Aug-9NP-brother 9SM-1sgPOSS 3plSM-PRS-ANT-9OM-bind-ANTF

「私の弟は誰かが投獄している」

(4-49) cl.10 *chaachishímpokela* *índaláma*

chi-achi-**shi**-n-pok-il-a i-n-dalama

7SM-HOD.PST-10OM-1sgOM-get-APPL-BF Aug-10NP-money

「その人 (友人) はお金を私の代わりに受け取った」

(4-50) cl.17 *nshikútemenwepo* *kulyá* *kuntu*

n-shi-**ku**-temu-ile-po ku-lya ku-ntu

1sgSM-NEG-17OM-love.ANTF-16LOC 17SM-DEM.REM 17NP-place

kónse

ku-onse

17SM-all

「私はそれらすべての場所が好きでない」(Doke (1938) の p.95 の例文を改変)

4.1.2. 目的語接辞が複数挿入される場合

以下の例では，目的語接辞が 2 つ挿入されている。*peel*「与える」は，(4-58) では間接目的語のみが目的語接辞として現れていたが，以下の (4-51) では間接目的語である 1 人称単数目的語接辞 *n*-「私」に加えて，直接目的語である *umúchele*「塩」に呼応した目的語接

辞 *u*-も現れている。

(4-51) *índume* *yanji* *jaaliúmpeelé*
i-n-lume i-anji i-a-li-**u**-**n**-peel-ile
Aug-9NP-brother 9SM-1sgPOSS 9SM-PST-ANT-3OM-1sgOM-give-ANTF
umúchelé *waa* *mábwe*
u-mu-chele u-a ma-bwe
Aug-3NP-salt 3SM-CONN 6NP-stone
「私の弟は私にその荒い塩をくれた」

ただし，1 人称単数の目的語接辞の代わりに 2 人称複数の目的語を表す接辞 *mu*-と接語-*eni* を挿入すると，以下のように非文となる。

(4-52) * i-n-lume i-anji
Aug-9NP-brother 9SM-1sgPOSS
i-a-li-**u**-**mu**-peel-ile-eni
9SM-PST-ANT-3OM-2plOM-give-ANTF-PL
(int. 私の弟はあなたたちに荒い塩を渡した)

目的語接辞が 2 つ入るためには制限があるものと考えられるが，その条件については現段階では明らかになっていない。

4.1.3. 動詞が呼応し得る主語が複数ある場合

動詞が呼応し得る主語名詞が複数ある場合，主語接辞の呼応の仕方にはいくつかパターンが見受けられる。まず, すべての名詞をふまえて決まったクラスに呼応する場合である。以下の (4-53) は,「犬とサルが来た」という文である。*ímbwa*「犬」は 9 クラス名詞，*kolwe*「サル」は接頭辞が ø-の名詞であるが，これら 2 つの名詞を受けた述部の主語接辞は 8 クラスの *fi*-である。

(4-53) *ímbwa* *nee* *kólwe* *fyaachíisa*
i-n-bwa ne ø-koolwe **fi**-achi-is-a
Aug-9NP-dog CONJ NUL-monkey 8SM-HOD.PST-come-BF

kuno

ku-no

17SM-PROX.DEM

「犬とサルがここに来た」

以下の (4-54) のように複数の名詞のうちひとつがヒトを表す場合には，すべての名詞を受けた主語接辞が現れるのではなく，ヒトと呼応した主語接辞が用いられる。この際，ヒトを表す名詞を前に置く必要がある。(4-54a) では，*úmwensu*「客」と *ímbwa*「犬」が主語である。この場合，*úmwensu*「客」が前に置かれ，それに呼応した 1 クラスの主語接辞 *a-* が現れる。(4-54b) のように，すべての名詞をふまえ，さらに有性性も考慮に入れて 3 人称複数の主語接辞 *βa-*をとろうとしても非文となる (cf. テンボ語 [6])。また，(4-55) のようにヒトである *áβantu*「人々」をもう一方の主語である *ífyuuni*「鳥たち」の後ろに置くと，たとえ主語接辞をヒトと呼応させても非文となる [7]。

(4-54) a. *umuénsu* *né* *mbwa* *aachíisa*

u-mu-ensu ne **n-bwa** **a**-achi-is-a

Aug-1NP-guest CONJ 9NP-dog 3sgSM-HOD.PST-come-BF

kuno

ku-no

17SM-DEM.PROX

「客が犬と一緒に来た」

b. * **u-mu-ensu** ne **n-bwa** **βa**-achi-is-a

Aug-1NP-guest CONJ 9NP-dog 3plSM-HOD.PST-come-BF

---

[6] ランバ語と同じくバントゥ諸語のひとつであり，コンゴ民主共和国で話されているテンボ語でも，例えばヒトとヒト以外のものが動詞が表す動作を行う場合，「ヒトがヒト以外のものと一緒に～する」という構造が好まれる (梶 1984:9)。この場合，動詞の主語接辞はランバ語と同じようにヒトを表す名詞に呼応する (梶 1984:9)。

[7] Doke (1938) は，複数ある主語のうちどちらもが複数形である場合，主語接辞は動詞により近いほうの名詞クラスに呼応すると説明している (Doke 1938:415-416)。そのため (4-52) の *ífyuuni*「鳥たち」と *áβantu*「人々」の複数ある主語のうち動詞に近い 2 クラス名詞 *áβantu*「人々」に呼応して 2 クラスの主語接辞 *βa-*が現れる例は Doke (1938) では適格な例として挙げられている。しかしながらすでに述べているように，筆者の調査ではこれは非文となっているため，Doke (1938) の説明は適切ではない。

ku-no

17SM-DEM.PROX

(int. 客と犬が来た)

(4-55) * **i-fi-uni** ne **a-βa-ntu**

Aug-8NP-birds CONJ Aug-2NP-people

βa-a-li-is-ile ku-no

3plSM-PST-ANT-come-BF 17SM-PROX.DEM

(int. 鳥たちと人々が来た)

ífyuuni「鳥たち」と *áβantu*「人々」がその場に来たことを，*áβantu*「人々」よりも前に *ífyuuni*「鳥たち」を置いたうえで表すためには，以下のように主語接辞が複数の名詞を受ける構造を避け，それぞれの名詞がそれぞれで動詞をとらなければならない。

(4-56) *ífyuuɲi* *fjaaliishilé* *nee* *βantú*

i-fi-uni **fi**-a-li-is-ile ne **βa-ntu**

Aug-8NP-bird 8SM-PST-BE-come-ANTF CONJ 2NP-person

naβó *kaβéesa*

naβo ka-**βa**-is-a

CONJ.3PL NAR-3plSM-come-BF

「鳥たちが来て，また人々も来た」

複数の目的語に呼応して目的語接辞が挿入される場合，(4-57) のように 8 クラスの目的語接辞で呼応する例だけでなく，(4-58) のように 10 クラスの目的語接辞で呼応している例が Doke (1938) で報告されている (Doke 1938:417-418)。

(4-57) *ifitele* *ne* *tutundu* *ne* *manongo*

i-fi-tele ne tu-tundu ne ma-nongo

Aug-8NP-calabash CONJ 13NP-basket CONJ 6NP-pot

	βaafipinta	*fyonse*
	βa-a-**fi**-pint-a	fi-onse
	3pSM-PST-8OM-carry-FV	8SM-all

「すべてのカラバッシュ，カゴ，ポットはその人たちが運んだ」(Doke 1938:418)

(4-58)	*twalishiumfwile*	*inkalamu*	*ne*	*nchense*
	tu-a-li-**shi**-umfu-ile	i-n-kalamu	ne	n-chense
	1plSM-PST-ANT-10SM-hear-ANTF	Aug-10NP-lion	CONJ	10NP-leopard

ne	*fimboolo*
ne	fi-mboolo
CONJ	8NP-hyena

「私たちはライオン，ヒョウ，ハイエナの声を聴いた」(Doke 1938:417)

以下の (4-59) のように，複数ある目的語のうちヒトである *βakalume*「(女性の) 奴隷」が含まれている場合，8 クラスや 10 クラスでなく 2 クラスの目的語接辞で呼応する例が Doke (1938) で報告されている (Doke 1039:417)。

(4-59)	*naakuβawona*	*βaakalume*	*ne*	*filolo*
	n-a-ku-**βa**-βon-a	βa-kalume	ne	fi-lolo
	1sgSM-FUT-HOD.FUT-2OM-see-BF	2NP-female_slave	CONJ	8NP-bishop

「私は女性の奴隷と監督官を見ることになるだろう」(Doke 1938:417)

4.1.4. 複数の目的語名詞がある場合の目的語接辞の現れ方

ランバ語において目的語接辞と目的語名詞は, 共起できる場合とそうでない場合がある。例えば目的語を 2 つとる動詞において，目的語名詞と目的語接辞の共起や代名詞化において違いが見られる。例えば以下の (4-60) の「私の友人は自分の父にその問題を伝えた」という文において，*βuul*「伝える」がとる目的語は *βááwiishi*「父」と *ícheeβo*「問題」の 2 つである。(4-60a) に示しているように目的語名詞 *βááwiishi*「父」とそれに呼応した目的語接辞 *βa-*の共起は可能であるが，(4-60b) において目的語接辞 *βa-*がなくても文意が成立していることから, 目的語接辞と目的語名詞の共起は義務的ではない。(4-60c) のように *íhceeβo*「問題」とそれに呼応した目的語接辞 *chi-*の共起はできない。

(4-60) a. *ichíβusa* *chanji* *chaalíβaβuulilé*

i-chi-βusa chi-anji chi-a-li-**βa**-βuul-ile

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PST-ANT-3plOM-tell-ANTF

ícheeβo *βááwiishi*

i-chi-eβo **βa-wiishi**

Aug-7NP-problem 2NP-father.3sg/plPOSS

b. *ichíβusa* *chanji* *chaalíβuulile*

i-chi-βusa chi-anji chi-a-li-βuul-ile

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PST-ANT-tell-ANTF

ícheeβo *βááwiishi*

i-chi-eβo βa-wiishi

Aug-7NP-problem 2NP-father.3sg/plPOSS

c. * i-chi-βusa chi-anji chi-a-li-**chi**-βuul-ile

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PST-ANT-7OM-tell-ANTF

i-chi-eβo βa-wiishi

Aug-7NP-problem 2NP-father.3sg/plPOSS

「私の友人は自分の父にその問題を話した」

peel「与える」も，*βuul*「伝える」と同じく目的語を 2 つとることができる。以下の(4-61)は，関係節 *naachipeele*「私がその人にあげた」が *índalama*「お金」を修飾して名詞句となっている例であり (関係節については 4.5.1.2 を参照のこと)，*peel*「与える」がとる目的語は *ichíβusa*「友人」と *índalama*「お金」の 2 つである。2 つある目的語のうち，代名詞化して目的語接辞として挿入されているのは *ichíβusa*「友人」と呼応した 7 クラス目的語接辞 *chi-*である。

(4-61) *índaláma* *naachípeele*

i-n-lalama n-a-ø-**chi**-peel-ile

Aug-10NP-money 1sgSM-PST-NUL-7OM-give-ANTF

「私がその人 (*ichíβusa*「友人」) にあげたお金」

目的語を 2 つとる動詞については Doke (1938) でも触れられているが (Doke 1938:418-419)，目的語接辞として現れているのは (4-61) でもそうであるように間接目的語のみで，直接目的語が目的語接辞として現れている例は，目的語名詞と目的語接辞が共起したものも，代名詞として目的語接辞が現れているものを見られない。しかしながら，これらの例が非文として示されているわけでもない。今後調査が必要である。

4.1.5. 再帰接辞 *lii-*

再帰を表す場合には，再帰接辞の *lii-*が用いられる。この再帰接辞 *lii-*も目的語接辞のスロットに入る。再帰接辞は，(4-62) のように動詞が表している出来事がなされる対象が動詞が呼応している主語と同一であることを表すが，(4-63) のように「互いに～する」という意味を表すこともある (cf. 相互形派生接辞-*an*)。

(4-62) *ichíβusa* *chanji* *chaalíliipaminé* *maílo*
i-chi-βusa chi-anji chi-a-li-**lii**-pam-ile mailo
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PST-ANT-REF-hit-ANTF yesterday
「私の友人は昨日自分で自分を殴った」

(4-63) *tuwalíliiposeshe* *ukúβombomaná*
tu-a-li-**lii**-pol-i-ile u-ku-bombomana
1plSM-PST-BE-REFL-get_well-CAUS1-ANTF Aug-INF-heartache
kwa *múβyaakwe*
ku-a mu-βi-akwe
15SM-CONN 1NP-friend-3sgPOSS
「私たちは傷ついた心をお互いに癒し合った」

4.1.6. 敬称

主語接辞，目的語接辞ともに，複数形によって敬称が表されることがある。例えば，挨拶は (4-64) のように基本的に相手がひとりしかいない場合においても 2 人称複数の接辞が用いられ，これに対する答えにおいても，(4-65) のように 1 人称複数の接辞が用いられる。

(4-64) *muli* *sháani ?*

mu-ø-li shaani

2plSM-PRS-be how

「調子はどうですか？」

(4-65) *tulikoséle*

tu-ø-li-kos-ile

1plSM-PRS-ANT-be_strong-ANTF

{(4-64) に対する答えとして}「元気です」

3 人称においても，以下のように複数形によって敬意が表される。

(4-66) *naaliβeeshí* *kale*

n-a-li-**βa**-ishiβ-ile ka-le

1sgSM-PST-ANT-3plOM-know-ANTF 12NP-past

「私はすでにその人を知っている」

4.1.7. 3 人称複数主語接辞 *βa*-によって表される非人称受身

ランバ語は受身形派生接辞を持つが (4.3.6 を参照)，生産的な受身表現には，非人称受身と呼ばれる構文が用いられる。ランバ語の非人称受身は，被動主が文頭に置かれ，動詞は 3 人称複数主語接辞 *βa*-を虚辞としてとる。動作主は 17 クラス名詞接頭辞 *ku*-あるいは前置詞 *kuli* によって表され，明示するかどうかは任意である。

(4-67a) は，被動者 *chingalika*「シマウマ」が文頭に置かれ，動作主 *ínkalamu*「ライオン」は，17 クラス名詞接頭辞 *ku*-を伴った *kúnkalamu* で現れる。(4-67b) のように動作主を *ínkalamu*「ライオン」のままで置くと非人称受身においては非文となる。被動者 *chingalika*「シマウマ」に呼応した 3 人称単数主語接辞 *a*-ではなく，虚辞の 3 人称複数主語接辞 *βa*-であり，派生接辞による動詞語幹の変化はない。(4-67a) に対応する能動文「ライオンはシマウマを追いかけた」は (4-67c) に示しているとおりである。

(4-67) a. *chingalíka* *βaachimúβutusha* *kúnkalamu*

ø-chingalika **βa**-achi-mu-βutuk-i-a **ku**-n-kalamu

NUL-zebra 3plOM-HOD.PST-3sgOM-run-CAUS1-BF 17NP-9NP-lion

b. * ø-chingalika **βa**-achi-mu-βutuk-i-a **i**-n-kalamu

NUL-zebra 3plOM-HOD.PST-3sgOM-run-CAUS1-BF Aug-9NP-lion

「キリンはライオンに追いかけられた」

c. *ínkalamu* *yaachiβútusha* *chingalíka*

i-n-kalamu i-achi-βutuk-i-a ø-chingalika

Aug-9NP-lion 9SM-HOD.PST-run-CAUS1-BF NUL-zebra

「ライオンはキリンを追いかけた」

動作主は，名詞の形態によっては *kuli* で表される。以下の (4-68) は，「私の友人は自分の母にバナナを食べさせられた」という文である。動作主である *βaanyina*「母親」は 17 クラス名詞接頭辞 *ku-*が交替する冒頭母音を持たない。この場合 17 クラス名詞接頭辞 *ku-*でなく，前置詞の *kuli* によって動作主が導かれる。

(4-68) a. *ichíβusa* *chanji* *βaalichíliishishé*

i-chi-βusa chi-anji **βa**-a-li-chi-li-ish-ile

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 3plSM-PST-ANT-7OM-eat-CAUS2-ANTF

íkonde *kuli* *βáányina*

i-konde **ku-li** βa-nyina

Aug-banana 17SM-be 2NP-mother.3sg/plPOSS

b. * i-chi-βusa chi-anji βa-a-li-chi-li-ish-ile

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 3plSM-PST-ANT-7OM-eat-CAUS2-ANTF

i-konde **ku**-βa-nyina

Aug-banana 17NP-2NP-mother.3sg/plPOSS

「私の友人は自分の母にバナナを食べさせられた」

また，先に述べたとおり動作主の表示は任意である。(4-69) は王が殺されたことを表す文であるが，(4-69a) のように動作主が明示されていなくても文は成立する。

(4-69) a. *ímfumu* *βaalíípeeye*

i-n-fumu **βa**-a-li-ipai-ile

Aug-9NP-chief 3plSM-PST-ANT-kill-ANTF

「王は殺された」

cf.	*ímfumu*	*βaalíipeeye*
	i-n-fumu	**βa**-a-li-ipai-ile
	Aug-9NP-chief	3plSM-PST-ANT-kill-ANTF
	kuβásambi	*βáakwe*
	ku-βa-sambi	βa-akwe
	17NP-2NP-follower	2SM-3sgPOSS

「王はその従者によって殺された」

4.2. 動詞語根

ランバ語の動詞語根の音節構造には，以下のようなものがある。

V

(4-70) -u- 「倒れる」

VC

(4-71) -up- 「娶る」

CV

(4-72) -pi- 「熟す，焼ける」

(4-73) -li- 「食べる」

(4-74) -nu - 「飲む」

CVV

(4-75) -kuu[8]- 「吠える」

CVC

(4-76) -fik- 「着く」

(4-77) -sek- 「笑う」

(4-78) -chit- 「する」

(4-79) -βon- 「見る」

(4-80) -shaan- 「踊る」

(4-81) -kaan- 「断る」

CVNC

(4-81) -sang- 「見つける」

---

[8] CV 構造である *nu*「飲む」が完了語尾-*ile* をとると *nwile* で実現されるのに対して，*kuu*「吠える」は，完了語尾-*ile* (後述) をとると *kuwile* となる。そのため本論文では *kuu* を CV 構造ではなく CVV 構造としている。

(4-82) -lomb- 「頼む」

CGVCV

(4-83) -bwel- 「戻る」

(4-84) -fwal- 「着る」

CVCV

(4-85) -temu- 「好む」

(4-86) -koolu- 「酔う」

VCVC

(4-87) -isul- 「開ける」

(4-88) -ipik- 「料理する」

(4-89) -aluk- 「変わる」

VCVCV

(4-90) -eleelu- 「合う」

CVCVC

(4-91) -kashik- 「赤い」

(4-92) -chiluk- 「飛び跳ねる」

CVCVCV

(4-93) -fiitilu- 「怒る，憎む」

CVCVCVC

(4-94) -palamin- 「近づく」

4.3. 動詞派生接辞とそれに関わる形態統語現象

動詞派生接辞とは，動詞語根に何らかの意味を付加したり，動詞の項数の変化をもたらすものである。以下にランバ語に現れる動詞派生接辞の一覧を示す。

適用形派生接辞	-il/ -el
使役形派生接辞①	-i
使役形派生接辞②	-ishi/ -eshi
自発形派生接辞	-ik/ -ek
相互形派生接辞	-an
受身形派生接辞	-u
反転形派生接辞	-ulul/ -olol

適用形，使役形，自発形，相互形の派生接辞は生産的である。しかし受身形派生接辞-*u* は，Doke (1922，1938) や聖書 (Doke 1959) などの古い文献では比較的見られるものの，筆者のデータでは限られた例でしか用いられていない。反転形派生接辞については，筆者のデータでは観察できなかったが Doke (1922:110-111，1938:200-203) では報告されている。以下，それぞれの接辞について述べる。

4.3.1. 適用形

4.3.1.1. 適用形派生接辞-*il* の現れ方

適用形の派生接辞は-*il* である。母音調和と鼻音調和の影響を受けるため，語根の最後に現れる母音が *e* あるいは *o* である場合は-*el* で現れ，語根末の子音が鼻音である場合は-*in* あるいは-*en* で現れる。適用形派生接辞を付加することで,「～のために」,「～の代わりに」といった意味を付加したり，場所や方向，理由を表す項をとることができるようになる。

(4-95)	-pint-il-	「～のために運ぶ」	cf.	-pint-	「運ぶ」
(4-96)	-poos-el-	「～に向かって投げる」	cf.	-poos-	「投げる」
(4-97)	-kuman-in-	「～で会う」	cf.	-kuman-	「会う」

語根 (あるいは語基) が *shi* で終わる場合，*l* は硬口蓋摩擦化する。

(4-98) *tulishishi* 「～に向かって説教する」 cf. -tulishi- 「説教する」
-tulishi-il-
-preach-APPL-

4.3.1.2. 用法と現れ方

(4-99a) は，動詞語根 *pint*「運ぶ」に派生接辞がついていない基本形の例である。この場合に目的語としてとれるのは *íchoola*「カバン」のみであり，「～のために運ぶ」という意味を表すためには *pamúpunda wa*「～の代わりに」という付加詞を *βáányina*「母」の前に置く必要がある。しかし (4-99b) や (4-99c) のように動詞語根 *pint* に適用形派生接辞-*il* を付加し *pint-il* とすると，*íchoola*「カバン」と *βaanyina*「母」の両方を目的語としてしてとることができるようになる。(4-99b), (4-99c) で示しているように，適用目的語 *βáányina*「母」と非適用目的語 *íchoola*「カバン」は，どちらが動詞の直後にきてもよい。

(4-99) a. *ichíβusa* *chanji* *chaachipínta* *íchoola*
i-chi-βusa chi-anji chi-achi-pint-a i-chi-ola
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-HOD-carry-BF Aug-7NP-bag
pamúpunda *waa* *βáanyina*
pa-mu-punda u-a βa-nyina
16NP-3NP-stead 3SM-CONN 2NP-mother
「私の友人は自分の母親の代わりに鞄を運んだ」

b. *ichíβusa* *chanji* *chaachipíntila*
i-chi-βusa chi-anji chi-achi-pint-**il**-a
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-HOD.PST-carry-APPL-BF
βáanyiná *íchoola*
βa-nyina i-chi-ola
2NP-mother Aug-7NP-bag

c. *ichíβusa* *chanji* *chaachipíntila*
i-chi-βusa chi-anji chi-achi-pint-**il**-a
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-HOD-carry-APPL-FV

íchoola	*βáanyina*
i-chi-ola	βa-nyina
Aug-7NP-bag	2NP-mother

「私の友達は自分の母親のためにカバンを運んだ」

(4-100a) のように，*βaanina*「母親」に呼応した目的語接辞 *βa-*を任意で挿入することができる。これは適用目的語が動詞の直後にない (4-100b) の場合も可能である。

(4-100)a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaachiβápintíla*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-achi-βa-pint-**il**-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.PST-3plOM-carry-APPL-BF
	βáanyiná	*íchoola*	
	βa-nina	i-chi-ola	
	2NP-mother	Aug-7NP-bag	
b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaatɕiβápintíla*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-achi-**βa**-pint-**il**-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD-3plOM-carry-APPL-BF
	íchoola	*βáanyina*	
	i-chi-ola	βa-nina	
	Aug-7NP-bag	2NP-mother	

「私の友人は母親のためにカバンを運んだ」

ただし以下の (4-101) のように *íchoola*「鞄」を受けた 7 クラスの目的語接辞 *chi-*は挿入すると非文となる [9]。

(4-101)*	i-chi-βusa	chi-anji	chi-achi-**chi**-pint-**il**-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.PST-7OM-carry-APPL-BF

[9] *íchoola*「カバン」を省略し，代名詞用法として目的語接辞 *chi-*を挿入すれば可となる可能性もあるが，調査データが不足しているため断言できない。

βa-nina　　i-chi-ola

2NP-mother　　Aug-7NP-bag

(int.私の友人は自分の母親のために鞄を運んだ)

以下の (4-102) のように，場所を表す 17 クラスの接語-*ko* を付加すると，明確に「の代わりに」という意味を明確に表すようになる(接語については 4.4 も参照のこと)。ここでも動詞の直後にくるものは *βaanyina*「母親」と *íchoola*「カバン」のどちらでもよく，目的語接辞の挿入も任意である。

(4-102)a.　*ichíβusa*　　*chanji*　　*chaachipintílako*

i-chi-βusa　　chi-anji　　chi-achi-pint-**il**-a-**ko**

Aug-7NP-friend　　7SM-1sgPOSS　　7SM-HOD.PST-carry-APPL-BF-17LOC

βáanyiná　　*íchoola*

βa-nina　　i-chi-ola

2NP-mother　　Aug-7NP-bag

b.　ichíβusa　　chanji　　chaachipintílako

i-chi-βusa　　chi-anji　　chi-achi-pint-**il**-a-**ko**

Aug-7NP-friend　　7SM-1sgPOSS　　7SM-HOD-carry-APPL-BF-17LOC

íchoola　　*βáanyina*

i-chi-ola　　βa-nina

Aug-7NP-bag　　2NP-mother

「私の友達は自分の母親の代わりに鞄を運んだ」

接語-*ko* が付加された場合でも目的語接辞 *βa*-の挿入は可能であるが，動詞の直後に現れることのできる目的語は (4-103b) で示しているように適用目的語に限られる。

(4-103)a.　*ichíβusa*　　*chanji*

i-chi-βusa　　chi-anji

Aug-7NP-friend　　7SM-1sgPOSS

chaaliβápintíilekó　　*βáanyiná*

chi-a-li-**βa**-pint-**il**-ile-**ko**　　βa-nina

7SM-PST-ANT-3plOM-carry-APPL-ANTF-17LOC　2NP-mother.3sgPOSS

íchoola

i-chi-ola

Aug-7NP-bag

「私の友人は自分の母親の代わりに鞄を運んだ」

b. * i-chi-βusa　chi-anji

Aug-7NP-friend　7SM-1sgPOSS

chi-a-li-**βa**-pint-**il**-ile-**ko**　i-chi-ola

7SM-PST-ANT-3plSM-carry-APPL-ANTF-17LOC　Aug-7NP-bag

βa-nyina

2NP-mother.3sgPOSS

以下のように，適用形派生接辞によって道具も無標で表すことができる。この場合も接語の*-ko* が現れる傾向にある。

(4-104)

ichí	*ichíβeshí*	*échi*	*umulúmbwana*
ichi	i-chi-βeshi	e-chi	u-mu-lumbwana
7.DEM	Aug-7NP-knife	CLF-7SM	Aug-1NP-boy

aalilíilekó　*mángo*

a-a-li-li-**il**-ile-**ko**　ø-mango

3sgSM-PST-ANT-eat-ANTF-17LOC　NUL-mango

「そのナイフが少年がマンゴーを食べるために使ったものだ」

以下の *pemb*「待つ」のように，適用形派生接辞*-il* を挿入しても意味の変化が見受けられないものもある。

(4-105)a.

ni	*βáani*	*ichíβusa*	*chanji*
ni	βaani	i-chi-βusa	chi-anji
COP	2SM.who	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS

chilúkupembéla

chi-ø-li　u-ku-pembel-a

	7SM-PRS-be		Aug-INF-wait-BF	
b.	*ni*	*βáani*	*ichíβusa*	*chanji*
	ni	βaani	i-chi-βusa	chi-anji
	COP	2SM.who	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS
	chilúkupembéla ?			
	chi-ø-li		u-ku-pembel-**il**-a	
	7SM-PRS-be		Aug-INF-wait-APPL-BF	

「私の友人は誰を待っているの？」

適用形が 2 つ連なる場合もある。例えば *pint*「運ぶ」が *pint-il-il*「盗み取る」になるといったように意味が変化する例が見られる一方で，以下の (4-106) の *pok*「受け取る」ように，適用形が 2 つ連なった場合と派生接辞のない基本形とを比較しても，項数の変化はおろか意味の違いもあまり見受けられない場合もある。

(4-106)a.	*naachipénda*	*ínkalata*	*íshi*
	n-achi-pend-a	i-n-kalata	ishi
	1sgSM-HOD.PST-read-BF	Aug-10NP-letter	10.DEM
	naachipóka	*ulúcheelo*	
	n-achi-pok-a	u-lu-cheelo	
	1sgSM-HOD-receive-BF	Aug-11NP-morning	
b.	*naachipénda*	*ínkalata*	*íshi*
	n-achi-pend-a	i-n-kalata	ishi-
	1sgSM-HOD-read-BF	Aug-10NP-letter	10.DEM
	naachipokélelá		*ulúcheelo*
	n-achi-pok-**il**-**il**-a		u-lu-cheelo
	1sgSM-HOD.PST-recierve-APPL-APPL-BF		Aug-11NP-moorning

「私は今朝受け取った手紙を読んだ」

(4-107) は *pok*「受け取る」の例である。基本形の (4-107a) と適用形派生辞が 2 つ付加された (4-107b) ともに「今朝受け取った」という意味を表しており，それが *ínkalata*「手紙」

にかかり名詞句となっている (関係節を表す形式については 4.5.1.2 を参照のこと)。意味の変化が見受けられないばかりか，とることのできる項も双方ともに「私」と *ínkalaka*「手紙」の 2 つであり項数の変化も起きていない。

4.3.2. 使役形①

ランバ語には，2 種類の派生接辞がある。まず-*i* がある。

4.3.2.1. 使役形派生接辞①-*i* の現れ方

使役形派生接辞-*i* は，語根末の子音によって音価が変化して現れる。語根末の子音が鼻音である場合は，使役派生接辞が挿入されても語根末の子音は *m* あるいは *n* のままである。例えば以下のような例である。

(4-108)	-shim-i-	「消す」	cf.	-shim-	「消える」
(4-109)	-lekan-i-	「分ける」	cf.	-lekan-	「分かれる」
(4-110)	-kuman-i-	「と会う」	cf.	-kuman-	「会う」

以下のように語根末の子音が両唇音 *p* あるいは *β* である場合，唇歯摩擦音の *f* で現れる。

(4-111)	-βiifi-	< -βiip-i	「悪くする」	cf.	-βiip-	「悪くある」
(4-112)	-lufi-	< -luβ-i	「なくす」	cf.	-luβ-	「なくなる」

(4-113)

naalufyá	*ímfungúlo*	*yanji*
n-a-luβ-**i**-a	i-n-fungulo	i-anji
1sgSM-PST-get_lost-CAUS1-FV	Aug-9NP-key	9SM-1sgPOSS

「私は自分のカギをなくしている」

cf.

ímfungúlo	*yanji*	*yaalúβa*
i-n-fungulo	i-anji	i-a-**luβ**-a
Aug-9NP-key	9SM-1sgPOSS	9SM-PST-get_lost-FV

「私のカギがなくなった」

それ以外の末子音を持つ語根が使役形派生接辞-*i* をとると，語根末子音はすべて無声硬口

蓋摩擦化する。

(4-114)	-pishi-	< -pit-i	「通す」	cf.	-pit-	「通る」
(4-115)	-poshi-	< pol-i	「治す」	cf.	-pol-	「治る」
(4-116)	-nunshi-	< nunk-i	「匂わす」	cf.	-nunk-	「匂う」
(4-117)	-βutushi-	< -βutuk-i	「～から逃げる」	cf.	-βutuk-	「逃げる」

(4-118)

éli	*βaaβúushishe*		*ichípuupu*
e-li	βa-a-ø-βuuk-**i**-ile		i-chi-puupu
CLF-5SM	3plSM-PST-NUL-wake_up-CAUS1-ANTF		Aug-7NP-wind
ícha	*umulilo*	*íchaakúfuma*	
i-chi-a	u-mu-lilo	i-chi-a	ku-fum-a
Aug-7SM-CONN	Aug-3NP-fire	Aug-7SM-CONN	15NP-come_from-BF
kumútuléesuβa			
ku-mutuleesuβa			
17NP-3NP.east			

「(太陽が上ったとき) 神は焼けつくような東風を備えられた。…」

(Jonah 4:8 より一部抜粋)

(4-117) の *βuushi*「起こす」がそうであるように，使役形派生接辞-*i* が挿入され無声摩擦音化を起こした動詞語基が完了語尾-*ile* をとる場合，-*ile* の[ɾ]は無声硬口蓋摩擦音[ɕ]で現れる。(4-118) のように語根末の子音が β である *luβ*「なくなる」が使役形派生接辞-*i* をとった *lufi*「なくす」においても，使役形接辞-*i* の挿入では音価の変化が起こらなかった *shim*「消える」においても，(4-119) に示しているようにそれは同じである。

(4-118)

naalilufishe	*ímfungúlo*	*yanji*
n-a-li-luβ-**i-ile**	i-n-fungulo	i-anji
1sgSM-PST-ANT-get_lost-CAUS1-ANTF	Aug-9NP-key	9SM-1sgPOSS
ukúfumá	*maílo*	
u-ku-fum-a	mailo	
Aug-INF-come_from-BF	yesterday	

「私は昨日からカギをなくしている」

cf.	*ínfungúlo*	*yanji*	*yaaliluβíle*
	i-n-fungulo	i-anji	i-a-li-luβ-**ile**
	Aug-9NP-key	9SM-1sgPOSS	9SM-PST-ANTget_lost-ANTF

「カギがなくなった」

(4-119)	*ichíβusa*	*chanji*	*chaalishimishé*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-a-li-shim-**i-ile**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-ANT-go_out-CAUS1-ANTF
	umuliló	*kúnganda*	*kwakwe*
	u-mu-lilo	ku-n-ganda	ku-akwe
	Aug-3NP-fire	17NP-9NP-house	17SM-3sgPOSS

「私の友人は自分の家にあがった火を消した」

4.3.2.2. 用法

バントゥ諸語において使役形は,「～に…をさせる」といった使役文を作るよりも他動詞化に用いられるが，ランバ語においてもそれは同様である。

(4-120)a.	*umulilo*	*pánganda*	*yáakwe*	*waachishíma*
	u-mu-lilo	pa-n-ganda	i-akwe	u-achi-**shim**-a
	Aug-3NP-fire	16NP-9NP-house	9SM-3sgPOSS	3SM-HOD.PST-go_out-BF
	wenka			
	u-enka			
	3SM-only			

「この家の火はひとりでに消えた」

b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaachishímya*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-achi-**shim-i**-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD-go_out-CAUS1-FV
	umuliló	*kúnganda*	*kwakwe*
	u-mu-lilo	ku-n-ganda	ku-akwe
	Aug-3NP-fire	17NP-9NP-house	17SM-3sgPOSS

「私の友達は自分の家の火を消した」

(4-120b) は *shim*「消える」が使役接辞-*i* をとった例である。基本形 *shim*「消える」の(4-120a)のとっている項は *umulilo*「(彼の家の) 炎」の 1 つであるのに対して，使役形派生接辞をとった *shimi*「消す」の場合 *ichíβusa*「(私の) 友人」と *umulilo*「(彼の家の) 炎」の 2 つの項をとることができるようになる。つまり使役形派生接辞の挿入によって項がひとつ増えている。使役形派生接辞-*i* によって引き起こされるのは，いわゆる他動詞化である。

kuman「会う」は，以下の (4-121a) のように基本形のままでは会う対象である *umúβyanji*「(背の高い) 私の友人」を付加詞 *ne* によって導かなければならないのに対して，(4-121b) の使役形派生接辞をとった *kumani* は無標で *umúβyanji*「私の友人」をとることができるようになる。

(4-121)a.	*ndeekúmana*	*nee*	*múβiyanji*
	n-ø-lee-kuman-a	ne	mu-βi-anji
	1sgSM-PRS-IMPFV-meet-BF	CONJ	1NP-friend-1sgPOSS
	umúkulu		
	u-mu-kulu		
	Aug-1NP-big		
b.	*ndeekumanyá*	*umúβyanjí*	
	n-ø-lee-kuman-**i**-a	u-mu-βi-anji	
	1sgSM-PRS-IMPFV-meet-CAUS1-BF	Aug-1NP-friend-1sgPOSS	
	umúkulu		
	u-mu-kulu		
	Aug-1NP-big		
	「私は背の高い友人に会う」		

4.3.3. 使役形②

もうひとつの使役形派生接辞は-*ish* である。-*ish* では母音調和が起こるため，語根の最後に出てくる母音が e あるいは o の場合は-*esh* で現れる。

(4-122)	-kalip-ishi-	「怒らせる」	cf.	-kalipa-	「怒る」
(4-123)	-tiin-ishi-	「怖がらせる」	cf.	-tiin-	「怖がる」

(4-124)　-bwel-eshi-　「戻す」　　cf.　-bwel-　「戻る」

以下の (4-125a) は *li*「食べる」が使役形派生接辞-*ishi* をとった例である。派生接辞なしの (4-125b) では「私」と *ínshima*「練りがゆ」の 2 つの項をとっているが，(4-125a) では派生接辞-*ish*-が挿入されることによって *ichíβusa*「友達」，*íkonde*「バナナ」に加えてさらに *βaanina*「母親」の 3 つの項をとることが可能になる。ここでは，使役形派生接辞①-*i* の他動詞化ではなく，「人に～させる」という文字どおり使役の意味が表されている。

(4-125)a.

βáanyina	*βaacjilíisha*	*ichíβusa*
βa-nyina	βa-achi-li-**ish**-a	i-chi-βusa
2NP-mother	3plSM-HOD.PST-eat-CAUS2-BF	Aug-7NP-friend
chanji	*íkonde*	
chi-anji	i-konde	
7SM-1sgPOSS	Aug-banana	

「私の友人の母親は友人にバナナを食べさせた」

b.

naachílya	*ínshima*	*kumáβoko*
n-achi-li-a	i-n-shima	ku-ma-βoko
1sgSM-HOD.PST-eat-BF	Aug-9NP-poridge	17NP-6NP-hand

「私は練りがゆを手で食べた」

(4-125a) では *ichíβusa chanji*「私の友人」が動詞の直後に置かれているが，以下のように *íkonde*「バナナ」も動詞の直後に置くことが可能である。

(4-126)

βaanyina	*βaachilíisha*	*íkonde*
βa-nyina	βa-achi-li-**ish**-a	i-konde
2NP-mother	2SM-HOD.PST-eat-BF	Aug-banana
ichíβusa	*chanji*	
i-chi-βusa	chi-anji	
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	

「私の友人の母親は友人にバナナを食べさせた」

4.3.4. 自発形

自発形の派生接辞は*-ik* であり，他動詞を自動詞化する機能がある。母音調和を起こすため，語根末に最も近い母音が *e* あるいは *o* の場合は*-ek* で現れる。

(4-127)	-chit-ik-	「なされる」	cf.	-chit-	「する」
(4-128)	-toβ-ek-	「壊れる」	cf.	-toβ-	「壊す」

例えば以下の例のような例がある。

(4-129)a.

ímpili	*shaaβoneká*	*kúntanshi*
i-n-pili	shi-a-βon-**ik**-a	ku-n-tanshi
Aug-10NP-moutain	10SM-PST-ANT-see-NEUT-FV	17NP-9NP-be_ahead_of
yanji		
i-anji		
9SM-1sgPOSS		

「山々が目の前に見える」

b.

ndeeβonémpilí		*ishítali*
n-ø-lee-βon-a	i-n-pili	i-shi-tali
1sgSM-PRS-IMPFV-see-BF	Aug-10NP-moutain	Aug-10SN-long
shaalunduká	*pámenso*	*anji*
shi-a-lunduk-a	pa-ma-inso	a-anji
10SM-PST-rise-FV	16NP-6NP-eyes	6SM-1sgPOSS

「私は高い山々が眼前にそびえたっているのを見ている」

(4-129a) は *βon*「見る」に自発形派生接辞*-ik* がついた例である。*βon*「見る」では語根末に最も近い母音が *o* であるため，母音調和を起こし *βonek*「見える」となる。(4-129b) のように *βon*「見る」が派生接辞なしの基本形で現れた場合は *n-*「私」と *impili*「(高い) 山々」の 2 つを項としてとっているのに対して，自発形派生接辞*-ik* をとった (4-129a) *βonek* における項は「山々」の 1 つのみである。つまり自発形派生接辞*-ik* の機能は，いわゆる自動詞化である。

4.3.5. 相互形

相互形の派生接辞は*-an* である。動詞に「互いに～する」という意味を付加する。

(4-130)	-pal-an-	「似る」	cf.	-pala-	「～に似る」
(4-131)	-βon-an-	「会う」	cf.	-βon-	「～と会う」

2 項動詞に相互形の派生接辞*-an* がつく場合，項が 1 つ減る。例えば以下の (4-132a) のように *βon*「見る」に相互形の派生接辞*-an* がついた場合，見る対象である「私の弟」を無標でとることができなくなり，付加詞の *ne* (名詞の形態によっては *na* で現れる，これについては後述) が必要となる。(4-132b) のように基本形であれば「私の弟」を無標でとることが可能である。

(4-132)a.

tuleeβonaná	*né*	*ndume*	*yanji*
tu-ø-lee-βon-**an**-a	ne	n-lume	i-anji
1plSM-PRS-IMPFV-seeRECI-BF	CONJ	9NP-brother	9SM-1sgPOSS
úaali	*músambíshi*		
u-a-a-li	mu-ø-sambishi		
Aug-3sgSM-PST-be	1NP-PRED-teacher		

「私は先生だった弟に会う」

b.

naalibwené	*índume*	*yanji*
n-a-li-βon-ile	i-n-lume	i-anji
1sgSM-PST-ANT-see-ANTF	Aug-9NP-brother	9SM-1sgPOSS
úwaali	*múusambíshi*	
u-a-a-li	mu-ø-sambishi	
Aug-3sgSM-PST-be	1NP-PRED-teacher	

「私は先生だった弟に会った」

Doke (1922) では*-an* 以外に, 接辞*-anshan* も相互形派生接辞として挙げられている (Doke 1922:109)。Doke (1922) は，*-an* は「互いに」に何かを行う当事者が 2 人である場合，*-anshan* はそれが 3 人以上である場合にそれぞれ使われると述べている (Doke1922:109)。しかしな

がら筆者のデータからは，Doke (1922) の述べているような使い分けの根拠を示す例は出てきていない。例えば以下の (4-133) は *sumin*「同意する」が派生接辞-*anshaana* をとった例であるが，「私たち」が 2 人であってもこの発話は有効である。

(4-133)	*twafilwá*	*ukusuminansháana*	*ichaalénga*
	tu-a-filu-a	u-ku-sumin-**anshaan**-a	i-chi-a-leng-a
	1plSM-PST-fail-FV	Aug-INF-agree-RECI2-BF	Aug-7SM-PST-cause-FV
	ichí	*ichílala*	
	ichi	i-chi-lala	
	7.DEM	Aug-7NP-drought	

「私たちはこの干ばつを引き起こした原因にてついて同意し合うことに失敗している」

4.3.6. 受身形

Doke (1922) を見ると受身派生接辞-*u* は生産的であるかのように解釈できるが，実際は派生接辞-*u* によって受身が表されることは筆者のデータではそう多くない。受身派生接辞-*u* をとる動詞語根は，以下のように *fyaal*「生む」や *up*「(女性と) 結婚する」など数が少なく，語彙的に決まっている可能性がある。

(4-134)	-fyaal-u-	「生れる」	cf.	-fyaal-	「生む」
(4-135)	-up-u-	「(女性が) 結婚する」	cf.	-up-	「(男性が女性と) 結婚する」

また，受身派生接辞をとった動詞語基は *u* で終わることになるため，先述のとおり完了語尾-*ile* をとる際にインブリケーションが起こる。例えば，*upu*「(女性が) 結婚する」は以下のように**upwile* ではなく *upilwe* で実現される。-*ile* は *upu* の後ろにそのまま続くのではなく，*ile* のうち *il* が *up* と *u* の間に挿入されることになる。

(4-135) *upu*「(女性が) 結婚する」が完了語尾-*ile* をとった場合

a.	up	**-il**	-u	**-e**	>	*upilwe*
b.	* up		-u	**-ile**	>	* upwile

cf. 基本語尾-*a* をとった場合

up　　-u　　**-a**　　>　　*upwa*

以下の (4-136) は *up*「(男性が女性と) 結婚する」の例である。*up* は基本形では (4-136a) のとおり「男性が女性を娶る」ことを表すが，(4-136b) 派生接辞-*u* の挿入によって「女性が男性に娶られる」こと，つまり女性が結婚することを表すようになる。

(4-136)a.　*ichíβusa*　　*chanji*　　*chilyúúpile*

i-chi-βusa　　chi-anji　　chi-ø-li-up-ile

Aug-7NP-friend　　7SM-1sgPOSS　　7SM-PRS-ANT-marry_a_woman-ANTF

「私の (男性の) 友人は結婚している」

b.　*ichíβusa*　　*chanji*　　*chilyuupílwe*

i-chi-βusa　　chi-anji　　chi-ø-li-up-**u**-ile

Aug-7NP-friend　　7SM-1sgPOSS　　7SM-PRS-ANT-marry_a_woman-PASS-ANTF

「私の (女性の) 友人は結婚している」

先に述べたように，受身が派生接辞-*u* によって表されることは少なく，筆者のデータでは非人称受身によって受身が表されることがほとんどである。ただし，以下のように聖書など古いデータでは，上記の決まった語彙以外にも受身形派生接辞-*u* によって受身が表されている例が見られた。

(4-137)　*néenama*　　*íshiteekelwé*　　*íshinji*

ne　　n-nama　　i-shi-ø-teek-**u**-ile　　i-shi-ngi

CONJ　　10NP-animal　　Aug-10SM-PRS-keep-PASS-ANTF　　Aug-10SM-many

「たくさんの飼われている動物とともに」(Jonah 4:11 より一部抜粋)

以下のような間接受身も派生接辞-*u* によって表すことが可能である。*lok*「降る」がとることのできる項は以下の (4-138a) で示しているとおり *ímfula*「雨」のみである。しかし (4-138b) では受身形派生接辞 *u*-の挿入によって *ichíβusa chanji*「私の友人」を間接受身の主語としてとることができるようになっている。非人称受身ではこのような間接受身を表す

ことはできない。データが不十分なため明言はできないが，このような間接受身を表すことにおいては，受身派生接辞-*u* が生産的に用いられる可能性も考えられる。

(4-138)a.	*ímfula*	*yaalilokelé*		*maílo*
	i-n-fula	i-a-li-lok-ile		mailo
	Aug-9NP-rain	9SM-PST-ANT-rain-ANTF		yesterday
	「昨日雨が降った」			
b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaalílokéelwe*	*maílo*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-a-li-lok-**u**-ile	mailo
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-BE-rain-PASS-ANTF	yesterday
	「私の友人は昨日雨に降られた」			

非人称受身

ランバ語において生産的な受身表現は，4.1.7 で述べたとおり非人称受身が用いられる。ランバ語の非人称受身は，被動主が文頭に置かれ，動詞は 3 人称複数主語接辞 *βa*-を虚辞としてとる。動作主は 17 クラス名詞接頭辞 *ku*-あるいは前置詞 *kuli* によって表され，明示するかどうかは任意である。

(4-139)a.	*ímfumu*	*βaalíípeeye*
	i-n-fumu	**βa**-a-li-ipai-ile
	Aug-9NP-chief	3plSM-PST-ANT-kill-ANTF
	「王は殺された」	
cf.	*ímfumu*	*βaalíípeeye*
	i-n-fumu	**βa**-a-li-ipai-ile
	Aug-9NP-chief	3plSM-PST-ANT-kill-ANTF
	kuβásambi	*βáakwe*
	ku-βa-sambi	βa-akwe
	17NP-2NP-follower	2SM-3sgPOSS
	「王はその従者によって殺された」(= (4-69))	

4.3.7. 反転形

筆者のデータでは見られなかったが，ランバ語には反転形派生接辞-*ulul* が存在する。(4-141) のように母音調和の影響を受け *olol* で現れたり，(4-142) のように子音 *l* が鼻音調和の影響を受け *n* となる。反転形派生接辞は，動詞の表す出来事によってできたものを元に戻すような，英語でいう接頭辞 undo-とほぼ同様の働きをする。例えば，(4-140) のように *fis*「隠す」が-*ulul* の派生によって *fisulul*「明らかにする」となる。

(4-140)	-fis-ulul-	「明らかにする」	>	-fis-	「隠れる」	(Doke 1938:201)
(4-141)	-long-olol-	「解く」	>	-long-	「包む」	(Doke 1938:201)
(4-142)	-min-unun-	「咳払いをする」	>	-min-	「飲み込む」	(Doke 1938:201)

Doke (1938) は，反転形派生接辞を，他動詞形-*ulul* のほかに自動詞形の-*uluk*，使役形の *ulushi*-の 3 つを基底形としている (Doke 1938:200)。例えば *fis*「隠す」が自動詞形の反転形派生接辞によって *fisuluk*「明らかになる」となると説明している (Doke 1938:200，201)。反転形については Meeussen (1967) においても自動詞形と他動詞形の 2 種類が再建されていることから (Meeussen 1967:92)，同一語根から自動詞と他動詞の両方が派生する両極派生であると考えられる。

(4-143) *fisuluk* 「明らかになる」
-fis-**uluk**-
hide-CONV.INTR

しかしながら，使役形の-*ulushi* を基底として立てることについては疑問が残る。Doke (1938) によれば，(4-141) の *long*「包む」は派生接辞-*ulushi* によって *longoloshi*「包んでいない状態を引き起こす (cause to be in an unpacked state)」という意味になるとしている (Doke 1938:202)。しかしながらすでに述べたように，使役形派生接辞の-*i* が派生する場合，語根末の子音が両唇音でない限り，語根末子音はすべて硬口蓋摩擦音で実現される (cf. (4-114)～(4-117))。-*ulul* の末子音 *l* は両唇音ではないため，使役形派生接辞-*i* によって硬口蓋摩擦音化が起こり得る。よって，-*ululushi* をわざわざ反転形の基底形のひとつとして設定する必要はなく，以下のように反転形派生接辞-*ulul* に使役形派生接辞-*i* が後続したものだと考

えればよい。

(4-145)	*longoloshi*	「包んでいない状態を引き起こす」	>	*longolol*	「解く」
	-long-ulul-i-			-long-ulul-	
	pack-CONV-CAUS1			pack-CONV	

4.4. 接語

接語とは，動詞の語尾の後ろにさらに付加されるもので，必須要素ではない。例えば場所を表す*-po*，*-ko*，*-mo* や，複数を表す*-eni* がある。これらは，語尾の代わりに動詞語根の直後に膠着することはなく，かといって語として自立しているわけでもない。そのため接語として位置付けている。(4-157) の*-po* については 4.5.2 で，(4-158)-*eni* については 4.5.3.1 で改めて説明する。

(4-156) ichíβusa chanji chaachipintílako
i-chi-βusa chi-anji chi-achi-pint-il-a-**ko**
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-HOD-carry-APPL-BF-17LOC
íchoola *βáanyina*
i-chi-ola βa-nina
Aug-7NP-bag 2NP-mother
「私の友達は自分の母親の代わりに鞄を運んだ」(= (4-102b))

(4-157) *tachiléelepo* *βukúumo*
ta-chi-ø-laal-ile-**po** βu-kuumo
NEG-7SM-NUL-fall_asleep-ANTF-16LOC 14NP-now
「その人 (友人) は今は寝ていない」

(4-158) *pyaŋgeení* *palúβansa*
pyang-a-**eni** pa-lu-βansa
sweep-BF-PL 16NP-11NP-garden
「(複数の人に対して) 今すぐに庭を掃いて」

4.5. テンス・アスペクト，極性，法に関わる接辞

この節では，テンス・アスペクト，極性，法に関わる接辞を挙げる。テンス・アスペクトについては，改めて章を設けているので (7 章)，それぞれの形式の用法についてはそこで述べることとし，ここでは形式を挙げるのみとする。テンス・アスペクトによっては複合形式によって表される。これについても後述する。

4.5.1. 肯定のパラダイム

肯定の場合, テンス・アスペクト形式によっては主節と従属節とで違う現れ方をする。以下, 主節と従属節に分けて各形式を挙げる。

4.5.1.1. 主節における動詞のパラダイム

テンス・アスペクト接辞 (以下 TA 接辞) によって表されるテンス・アスペクト形式は以下のとおりである。SM は主語接辞の略，VR は動詞語根の略である。

形式①昨日以前の過去完結相	: SM-	a-	li-	VR	-ile
形式②当日過去完結相	: SM	-achi-		VR	-a
形式③過去非完結相	: SM-	a-	lee-	VR	-a
形式④当日過去非完結相	: SM-	achi-	laa-	VR	-a
形式⑤現在完結相	: SM-	la-		VR	-a
形式⑥現在非完結相	: SM-	ø-	lee-	VR	-a
形式⑦現在持続相 A	: SM-	ø-	chi-	VR	-a
形式⑧現在持続相 B	: SM	ø-	chi-	VR	-ile
形式⑨当日未来完結相	: SM-	aku-		VR	-a
形式⑩当日未来非完結相 A	: SM-	aku-	lee-	VR	-a
形式⑪当日未来非完結相 B	: SM-	aku-	lee-	VR	-ile
形式⑫明日以降の未来完結相	: SM-	ka-		VR	-a
形式⑬明日以降の未来非完結相 A	: SM-	ka-	lee-	VR	-a
形式⑭明日以降の未来非完結相 B	: SM-	ka-	lee-	VR	-ile
形式⑮完了相 A	: SM-	a-		VR	-a
形式⑯完了相 B	: SM-	ø-	li-	VR	-ile

なお，(4-159) 以降の例で出てくる主語接辞 *chi*-は 7 クラス名詞 *ichiβusa*「友人」と呼応している。

形式①昨日以前の過去完結相 (Pre-Hodiernal Past Perfective)

(4-159) *chaalípendele*

chi-**a**-**li**-pend-**ile**

7SM-PST-ANT-read-ANTF

「その人 (友人) は (昨日以前に本を) 読んだ」

TA 接辞 *a*-の前に 1 人称単数の主語接辞 *n*-が入る場合, *n*-の後ろに母音が続くことになるが, この場合は以下のように子音挿入は起こらない (cf. 3.1.5，4.1.1)。これは形式①に現れる TA 接辞 *a*-に限ったことではなく，どの TA 形式の接辞 *a*-が 1 人称単数主語接辞 *n*-に続く場合にも子音挿入は起こらない。

(4-160) ***naa****lipendéle*

n-**a**-li-pend-ile

1sgSM-PST-ANT-read-ANTF

「私は (昨日以前に本を) 読んだ」

形式②当日過去完結相 (Hodiernal Past Perfective)

(4-161) *chaachipénda*

chi-**achi**-pend-**a**

7SM-HOD.PST-read-BF

「その人 (友人) は (今日) 読んだ」

形式③過去非完結相 (Past Imperfective)

(4-162) *chaaléépenda*

chi-**a**-**lee**-pend-**a**

7SM-PST-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は読んでいた」

形式④当日過去非完結相 (Hodiernal Past Imperfective)

(4-163) *chaachiláápenda*

chi-**achi-laa**-pend-**a**

7SM-HOD.PST-IMPFV2-read-BF

「その人 (友人) は (今日のある時点で) 読んでいた」

形式⑤現在完結相 (Present Perfective)

(4-164) *chilápenda*

chi-**la**-pend-**a**

7SM-PFV-read-BF

「その人 (友人) は読む」

形式⑥現在非完結相 (Present Imperfective)

(4-165) *chiléépenda*

chi-**ø-lee**-pend-**a**

7SM-PRS-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は読んでいる，(これから) 読む」

形式⑦現在持続相 A (Present Persistive A)

(4-166) *chichipénda*

chi-**ø-chi**-pend-**a**

7SM-PRS-PES-read-BF

「その人 (友人) は未だに読んでいる」

形式⑧現在持続相 B (Present PersistiveB)

(4-167) *chichiléele*

chi-**ø-chi**-laal-**ile**

7SM-PRS-PES-fall_asleep-ANTF

「その人 (友人) は未だに寝ている」

形式⑨当日未来完結相 (Hodiernal Future Perfective)

(4-168) *chaakúpenda*

chi-**a**-**ku**-pend-**a**

7SM-FUT-HOD.FUT-read-BF

「その人 (友人) は (今日のうちに) 読むだろう」

形式⑩当日未来非完結相 A (Hodiernal Future Imperfective A)

(4-169) *chaakuléépenda*

chi-**a**-**ku**-**lee**-pend-**a**

7SM-FUT-HOD.FUT-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は (今日のうちのある時点で) 読んでいるだろう」

形式⑪当日未来非完結相 B (Hodiernal Future Imperfective B)

(4-170) *chaakuléeleele*

chi-**a**-**ku**-**lee**-laal-**ile**

7SM-FUT-HOD.FUT-IMPFV1-fall_asleep-ANTF

「その人 (友人) は (今日のうちのある時点で) 寝ているだろう」

形式⑫明日以降の未来完結相 (Post-Hodiernal Future Perfective)

(4-171) *chikápenda*

chi-**ka**-pend-**a**

7SM-REM.FUT-read-BF

「その人 (友人) は (明日以降のある時点で) 読むだろう」

形式⑬明日以降の未来非完結相 A (Post-Hodiernal Future Imperfective A)

(4-172) *chikaléépenda*

chi-**ka**-**lee**-pend-**a**

7SM-REM.FUT-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は (明日以降のある時点で) 読んでいるだろう」

形式⑭明日以降の未来非完結相 B (Post-Hodiernal Future Imperfective B)

(4-173) *chikaléeleele*

chi-**ka**-**lee**-laal-**ile**

7SM-REM.FUT-fall_asleep-ANTF

「その人 (友人) は (明日以降のある時点で) 寝ているだろう」

形式⑮完了相 A (Anterior A)

(4-174) *cháápenda*

chi-**a**-pend-**a**

7SM-PST-read-FV

「その人 (友人) はすでに読んでいる」

形式⑯完了相 B (Anterior B)

(4-175) *chilípendele*

chi-**ø**-**li**-pend-**ile**

7SM-PRS-ANT-read-ANTF

「その人 (友人) はすでに読んでいる」

形式⑰継起 (Narrative)

(4-176) *kachipénda*

ka-chi-pend-**a**

NAR-7SM-read-BF

「そしてその人 (友人) は読んだ」

形式⑱継起非完結相 A (Narrative Imperfective A)

(4-177) *kachiléependa*

ka-chi-**lee**-pend-**a**

NAR-7SM-IMPFV1-read-BF

「そしてその人 (友人) は読んでいた」

形式⑲継起完結相 B (Narrative Imperfective B)

(4-178) *kachiléeleele*

ka-chi-**lee**-laal-**ile**

NAR-7SM-IMPFV1-fall_asleep-ANTF

「そしてその人 (友人) は寝ていた」

完了語尾-*ile*

完了語尾-*ile* はインブリケーションという現象を引き起こす。完了語尾-*ile* は，動詞語根あるいは語基の最後の母音が *e* あるいは *o* である場合は-*ele* で現れ，語根あるいは語基末の子音が鼻音である場合は-*ine* あるいは-*ene* となる。完了語尾-*ile* が動詞語根あるいは動詞語基に続く場合，通常は以下の (4-179a) のように *pendele* となり，(4-179b) の基本語尾-*a* をとった *penda* と比べると音節の数がひとつ増えている。

(4-179) a. *chaalípendéle*

chi-a-li-pend-**ile**

7SM-PST-ANT-read-ANTF

「その人 (友人) は (昨日) 読んだ」

b. *chaachipénda*

chi-achi-pend-**a**

7SM-HOD.PST-read-BF

「その人 (友人) は (今日) 読んだ」

一方 *laal*「寝入る」では，以下のように単純に-*ile* が続き**laalile* となるわけではない。(4-180a) で示しているように，-*ile* のうち-*il* が語根末子音 l の前に入り込み，残った *e* のみが語根末子音の後ろに続く。*laa* の母音 *a* と-*il* の最初の母音 *i* が融合を起こし *e* となり，-*il* のうち子音 *l* は消失し，*leele* で実現される。基本語尾-*a* をとった (4-180c) の *laala* と比べても，音節の数に変化はない。

(4-180) a.	laa	**-i(l)**	l	**-e**	>		*leele*
b.	* laal			**-ile**	>	*	laaile
c.	laal			**-a**	>		*laala*

インブリケーションを起こす動詞語根あるいは語基には，音節構造にはある程度の共通点が見いだせる。*laal*「寝入る」と同じく *al* で終わる動詞 *ikal*「座る」も (4-181) のようにインブリケーションを起こす。ほかには，(4-182) *shaan*「踊る」や *kaan*「断る」などの *an* で終わる動詞語根，(4-170) の *kolu*「酔っぱらう」や *temu*「好く」などの *u* で終わる動詞語根が挙げられる (cf. Doke 1922:119-123，Doke 1938:230-240)。なお (4-183) の *kolu*「酔っぱらう」のように語根末が母音である場合，(4-181)，(4-182) とは違ってインブリケーションによる*-il* の子音の消失は起こらない。

(4-181)		ik**a**	**-i(l)**	l	**-e**	>		*ikeele*
	*	ikal			**-ile**	>	*	ikalile
(4-182)		shaa	**-i(l)**	n	**-e**	>		sheene
	*	shaan			**-ile**	>	*	shaanine
(4-183)		kol	**-il**	u	**-e**	>		*kolelwe*
	*	kolu			**-ile**	>	*	kolwile

派生接辞の後続によってこれらの語末環境となった場合も同様で (cf. Doke 1922:120-121，Doke 1938:230-231)，例えば *pal*「似る」が相互形派生接辞*-an* をとった *palan*「(互いに) 似る」や，*up*「(男性が) 結婚する」が受身形派生接辞*-u* をとった *upu*「(女性が) 結婚する」もインブリケーションを起こし，以下のようにそれぞれ *paleene*，*upilwe* となる (受身形派生接辞については 4.3.6 を参照のこと)。

(4-184)		pal	**-a**	-i(l)	**n**	-e	>		*paleene*	cf. (4-130)
		pal	**-an**			-ile	>	*	palanine	
(4-185)		up		-il	**-u**	-e	>		*upilwe*	cf. (4-135)
		up			**-u**	-ile	>	*	upwile	

kuman「会う」が使役形派生接辞①*-i* をとった *kumani*「と会う」では，以下のように語根末子音 *n* の前に*-ile* のうち*-il* が入り込み *l* は消失し，残りの*-e* は使役形派生接辞①*-i* の後ろに続く。

(4-186)		kuma	-i(l)	n	**-i**	-e	>		*kumeenye*
		kuman			**-i**	-ile	>	*	kumaniile

4.5.1.2. 従属節における動詞のパラダイム

従属節に現れる形式を以下に示す。従属節には，完了相を表す接辞 *li*-や現在完結相を表す接辞 *la*-は現れない。従属節の形式で現れた動詞は，先行する名詞と呼応することで，その名詞を修飾する関係節になる。主格を修飾する場合は，冒頭母音を伴って名詞にそのまま続く。非主格を修飾する場合は，その名詞と呼応した指示詞が現れ，それに動詞が続く。動詞が，5 クラスの指示詞 *ili* あるいは 11 クラスの指示詞 *ulu*，16 クラスの指示詞 *apo* と一致した形で現れると，時を表す副詞節を表す。以下に全形式を示す。

形式①昨日以前の過去完結相	: SM-	a-	ø-	VR	-ile
形式②当日過去完結相	: SM	-achi-		VR	-a
形式③過去非完結相	: SM-	a-	lee-	VR	-a
形式④当日過去非完結相	: SM-	achi-	laa-	VR	-a
形式⑤現在完結相	: SM-	ø-		VR	-a
形式⑥現在非完結相	: SM-	ø-	lee-	VR	-a
形式⑦現在持続相 A	: SM-	ø-	chi-	VR	-a
形式⑧現在持続相 B	: SM	ø-	chi-	VR	-ile
形式⑨当日未来完結相	: SM-	aku-		VR	-a
形式⑩当日未来非完結相 A	: SM-	aku-	lee-	VR	-a
形式⑪当日未来非完結相 B	: SM-	aku-	lee-	VR	-ile
形式⑫明日以降の未来完結相	: SM-	ka-		VR	-a
形式⑬明日以降の未来非完結相 A	: SM-	ka-	lee-	VR	-a
形式⑭明日以降の未来非完結相 B	: SM-	ka-	lee-	VR	-ile
形式⑮完了相 A	: SM-	a-		VR	-a
形式⑯完了相 B	: SM-	ø-	ø-	VR	-ile

以下，主節の場合と現れる TA 接辞が異なる TA 形式の例を挙げる。

従属節に現れる場合の①昨日以前の過去完結相 (Pre-Hodiernal Perfective)

(4-187) *ichíβusa* *chanji* *íchaapéndele*

i-chi-βusa chi-anji i-chi-**a**-**ø**-pend-**ile**

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS Aug-7SM-PST-NUL-read-ANTF

「昨日 (手紙を 4 通) 読んだ私の友人」

(4-188) *úlu* *ichíβusa* *chanji* *chaapéndelé* …

ulu i-chi-βusa chi-anji chi-**a**-**ø**-pend-**ile**

11.DEM Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PST-NUL-read-ANTF

「私の友人が (本を) 読んだとき，…」

cf. *chaalípendele*

chi-**a**-**li**-pend-**ile**

7SM-PST-ANT-read-ANTF

「その人 (友人) は (昨日以前に) 読んだ」

従属節に現れる場合の⑤現在完結相 (Present Perfective)

(4-189) *ichíβusa* *chanji* *íchipénda*

i-chi-βusa chi-anji i-chi-**ø**-pend-**a**

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS Aug-7SM-NUL-read-BF

「(毎日本を) 読む私の友人」

cf. *chilápenda*

chi-**la**-pend-**a**

7SM-PFV-read-BF

「その人 (友人) は読む」

従属節に現れる場合の⑯完了相 B (Anterior B)

(4-190) *ápo* *íng'anda* *yanji*

apa-**o** i-n-ganda i-anji

16.DEM-MESIO Aug-9NP-house 9SM-1sgPOSS

ipiiliilé …

i-**ø**-**ø**-pi-il-il-**ile**

9SM-PRS-NUL-burn-APPL-APPL-ANTF

「私の家が焼失して以来，…」

cf.	*íng'anda*	yanji	*ilipiilé*	*litátu*
	i-n-ganda	i-anji	i-**ø**-**li**-pend-**ile**	li-tatu
	Aug-9NP-house	9SM-1sgPOSS	9SM-PRS-ANT-read-ANTF	5SM-three

「私の家は 3 回消失している」(= (4-30))

4.5.2. 否定のパラダイム

否定は, それぞれのテンス・アスペクト形式に前主語接辞 *ta*-が現れることによって表される。肯定の場合とは違い，テンス・アスペクト接辞が主節と従属節とで異なる現れ方をする形式はない。肯定の従属節の場合と同様，否定の形式において現れることができる接辞は限られており，完了相を表す接辞 *li*-や現在完結相を表す接辞 *la*-に加えて，当日未来を表す接辞 *ku*-も否定のパラダイムでは現れることはない。また，形式によっては接語-*po* の付加よって意味が異なる。以下に全形式を示す。

形式①昨日以前の過去完結相の否定	: ta-	SM-	a-	ø-	VR	-ile	-po
形式②当日過去完結相の否定	: ta-	SM	-achi-		VR	-a	-po
形式③過去非完結相の否定	: ta-	SM-	a-	lee-	VR	-a	-po
形式④当日過去非完結相の否定	: ta-	SM-	achi -	laa-	VR	-a	-po
形式⑤現在完結相の否定	: ta-	SM-	ø-		VR	-a	-po
形式⑥現在非完結相の否定	: ta-	SM-	ø-	lee-	VR	-a	-po
形式⑦現在持続相 A の否定	: 該当する形式なし						
形式⑦現在持続相 B の否定	: 該当する形式なし						
形式⑨当日未来完結相の否定	: ta-	SM-	a-		VR	-e	-po
形式⑩当日未来非完結相 A の否定	: 4.5.4 を参照						
形式⑪当日未来非完結相 B の否定	: 4.5.4 を参照						
形式⑫明日以降の未来完結相の否定 A	: ta-	SM-	ka-		VR	-a	-po
形式⑫明日以降の未来完結相の否定 B	: ta-	SM-	-a	ka-	VR	-e	-po

形式⑬明日以降の未来非完結相 A の否定	: ta-	SM-	ka-	lee-	VR	-a	-po
形式⑭明日以降の未来非完結相 B の否定	: ta-	SM-	ka-	lee-	VR	-ile	-po
形式⑮完了相 A，形式⑯完了相 B の否定 A	: ta-	SM-	ø-	ø-	VR	-ile	-po
形式⑮完了相 A，形式⑯完了相 B の否定 B	: ta-	SM-	ø-	ø-	VR	-ile	
形式⑮完了相 A，形式⑯完了相 B の否定 C	: ta-	SM-	nga-		VR	-a	-po
形式⑮完了相 A，形式⑯完了相 B の否定 C	: ta-	SM-	nga-		VR	-a	
形式⑮完了相 A，形式⑯完了相 B の否定 C	: ta-	SM-	nga-		VR	-a	-po

それぞれの形式の例は以下のとおりである。

形式①昨日以前の過去完結相 (Pre-Hodiernal Past Perfective) の否定

(4-191) *tachaapendélepo*

ta-chi-**a**-**ø**-pend-**ile**-**po**

NEG-7SM-PST-NUL-read-ANTF-16LOC

「その人 (友人) は (昨日) 読まなかった」

形式②当日過去完結相 (Hodiernal Past Perfective) の否定

(4-192) *tachaachipéndapo*

ta-chi-**achi**-pend-**a**-**po**

NEG-7SM-HOD.PST-read-BF-16LOC

「その人 (友人) は (今日) 読まなかった」

形式③過去非完結相 (Past Imperfective) の否定

(4-193) *tachaaléepéndapo*

ta-chi-**a**-**lee**-pend-**a**-**po**

NEG-7SM-PST-IMPFV1-read-BF-16LOC

「その人 (友人) は読んでいなかった」

形式④当日過去非完結相 (Hodiernal-Past Imperfective) の否定

(4-194) *tachaachiláapéndapo*

ta-chi-**achi-laa**-pend-**a-po**

NEG-7SM-HOD.PST-read-BF-16LOC

「その人 (友人) は (今日) 読んでいなかった」

形式⑤現在完結相 (Present Perfective) の否定

(4-195) *tachipéndapo*

ta-chi-**ø**-pend-**a-po**

NEG-7SM-NUL-read-BF-16LOC

「その人 (友人) は読まない」

形式⑥現在非完結相 (Present Imperfective) の否定

(4-196) *tachiléepéndapo*

ta-chi-**ø-lee**-pend-**a-po**

7SM-PRS-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は今読んでいない」

(4-197) *tachiléépenda*

ta-chi-**ø-lee**-pend-**a**

NEG-7SM-PRS-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は (長い間) 読んでいない」

形式⑦，⑧現在持続相 A，B (Present Persistive A，B) の否定

存在しない。

形式⑨当日未来完結相 (Hodiernal-Future Perfective) の否定

TA 接辞 *a*-と語尾-*e*，接語-*po* によって、以下のように「～しようとしない」という意味が表される。「今日のうちに読まないだろう」という意味は，複合形式によって表される。複合形式については 4.5.4 で述べる。

(4-198) *tachaapéndepo*

ta-chi-**a**-pend-**e**-po

NEG-7SM-FUT[10]-read-SF-16LOC

「その人 (友人) は (本を) 読もうとしない」

形式⑩，⑪当日未来非完結相 A，B (Hodiernal Future Imperfective A，B) の否定

当日未来の非完結相 (Hodiernal Future Imperfective) においては，(4-169)，(4-170) に対応する否定形は存在しない。複合形式によって代用されるが，この形式については 4.5.4 で述べる。

形式⑫明日以降の未来完結相 (Post-Hodiernal Future Perfective) の否定

以下の 2 形式が存在する。

(4-199) a. *tachikápendapo*

ta-chi-**ka**-pend-**a**-po

NEG-7SM-REM.FUT-read-BF-16LOC

b. *tachaakápendépo*

ta-chi-**a**-**ka**-pend-**e**-po

NEG-7SM-FUT-REM.FUT-read-SF-16LOC

「その人 (友人) は (明日以降のある時点で本を) 読むだろう」

複合形式によっても明日以降の未来の完結相が表される。これについても 4.5.4 で述べる。

形式⑬明日以降の未来非完結相 A (Post-Hodiernal Future Imperfective A) の否定

(4-200) *tachikáleepéndapo*

ta-chi-**ka**-**lee**-pend-**a**-**po**

NEG-7SM-REM.FUT-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は (明日以降のある時点で) 読んでいないだろう」

---

[10] (4-198)，(4-199b) および後述する (4-231) は未来の否定を表す例文であり，TA 接辞 *a*-が現れている。TA 接辞 *a*-は過去を表す形式①や形式③にも現れるが，未来の否定を表す文における TA 接辞 *a*-と過去を表す形式①や形式③に現れる TA 接辞 *a*-が同じ形態素であるとは考えにくい。

形式⑭明日以降の未来非完結相 B (Post-Hodiernal Future Imperfective B) の否定

(4-201) *tachikáleeléélepo*

ta-chi-**ka**-**lee**-laal-**ile**-po

7SM-REM.FUT-fall_asleep-ANTF-16LOC

「その人 (友人) は (明日以降のある時点で) 寝ていないだろう」

形式⑮，⑯完了相 A，B (Anterior A，B)の否定

TA 接辞 *a*-と語尾-*a* による組み合わせによって表される Anterior である形式⑮には，対応する否定の形式が存在しない。文脈によって (4-192) で示した形式④当日過去完結相の否定が用いられたり，以下の (4-202) に示しているように，TA 接辞 *li*-と完了語尾-*ile* の組み合わせによって表される Anterior である形式⑯に対応する否定形式が用いられる。

(4-202) *tachiléelepo* *βukúumo*

ta-chi-**ø**-laal-**ile**-**po** βu-kuumo

NEG-7SM-NUL-fall_asleep-ANTF-16LOC 14NP-now

「その人 (友人) は今は寝ていない」(= (4-157))

上の形式から接語-*po* を除くと，以下の (4-203) のように *βukuumo*「今」とは共起できなくなる。(4-204) のように，*leelo*「今日」など表す時間の範囲が広くなければならない。

(4-203) * ta-chi-**ø**-**ø**-laal-**ile** βu-kuumo

NEG-7SM-PRS-NUL-fall_asleep-ANTF 14NP-now

(int. その人 (友人) は今は寝ていない)

(4-204) *tachiléele* *leelo*

ta-chi-**ø**-**ø**-laal-**ile** leelo

NEG-7SM-PRS-NUL-fall_asleep-ANTF today

「その人 (友人) は今日は寝ていない」

(4-205) のように，接語-*po* がある場合「まだ～していない」という意味になる。

(4-205) *tachipendélepo* *ínkaláta* *shíne*

ta-chi-**ø**-**ø**-pend-**ile**-**po** i-n-kalata shi-ne

7SM-PRS-NUL-read-ANTF-16LOC Aug-10NP-letter 10SM-four

「その人 (友人) はまだ手紙 4 通を読んでいない」

(4-205) と同じ意味を表すのに，以下の (4-206) ように接辞 *nga-*が用いられる (接辞 *nga-*については 4.5.3.3 で述べる)。

(4-206) *tachíngapénda* *ínkaláta* *shíne*

ta-chi-**nga**-pend-**a** i-n-kalata shi-ne

NEG-7SM-PROB-read-BF Aug-10NP-letter 10SM-four

「その人 (友人) はまだ手紙 4 通を読んでいない」

(4-206) の形式に接語-*po* を加えると，「まだ～していない」という意味ではなく，(4-207) のように「～したことがない」という意味になる。

(4-207) *tachíngapéndapo* *ínkalata*

ta-chi-**nga**-pend-a-**po** i-n-kalata

NEG-7SM-PROB-read-BF-16LOC Aug-9NP-letter

「その人 (友人) は手紙を読んだことがない」

主語接辞が 1 人称単数である場合の否定

主語接辞が 1 人称単数である場合，否定は *ta-*ではなく *shi-*によって表される。*shi-*の現れる位置は，前主訴接辞の位置ではなく，主語接辞の後ろである。以下に例を示す。

(4-208) *nshaashéenepó* *néeli* *paníini*

n-**shi**-**a**-**ø**-shaan-**ile**-**po** neeli pa-niini

1sgSM-NEG-NUL-dance-ANTF-16LOC neither 16SM-little

「私は (昨日) 少しも踊っていない」

(4-209) *nshimupamínepo*

n-**shi-ø-ø**-mu-pam-**ile-po**

1sgSM-NEG-PRS-NUL-3sgOM-hit-ANTF-16LOC

「私は彼を殴っていない」

従属節における否定

従属節で現れる否定の形式は，主節の否定の形式と現れる TA 接辞に変化はない。ただし，主格の関係節であっても肯定の場合とは違って冒頭母音が現れることはなく，代わりに修飾する名詞を受けた指示詞が従属節形の動詞の前に現れる。以下の (4-210) は形式①昨日以前の過去完結相の否定が用いられた主格の例である。(4-211) は非主格の例であるが，筆者のデータではみられなかったため Doke (1938) から引用している。(4-211) で用いられているのは現在非完結相の複合形式の否定である。非完結相の複合形式については 4.5.4 で述べる。

(4-210)	*ichíβusa*	*chanji*	*íchi*	*tachaapendélepo*
	i-chi-βusa	chi-anji	**ichi**	**ta**-chi-**a-ø**-pend-**ile-po**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7.DEM	NEG-7SM-PST-NUL-read-ANTF

「(昨日本を) 読まなった私の友人」

(4-211)	aβantu	aβo	tatulukutemwa	
	a-βa-ntu	**aβa-o**	**ta**-tu-**ø-li**	**u-ku**-temu-**a**
	Aug-2NP-person	2.DEM-MESIO	NEG-1plSM-PRS-be	Aug-15NP-love-BF

「私たちが好きでない人々」(Doke 1938:434)

11 クラスの指示詞 *ulu* に *nga*-の否定の形式がかかると，以下のように「～する前に」という意味を表す副詞節となる。

(4-212)	*úlu*	*ichíβusa*	*chanji*	*tachíngapenda*
	ulu	i-chi-βusa	chi-anji	**ta**-chi-**nga**-pend-**a**
	11.DEM	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	NEG-7SM-PROB-read-BF

「私の友人が (本を) 読む前に」

4.5.3. そのほかの形式

4.5.3.1. 命令法

動詞語根あるいは語基に基本語尾-*a* が続き，以下のように構成される。

動詞語根 (‐派生接辞)‐a

(4-213) *pyanga* *palúβansa*

pyang-**a** pa-lu-βansa

sweep-BF 16NP-11NP-garden

「(ひとりに対して) 今すぐに庭を掃いて」

命令する相手が複数いる場合，(4-214) のように接語-*eni* が現れる。

(4-214) *pyaŋgeení* *palúβansa*

pyang-**a-eni** pa-lu-βansa

sweep-BF-PL 16NP-11NP-garden

「(複数の人に対して) 今すぐに庭を掃いて」(= (4-158))

なお筆者のデータでは見られなかったが，Doke (1938) によれば，目的語接辞を伴う場合は語尾が-*a* から-*e* に変化する (Doke 1938:247)。以下に Doke (1938) のデータを引用する。

(4-215) *βaβuule* *fyonse*

βa-βuul-e fi-onse

2OM-tell-SF 8SM-all

「その人たちにすべてを伝えて」(Doke 1938:247)

否定の命令は，以下のように 15 クラス名詞接頭辞 *ku*-によって表される不定詞の前に否定の接辞 *te*-を伴って表される。

(4-216) *teekúlaβila*

te-ku-laβil-a

NEG2-15NP-speak-BF

「話さないで」

4.5.3.2. 接続法

接続法は，語尾に*-e* が現れ，以下のように構成される。

主語接辞‐(目的語接辞‐) 動詞語根 (‐派生接辞)‐e

(4-217) *upyánge* *mulúβansa*

u-pyang-**e** mu-lu-βansa

2sgSM-sweep-SF 18NP-11NP-garden

「庭を掃いてください」

否定の場合は主語接辞の後ろに *i-*が現れる。語尾は*-e* でなく*-a* である。

(4-218) *wiiβútuká* *panó*

u-**i**-βutuk-**a** pa-no

2sgSM-NEG-run-BF 16SM-PROX.DEM

「ここで走らないでください」

4.5.3.3. モダリティを表す接辞 *nga-*

4.5.2 で挙げた完了相の否定を表す形式において現れた接辞*nga-*は, Doke (1938) はConditional と呼んでおり，「ほかのバントゥ諸語と同じく可能性を表」し，「推測に基づく主張や，ある種の実現していない状況において使われる」としている (Doke 1938:293)。例えば，筆者のデータからは以下の (4-219) のような例が見られた。(4-219) の *laal*「寝入る」が接辞 *nga-*と基本語尾 *-a* をとった形式が表している *chingalaala*「(友人は) 寝るだろう」は，話し手の推測による主張である。

(4-219)	*ichíβusa*	*chanji*	*chiŋgálaalá*		*nangú*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**nga**-laal-**a**		nangu
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PROB-fall_asleep-BF		even
	βakálishéngomá			*sháani*	*mailo*
	βa-ka-lish-a		i-n-goma	shaani	mailo
	2SM- REM.FUT-play-BF		Aug-10NP-drum	how	tomorrow

「私の友人は，明日どんなに太鼓をたたかれようが寝るだろう」

以下の (4-220) では，従属節によって表されている「弟は強い」という根拠に基づき「弟は働ける」という話し手が行った判断が，接辞 *nga-*と基本語尾*-a* をとることによって表されている。

(4-220)	*índume*	*yanji*	*ingachíta*	*imilimo*
	i-n-lume	i-anji	i-**nga**-chit-**a**	i-mi-limo
	Aug-9NP-brother	9SM-1sgPOSS	9SM-PROB-do-BF	Aug-4NP-work
	pakúti	*íikosele*		
	pakuti	i-ø-kos-ile		
	because	9SM-PRS-be_strong-ANTF		

「私の弟は強いので働ける」

以上の例から接辞 *nga-*が表していることについて言えるのは，動詞が表す出来事が実際に起こるか否かについて，話し手の主観によって判断が下されているということである。話し手の心的態度が含まれていることから，接辞 *nga-*によって表されているのはモダリティであると考えられる (cf. Palmer 2001:24, 澤田 2009)。具体的にどのモダリティを表しているかについては，さらなる考察が必要である。

4.5.4. 複合形式によって表されるテンス・アスペクト，極性，法

4.5.4.1. コピュラ動詞 *li* が用いられる形式

4.5.1 において，TA 接辞 *achi-*と基本語尾*-a* の組み合わせによって表される当日過去完結相の形式②を挙げたが，コピュラ動詞の過去形 (コピュラ動詞については 5.1 で改めて述べる) の

後ろに TA 接辞-*a* と語尾-*a* によって表される Anterior の形式⑮が続くことによっても，当日過去完結相が表される (以降，形式⑳あるいは当日過去複合形式と呼ぶ)。例えば以下の (4-221) である。

(4-221) a. *chaalí* *chaapénda*
chi-**a**-**li** chi-**a**-pend-**a**
7SM-PST-be 7SM-PST-read-FV
b. *chaachipénda*
chi-**achi**-pend-**a**
7SM-HOD.PST-read-BF (= (4-161))
「その人 (友人) は (今日) 読んだ」

コピュラ動詞の過去形に持続相の形式⑦あるいは⑧が後続すると，過去テンスにおける持続相が表される。

(4-222) *chaalí* *chichipénda*
chi-**a**-**li** chi-**ø**-**chi**-pend-**a**
7SM-PST-be 7SM-PRS-PES-read-BF
「その人 (友人) は (過去のある時点において) まだこの本を読んでいた」
(4-223) *chaalí* *chichiplele*
chi-**a**-**li** chi-**ø**-**chi**-laal-**ile**
7SM-PST-be 7SM-PRS-PES-fall_asleep-ANTF
「その人 (友人) は (過去のある時点において) まだ寝ていた」

非完結相は TA 接辞 *lee*-によっても表されるが，以下のようにコピュラ動詞 *li* の後ろに動詞語幹が 15 クラス名詞接頭辞 *uku*-をとった不定詞が続くことによっても表される (非完結相複合形式とする)。なおコピュラ動詞 *li* の母音 *i* と 15 クラス名詞接頭辞 *uku* の冒頭母音の *u* は融合，縮約を起こし，*luku* で現れる。各テンスにおける現れ方は以下のとおりである。

(4-224) a. *chaalúkupenda*

chi-**a**-**li** **u**-**ku**-pend-a

7SM-PST-be Aug-15NP-read-BF

b. *chaaléépenda*

chi-**a**-**lee**-pend-a

7SM-PST-IMPFV-read-BF

「その人 (友人) は (本を) 読んでいた」

(4-225) a. *chilúkupenda*

chi-**ø**-**li** **u**-**ku**-pend-a

7SM-PRS-be Aug-15NP-read-BF

b. *chiléépenda*

chi-**ø**-**lee**-pend-a

7SM-PRS-IMPFV-read-BF (= (4-165))

「その人 (友人) は (本を) 読んでいる」

(4-226) a. *chaakúlukúleele*

chi-**a**-**ku**-**li** u-ku-laal-**ile**

7SM-FUT-HOD.FUT-be Aug-15NP-fall_asleep-ANTF

b. *chaakulééleele*

chi-**a**-**ku**-**lee**-laal-**ile**

7SM-FUT-HOD.FUT-IMPFV1-fall_asleep-ANTF

「その人 (友人) は (今日のうちのある時点で) 寝ているだろう」

(4-227) a. *chikálukuleele*

chi-**ka**-**li** **u**-**ku**-laal-**ile**

7SM-REM.FUT-be Aug-15NP-fall_asleep-ANTF

b. *chikáleeleele*

chi-**ka**-**lee**-laal-**ile**

7SM-REM.FUT-fall_asleep-ANTF (= (4-172))

「その人 (友人) は (明日のある時点で) 寝ているだろう」

4.5.4.2. 分詞 *teeti*，*teekuti* によって表される形式

4.5.2 で述べたように，今日のある時点においてある出来事が起こらないこと表すためには，分詞 *teeti* との複合形式を用いなければならない。以下の (4-229) ように，接続法に接語-*po* が足された形式が分詞 *teeti* の後ろに続くことによって表される。

(4-229) *teetí* *chipéndepo*
te-ti chi-pend-**e**-**po**
NEG2-COMP 7SM-read-SF-16LOC
「その人 (私の友人) は (今日のある時点で本を) 読まないだろう」

明日以降の未来の完結相の否定は，否定の前主語接辞 *ta*-によって表される形式だけでなく，分詞 *teeti* によっても導かれる。以下のように *teeti* の後ろには，接辞 *ka*-，接語-*po* を伴った接続法が続いている。

(4-230) a. *teetí* *chikápendepo*
te-ti chi-**ka**-pend-**e**-po
NEG2-COMP 7SM-FUT-read-SF-16LOC
b. *tachikápendapo*
ta-chi-**ka**-pend-**a**-po
NEG-7SM-FUT-read-SF-16LOC
c. *tachaakápendépo*
ta-chi-**a**-**ka**-pend-**e**-po
NEG-7SM-FUT-REM.FUT-read-SF-16LOC
「その人 (私の友人) は (明日のある時点で本を) 読まないだろう」

当日未来非完結相の否定は，すでに述べたように分詞 *teeti* によって導かれる形式によってのみ表される。以下のように，分詞 *teeti* に当日未来の非完結相の形式⑥，あるいは当日未来の非完結相複合形式が後続することによって表される。

(4-231) a. *teetí* *chaakuléependa*

te-ti chi-**a-ku-lee**-pend-**a**

NEG2-COMP 7SM-FUT-HOD.FUT-IMPFV1-read-BF

b. *teetí* *chaakúlukupénda*

te-ti chi-**a-ku-li** **u-ku**-pend-**a**

NEG2-COMP 7SM-FUT-HOD.FUT-be Aug-15NP-read-BF

「その人 (友人) は (今日のある時点において) 読んでいないだろう」

明日以降の未来の非完結相の否定も，前主語接辞 *ta*-だけでなく，分詞 *teeti* によっても導かれる。以下のように *teeti* には明日以降の未来の非完結相が後続する。

(4-232) a. *teetí* *chikáleependa*

te-ti chi-**ka-lee**-pend-**a**

NEG2-COMP 7SM-REM.FUT-IMPFV1-read-BF

b. *teetí* *chikálukupénda*

te-ti chi-**ka-li** **u-ku**-pend-**a**

NEG-COMP 7SM-REM.FUT-be Aug-15NP-read-BF

c. *tachikáleepéndapo*

ta-chi-**ka-lee**-pend-**a-po**

NEG-7SM-REM.FUT-IMPFV1-read-BF-16LOC (= (4-200))

「その人 (友人) は (明日のある時点において) 読んでいないだろう」

分詞 *teekuti* の後ろに接語-*po* を伴った接続法が続くと，以下の (4-233) のように能力がないことが表される。

(4-233) *teekúti* *chipéndepo* *chainíizu*

te-ku-ti chi-pend-**e-po** chainiizu

NEG2-15NP-COMP 7SM-read-SF-16LOC Chinese

「その人 (友人) は中国語が読めない」

(5-5)	*ndúkununshá*		*ifíweeme*
	n-ø-li	u-ku-nunk-i-a	i-fi-wam-ile
	1sgSM-PRS-be	Aug-15NP-stink-CAUS1-BF	Aug-8SM-be_good-ANTF
	angáβa	*mááfuta*	*muwasúβa*
	a-nga-**βa**	ma-ø-futa	mu-a-suβ-a
	6SM-POT-be.BF	6NP-PRED-oil	2plSM-PST-rub-FV

「いいにおいがする。おそらくあなたがつけている香水だろう。」

5.1.2. 語形変化あるいはコピュラ *ni* によって表される文

ランバ語において動詞文以外の述語文は，語形変化あるいはコピュラ *ni* によって表される。

例えば名詞が述部となる場合は，以下のように冒頭母音がなくなり，名詞接頭辞が長母音となって実現される。

(5-6)	*ichíβusa*	*chanji*	*múusambíshi*
	i-chi-βusa	chi-anji	**mu**-ø-sambishi
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	1NP-PRED-teacher

「私の友人は先生だ」

9，10 クラス名詞や名詞接頭辞がゼロの名詞，冒頭母音のない名詞は，*ni* によって述部が導かれる。

(5-7)	*íchimbóolo*	*níinama*		*íyonsha*	*áβaana*
	i-chi-mboolo	**ni**	n-nama	i-ø-onshi-a	a-βa-ana
	Aug-7NP-hyena	COP	9NP-animal	9SM-NUL-suckle-BF	Aug-2NP-children

「ハイエナは哺乳類 (子に乳を飲ませる動物) である」

形容詞が述部となる場合，以下のように名詞と同じく冒頭母音が落ち，接頭辞が長母音となって現れる。

(5-9)	*índume*	*shanji*	*shíitali*
	i-n-lume	shi-anji	**shi-ø**-tali
	Aug-10NP-brother	10SM-1sgPOSS	10SM-PRED-long
	「私の弟たちは背が高い」		
cf.	*naalibuené*	*índume*	*shanji*
	n-a-li-βon-ile	i-n-lume	shi-anji
	1sgSM-PST-ANT-see-ANTF	Aug-10NP-brother	10SM-1sgPOSS
	ishítali		
	i-shi-tali		
	Aug-10SM-long		
	「私は自分の背の高い弟たちに会った」		
(5-10)	*ínsofu*	*shíiníini*	
	i-n-sofu	**shi-ø-niini**	
	Aug-10NP-elephants	10SM-PRED-small	
	「そのゾウは小さい」		
cf.	*naalibwené*	*ínsofu*	*ishíniini*
	n-a-li-βon-ile	i-n-sofu	**i-shi-niini**
	1sgSM-PST-ANT-se-ANTF	Aug-10NP-elephants	Aug-10SM-small
	「私は小さいゾウを見た」		

以下のように属辞も述語となる。

(5-11)	*aβáβyaaβó*	*βáamaano*		
	a-βa-βi-aβo	**βa-a**	**ma-ano**	
	Aug-2NP-friend-3plPOSS	2SM-CONN	6NP-intelligence	
	「彼らの友達は賢い」			
(5-12)	*ilí*	*ibuuku*	***lyaa***	***kále***	*makosa*
	i-li	i-buuku	li-a	ka-le	ma-kosa
	Aug-5SM	Aug-book	5SM-CONN	12NP-past	6NP-strength
	「この本はとても古い」				

5.2. 所有表現

ランバ語には *kwat*「持つ」という動詞語根があるが，動詞ではなく，コピュラ動詞に付加詞 *ne* あるいは *na* が続くことによっても所有を表すことができる。付加詞の後ろに冒頭母音のある名詞が続く場合には *ne* が現れるが，後ろの名詞は (5-13) や (5-14) のように冒頭母音のある形で現れたり，(5-15) のように冒頭母音が落ちることもある。冒頭母音が落ちる場合，(5-15) のように付加詞 *ne* が長母音で現れる。

(5-13)	*néβo*	*ndi*	*né*	*uβúkali*
	neβo	n-ø-**li**	**ne**	u-βu-kali
	1SG	1sgSM-PRS-be	CONJ	Aug-14NP-anger

「私は怒っている (怒りを持っている)」

(5-14)	*ndi*	*né*	*aβáβyanji*
	n-ø-**li**	**ne**	a-βa-βi-anji
	1sgSM-PRS-be	CONJ	Aug-2NP-friend-1sgPOSS
	aβáá	*chine*	
	a-βa-a	chi-ne	
	Aug-2SM-CONN	7NP-truth	

「私には信頼できる友人がいる」

(5-15)	*aβáβyaaβó*	βalí	née	maano
	a-βa-βi-aβo	βa-ø-**li**	**ne**	ma-ano
	Aug-2NP-friend-3plPOSS	3plSM-PRS-be	CONJ	6NP-intelligence

「彼らの友達は賢い (賢さを持っている)」

後ろに続く名詞に冒頭母音がない場合，以下のように付加詞には *ne* ではなく *na* が現れる。

(5-16)	*ndí*	*na*	*βaayúuka*
	n-ø-li	**na**	βa-Yuka
	1sgSM-PRS-be	CONJ	2NP-Yuka

「私はユカと一緒にいる」

第 6 章 語順

6.1. 基本語順

ランバ語の基本的な語順は，主語，動詞，目的語である。

(6-1) *ichíβusa* *chanji* *chaachíisa*
i-chi-βusa chi-anji chi-achi-is-a
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-HOD.PST-come-BF
「私の友人は来た」

(6-2) *ichíβusa* *chanji* *chaalipendelé*
i-chi-βusa chi-anji chi-a-li-pend-ile
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PST-ANT-read-ANTF
ilí *ibúuku*
ili i-ø-buuku
5.DEM Aug-5NP-book
「私の友人はこの本を読んだ」

6.2. 疑問文の語順

まず諾否疑問文の例を挙げる。ランバ語において諾否疑問文は，*βushe* が文頭に現れることによって表される [11]。*βushe* の後ろは基本語順で現れる。「はい」と答える場合は (6-3b) のように *inya* (発音は[íŋja]と[í:ɲa]のどちらでもよい) が用いられ，「いいえ」と答える場合は (6-3c) のように *iyi* が用いられる。「いいえ」と答える場合，*iyi* 以外にも *kooku* や *iyu* などのバリエーションが見られる。

(6-3) a. *βushe* *waalya* *ísana ?*
βushe u-a-li-a i-ø-sana
Q 2sgSM-PST-eat-FV Aug-5NP-egg
「あなたは卵を食べたの？」

[11] Doke (1922，1938) では，*βushe* ではなく *nga* や *kani* によって諾否疑問文が導かれる例が報告されている。

b. *ínya*

inya

Yes

「はい」

c. *iyí*

iyi

No

「いいえ」

次に，目的語を尋ねる場合である。以下の (6-4a) は「あなたはどの本を読んだの？」という意味の疑問文である。なお，これ以降の疑問文はすべて疑問詞によって表されるものである。疑問詞「どの」を表す語幹は*-isa* であり，*líisa ibúuku*「どの本」は，(6-4a) のように文頭に置いたほうがより自然な発話となる。(6-4b) のように基本語順において目的語の本来の位置である動詞の直後に置くと，不自然となる。

(6-4) a. *líisa* *ibúuku* *muwachipénda* *ulúcheelo ?*

li-isa i-buuku mu-achi-pend-a u-lu-cheelo

5SM-which Aug-book 2plSM-HOD.PST-read-BF Aug-11NP-morning

b. ??mwachipénda líisa ibúuku ulúcheelo ?

mu-achi-pend-a li-isa i-buuku u-lu-cheelo

2plSM-HOD.PST-read-BF 5SM-which Aug-book Aig-11SM-morning

“「あなたは今朝どの本を読んだの？」

(6-4) に対する答えは以下のようになる。*líisa ibúuku*「どの本」に対する答えである *ibúuku lyeenu*「あなたの本」が置かれる位置は，(6-5a) のように動詞の直後，すなわち目的語の位置である。(6-5b) のように文頭に置くと不自然になる。

(6-5) a. *naachipénda* *ibúuku* *lyeenu*

n-achi-pend-a **i-ø-buuku** **li-enu**

1sgSM-HOD.PST-read-BF Aug-5NP-book 5SM-2plPOSS

b. ??*ibúuku* *lyeenu* *naachipénda*

i-ø-buuku **li-enu** n-achi-pend-a

Aug-5NP-book 5SM-2plPOSS 1sgSM-HOD-read-FV

「私はあなたの本を読んだ」

以下のように分裂文の構造をとって「私が読んだのはあなたの本だ」とすれば，文頭に *ibúuku lyeenu*「あなたの本」を置いても許容される。*e* は，分裂文を導くときに現れるコピュラである[12]。5 クラス名詞 *ibúuku*「本」を受けた 5 クラス主語接辞 *li-*が後続した *eli* が分裂文を導く。

(6-6) *ibúuku* *lyeenu* *éli* *naachipénda*

i-buuku **li-enu** **e-li** n-achi-pend-a

Aug-book 5SM-2plPOSS CLF-5SM 1sgSM-HOD.PST-read-BF

「私が読んだのはあなたの本だ」

-isa「どの～」でなく，*nindo*「何」であっても，以下の (6-7) ように文頭に置いた方が自然な発話となる。(6-7) に対する答えは (6-8) の通りである。答えのほうは，目的語の定位置である動詞の直後に現れている。

(6-7) a. *nindo* *waapáshila ?*

nindo u-a-pashil-a

COP.what 2sgSM-PST-sew-FV

b. ??*waapáshila* *nindo ?*

u-a-pashil-a **nindo**

2sgSM-PST-sew-FV COP.what

「あなたは何を縫ったの？」

---

[12] 9，10 クラス名詞を述部とする場合に現れるコピュラは 5.1 で述べた通り *ni* であるが，以下のように *ni* でなく *e* が現れる例も観察された。

(6-i) *ishí* *é* *ndaláma*

ishi e n-lalama

10.DEM CLF 10NP-money

「これはお金だ」

(6-8) *naapashilá* *ímpasa*

n-a-pashil-a **i-n-pasa**

1sgSM-PST-sew-BF Aug-9NP-mat

「私はマットを縫った」

「誰を／誰に」を聞く場合，*ni βaani* あるいは *naani* で尋ねる。以下の (6-9) は「ライオンは誰を追いかけたのか」という文である。

(6-9) *ni* *βáaɲi* *ínkalamu* *yaachiβútusha ?*

ni **βaani** i-n-kalamu i-achi-βutuk-i-a

COP 2NP.who Aug-9NP-lion 9SM-HOD.PST-run-CAUS1-BF

「ライオンは誰を追いかけたの？」

以下のように，目的語本来の位置である動詞の後ろに *βaanaani*「誰」を置いてもよい。この場合 *ni* は不要である。(6-10) に用いられている疑問詞 *βaanaani* は *naani*「誰」が 2 クラス名詞接頭辞をとったものと考えられる。

(6-10) *ínkalamu* *yaachibútusha* *βaanáani ?*

i-n-kalamu i-achi-βutuk-i-a **βa-naani**

Aug-9NP-lion 9SM-HOD-run-CAUS1-BF 2NP-COP.who

「ライオンは誰を追いかけたの？」

「誰を／誰に」に対する答え *chingalika*「シマウマ」は，以下のように目的語本来の位置である動詞の直後に現れる。

(6-11) *ínkalamu* *yaachiβútusha* *chingalíka*

i-n-kalamu i-achi-βutuk-i-a **ø-chingalika**

Aug-9NP-lion 9SM-HOD.PST-run-CAUS1-BF NUL-zebra

「ライオンはシマウマを追いかけた」

(6-11) の疑問文に対する答えである *chingalika*「シマウマ」が文頭に置かれる例も観察されたが，その場合は (6-12a) のように動詞が非人称受身で現れる。(6-12b) のように，疑問文の答えである *chingalika*「シマウマ」を文頭に置いた (6-12a) と同じ語順で，虚辞の *βa-*ではなく動作主である 9 クラス名詞 *ínkalamu*「ライオン」に呼応した主語接辞 *i-*をとることも可能であるが，この場合 *chingalika*「シマウマ」の後ろに休止を置くことでかろうじて許容される。

(6-12) a.	*chingaliká*	*βaachimúβutushá*	*kúnkalámu*
	ø-chingalika	**βa**-achi-mu-βutuk-i-a	ku-n-kalamu
	NUL-zebra	3plSM-HOD.PST-3sgOM-run-CAUS1-BF	17NP-9NP-lion
	「シマウマがライオンに追いかけられた」		
b. ?	*chigalika* ,	*yaachimúβutusha*	*ínkalamu*
	ø-chingalika	i-achi-mu-butuk-i-a	i-n-kalamu
	NUL-zebra	9SM-HOD.PST-3sgOM-run-CAUS1-BF	Aug-9NP-lion
	「シマウマをライオンは追いかけた」		

分裂文で現れる場合も，以下のように動詞は非人称受身である。

(6-13)	ɲi	chiŋgalika	éo
	ni	ø-chingalika	**e-u-o**
	COP	NUL-zebra	CLF-1SM-MESIO
	βaachiβútusha		kúnkalamu
	βa-achi-βutuk-i-a		ku-n-kalamu
	3plSM-HOD.PST-run-CAUS1-BF		17NP-9NP-lion
	「ライオンに追いかけられたのはシマウマだ」		

主語を尋ねる場合，疑問詞は文頭に現れる。以下の (6-14a) は，「何が庭で実ったの？」と尋ねる文である。「何」は (6-7a) と同様 *nindo* である。これに対する答えが以下の (6-14b) であり，基本語順のままで現れている。(6-14c) のように，分裂文の構造で現れることも可能である。

(6-14) a. *nindo* *yáapja* *mwíβala ?*

nindo i-a-pi-a mu-i-βala

COP.what 9SM-PST-get_ripen-FV 18NP-5NP-garden

「何が庭で実ったの？」

b. *amakónde* *áapya*

a-ma-konde a-a-pi-a

Aug-6NP-banana 6SM-PST-get_ripen-FV

「バナナが実った」

c. amakónde é yaapya

a-ma-konde **e** a-a-pi-a

Aug-6NP-banana CLF 6SM-ANT-get_ripen-FV

「実ったのはバナナだ」

以下の (6-15) ように，答えである *amákonde*「バナナ」を後ろに置いた分裂文でも，問いに対する答えとなる。この場合 *e* は現れず，*amákonde*「バナナ」の冒頭母音が落ち，接頭辞が長母音となることによって述語となっている。

(6-15) *ífi* *yáapya* *maakónde*

i-fi a-a-pi-a **ma**-ø-konde

Aug-8SM 6SM-ANT-get_ripen-FV 6NP-null-banana

「実ったのはバナナだ」

「誰が」を尋ねる場合も，以下のように *ni βaani* が文頭に現れる。

(6-16) *ni* *βáani* *βaaísa ?*

ni **βaani** βa-a-is-a

COP 2NP.who 3plSM-PST-come-FV

「誰が来たの？」

(6-16) に対する答えは，以下のように分裂文で現れる。(6-17b) に示している基本語順の単文は，この文脈には適さない。(6-17b) については後述する。

(6-17) a. *Mália* *é* *waaísa*
Malia **e** u-a-is-a
Maria CLF 3sgSM-PST-come-FV
「マリアが来た人だ」

b. # *Mália* *aaísa*
Malia a-a-is-a
Maria 3sgSM-PST-come-FV
「マリアは来た」

以下のように，問いに対する答えである Malia「マリア」を後ろに置いた分裂文によっても答えることが可能である。この場合 Malia「マリア」は (6-15) の *amákonde*「バナナ」とは違って接頭辞がないため，コピュラの *ni* が述語を表すために用いられる。

(6-18) *úaaísa* *ní* *Malía*
u-a-a-is-a **ni** **Malia**
Aug-3sgSM-ANT-come-BF COP Maria
「来たのはマリアだ」

ni lwisa「いつ」などの文修飾要素を訊ねる場合も，以下の (6-19a) ように *ni lwisa* は文頭に置かれる。(6-19b) のように文修飾要素 *ulúcheelo*「(今) 朝」を文末に置く基本語順によって答えることができる。

(6-19) a. *ni* *lwisa* *mwapamíne* *índume* *yeenu ?*
ni **lu-isa** i-n-ganda i-n-lume i-enu
COP 11SM-which Aug-9NP-house Aug-9NP-brother 9SM-2plPOSS
「あなたはいつ自分の弟を叩いたの？」

b. *naachimúpama* *ulúcheelo*

n-achi-mu-pam-a **u-lu-cheelo**

1sgSM-HOD.PST-3sgOM-hit-BF Aug-11NP-morning

「私は彼を今朝叩いた」

(6-19b) では *ulúcheelo*「今朝」と答えたが，*βukúumo lukoso*「たった今」と答える場合，以下の (6-20) のように分裂文で答えるほうがより自然である。

(6-20) *ni* *βukúumo* *lukosó* *naachimúpama*

ni βu-kuumo lu-koso n-achi-mu-pam-a

COP 14NP-now 11NP-just 1sgSM-HOD.PST-3sgOM-hit-BF

「私が彼を叩いたのはたった今である」

6.3. 情報構造と語順

(6-17b) で示したように，主語を訊ねる疑問詞疑問文の答えとしては，基本語順である主語，動詞の語順は容認されない。この語順が容認されるのは，「マリアが来る」という情報が共有されている場合である。基本語順である以下の (6-21) は，マリアが来るということが事前に共有されている文脈でマリアが現れた場合でなければ発話として不自然となる。

(6-21) *Malía* *aaísa*

Malia a-a-is-a

Maria 3sgSM-ANT-come-FV

「マリアは来た」

(6-14) でも示したように，「何が実ったのか」に対する答えとして「バナナが実った」は分裂文の構造をとらずとも基本語順の主語，動詞の順で答えることができる。しかしながら，「誰が来たのか」に対する答えとして「マリアが来た」は基本語順で答えることができない。(6-21) のように，主語，動詞の語順が認められるのは，*Malia*「マリア」が共有された旧情報，すなわち主題化されている場合だと考えられる。それに対して (6-14) の *amakonde*「バナナ」にはそのような主題性は読み取れず，疑問文の答え，つまり焦点として機能している。

主語を訊ねる疑問詞疑問文に答える場合に分裂文にしなければならないということは，主語は，単に動詞の後ろに置くだけでは焦点化できないということである。これは，主語本来の主題性の高さが原因である可能がある。

第 7 章 テンス・アスペクト体系の再検討 [13]

ランバ語のTA体系についてはDoke (1922，1938) の文法書で考察が行われている。しかしながら，時間の経過により，現在のランバ語にはDoke (1922，1938) が報告しているTA体系とは異なる現象が見られる。例えば4章の動詞の章において示したTA形式の一覧は，Doke (1922，1938) が示していた一覧とは異なる。これはDoke (1922，1938) の時点では報告されていたが今は現存していない形式があったり，近年の湯川 (1995) やBickmore (1995) による声調の研究で新たに報告されるようになった形式，あるいは筆者の調査で初めて明らかになった形式が出てきたためである。そのほか，TAの解釈や形式に対する呼び方も，本稿が提示しているものとDoke (1922，1938) が提示しているものとは異なっている。本章では，筆者が新たに現地で採取したデータをもとに，ランバ語のTA体系の再検討を試みる。

7.1. Doke (1922，1938) のテンス・アスペクト体系

次頁の表7-1，次々頁の表7-2は，それぞれDoke (1922:71)，Doke (1938:273) によるTAのパラダイムを示したものである[14]。各形式には番号を割り振っている。表7-1には28形式，表7-2には30形式ある。縦に並べているのがテンス，横に並べているのがアスペクトである。TAに関わる要素は太字で示している。各形式には番号を割り振っている。

それぞれの並び方をみてわかるように，Doke (1922) とDoke (1938) ではTAの解釈やそれぞれの形式に対する呼び方が異なっている。また，Doke (1922，1938) は用語の使い方が独特であり，これもDoke (1922，1938) のTA体系に対する解釈を見えにくくする要因となっている。例えば“Perfect”は，Doke (1922) とDoke (1938) とで一貫した使い方がなされていない。後述するが，Comrie (1977) やDahl (1985) による“Perfect”の定義に沿えば，Doke (1922，1938) がそれぞれ“Perfect”と呼んでいる形式は，いずれも“Perfect”と呼ぶには相応しくない。このように，用語についての解釈および使い方についての問題がDoke (1922，1938) には散在している。次節以降，通言語的なTAについての研究であるComrie (1977) や

---

[13] この章は，『ランバ語のテンス・アスペクト体系の再検討』(牧野 2019)，第 154 回日本言語学会大会 (2017 年 6 月 24 日，於：首都大学東京)，第 156 回日本言語学会 (2018 年 6 月 23 日，於：東京大学)，第 7 回国際バントゥ諸語学会 (2018 年 7 月 10 日，於：ケープタウン大学)，第 9 回世界アフリカ言語学会議 (2018 年 8 月 27 日，於：ムハンマド 5 世大学) での口頭発表がもとになっており，例文及びその説明には重複するところがある。

[14] Doke (1922) は 3.4.3 で扱ったモダリティを表すと考えられる *nga*-の形式を同じ表に挙げているが，ここでは省いている。

Dahl (1985), Bybee et al. (1995), バントゥ諸語のTAについての研究であるNurse (2008) などに沿ってランバ語のTA体系を解釈し直す。

表7-1：Doke (1922:71) のTAパラダイム

		Simple	Continuous (*li uku-*)	Progressive (*chi-*)	Perfect
Past	Remote	⑮SM-**a**-VR-**a**	㉑SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-a ㉒ (SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)		①SM-**a**-**li**-VR-**ile**
	Immediate				⑳SM-**a**-**li** SM-**a**-VR-**a**
	Historic	⑰**ka**-SM-VR-**a** ㉝**ka**-SM-VR-**ile**	㉞**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**a** ㉟ (**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)	㊱**ka**-SM-**chi**-VR-**a** ㊲ (**ka**-SM-**chi**-VR-**ile**)	
Present			㉓SM-**li** **uku**-VR-**a** ㉔SM-**li** **uku**-VR-**ile**	⑦SM-**chi**-VR-**a** ⑧SM-**chi**-VR-**ile**	⑯SM-**li**-VR-**ile**
Future	Immediate	⑨SM-**aku**-VR-**a**	㉕SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**a** ㉖ (SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)	㉙SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**a** ㉚ (SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**ile**)	
	Remote	⑫SM-**ka**-VR-**a**	㉗SM-**ka**-**li** **uku**-VR-**a** ㉘ (SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)	㉛SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**a** ㉜ (SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**ile**)	
Habitual		⑤SM-**la**-VR-**a**			

表7-2：Doke (1938:273) のTAパラダイム

		Simple			Progressive (*chi-*)	
		Indefinite	Continuous (*li u-ku*-VR-*a*)	Perfect (*li u-ku*-VR-*ile*)	Continuous (-*a*)	Perfect (-*ile*)
Past	Remote	①SM-**a**-**li**-VR-**ile**	㉑SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	①SM-**a**-**li**-VR-**ile** ㉒SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**		
	Immediate	⑮SM-**a**-VR-**a**				
	Historic		㉞**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	㉝**ka**-SM-VR-**ile** ㉟**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**	㊱**ka**-SM-**chi**-VR-**a**	㊲**ka**-SM-**chi**-VR-**ile**
Present		㉓SM-**ø**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**		⑯SM-**ø**-**li**-VR-**ile** ㉔SM-**ø**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**	⑦SM-**ø**-**chi**-VR-**a**	⑧SM-**ø**-**chi**-VR-**ile**
Habitual		⑤SM-**la**-VR-**a**				
Future	Immediate	⑨SM-**aku**-VR-**a**	㉕SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	㉖SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**	㉙SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**a**	㉚SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**ile**
	Remote	⑫SM-**ka**-VR-**a**	㉗SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	㉘SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**	㉛SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**a**	㉜SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**ile**

7.2. ランバ語のテンス

この節ではランバ語の未来，過去，現在テンスについて述べる。未来，過去テンスについては，それぞれ時間区分が複数に分かれている。このような現象はバントゥ諸語において珍しくないが (Dahl 1985:120)，Doke (1922，1938) をみる限り，その境界線は明示されていない。未来と過去それぞれの時間区分，とりわけ過去の時間区分についてはDoke (1922，1938) が「歴史的過去 (Historic Past)」と呼んでいるものの位置付けについても検討する。なお，各テンスにおけるアスペクトの違いについては7.3で説明することとし，この節はテンス区分のみについて説明する。

7.2.1. 未来

未来テンスを表すTA接辞には，*ka-*と*aku-*の2種類がある。Doke (1922)，Doke (1938) ではそれぞれ表7-3，7-4の部分が該当する。

表7-3: : Doke (1922) による未来テンス

		Simple	Continuous (*li u-ku-*)	Progressive (*chi-*)	Perfect
Future	Immediate	⑨SM-**aku**-VR-a	㉕SM-**aku**-li u-ku-VR-a ㉖SM-**aku**-li u-ku-VR-ile	㉙SM-**aku**-li u-ku-chi-VR-a ㉚ (SM-**aku**-li u-ku-chi-VR-ile)	
	Remote	⑫SM-**ka**-VR-a	㉗SM-**ka**-li u-ku-VR-a ㉘ (SM-**ka**-li u-ku-VR-ile)	㉛SM-**ka**-li uku-chi-VR-a ㉜ (SM-**ka**-li uku-chi-VR-ile)	

表7-4 : Doke (1938) による未来テンス

		Simple			Progressive (*chi-*)	
		Indefinite	Continuous (*li u-ku*-VR-*a*)	Perfect (*li u-ku*-VR-*ile*)	Continuous (*-a*)	Perfect (*-ile*)
Future	Immediate	⑨SM-**aku**-chit-a	㉕SM-**aku**-li u-ku-VR-a	㉖SM-**aku**-li u-ku-VR-ile	㉙SM-**aku**-li u-ku-chi-VR-a	㉚SM-**aku**-li u-ku-chi-VR-ile
	Remote	⑫SM-**ka**-chit-a	㉗SM-**ka**-li u-ku-VR-a	㉘SM-**ka**-li u-ku-VR-ile	㉛SM-**ka**-li u-ku-chi-VR-a	㉜SM-**ka**-li u-ku-chi-VR-ile

*ka-*が「遠未来 (Remote Future)」，*aku-*が「近未来 (Immediate Future)」とされているが，上述のようにこれらのTA接辞が使い分けられる境界線はDoke (1922，1938) には明示されていない。以下，調査データから未来の時間区分の境界線を明らかにする。

(7-1) は，TA接辞*ka*-を用いた例である。これは (7-1a) や (7-1b) のように*mailo*「明日」，*uyu úmwaka*「来年」とは共起するが，(7-1c) のように*leelo*「今日」とは共起しない。このように，TA接辞*ka*-は発話時の翌日以降に起こる出来事を表す。

(7-1)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chikápenda*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka**-pend-a
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-read-BF
		ilí	*ibúuku*	*maílo*
		ili	i-ø-buuku	mailo
		5.DEM	Aug-5NP1-book	tomorrow
		「私の友人は明日この本を読むだろう」		
	b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chikápenda*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka**-pend-a
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-read-BF
		ilí	*ibúuku*	*uyú* *úmwaka*
		ili	i-ø-buuku	uyu u-mu-aka
		5.DEM	Aug-5NP1-book	3.DEM Aug-3NP-year
		「私の友人はこの本を読むだろう」		
	c. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka**-pend-a
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-read-BF
		ili	i-ø-buuku	leelo
		5.DEM	Aug-5NP1-book	today
		(int. 私の友人は今日この本を読むだろう)		

一方TA接辞*aku*-は，(7-2a) のように*leelo*「今日」とは共起するが，(7-2b) のように*mailo*「明日」とは共起しない。このように，TA接辞*aku*-は発話当日のこれから起こる出来事を表す。

(7-2)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaakupendá*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**aku**-pend-a
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.FUT-read-BF

ilí	*ibuuku*	*leeló*	*akásuβa*
ili	i-ø-buuku	leelo	a-ka-suβa
5.DEM	Aug-5NP1-book	today	Aug-12NP-sun

「私の友人は今日の午後この本を読むだろう」

b. *	i-chi-βusa	chanji	chi-**aku**-pend-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.FUT-read-BF
	ili	i-ø-buuku	mailo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	tomorrow

(int. 私の友人は今日の午後この本を読むだろう)

このように，ランバ語の未来テンスは，TA接辞*ka-*によって明日以降の未来の出来事が表され，一方TA接辞*aku-*によって発話当日のこれから起こる出来事が表される。つまり，ランバ語の未来の時間区分は，今日 (Hodiernal) と明日以降 (Post-Hodiernal) に2分割されるということである。

7.2.2. 過去

次に，過去テンスの時間区分について述べる。まずDoke (1922，1938) が過去テンスとしているの形式が以下の表7-5，7-6である。

表7-5：Doke (1922) による過去テンス

		Simple	Continuous (*li u-ku-*)	Progressive (*chi-*)	Perfect
Past	Remote		㉑SM-**a**-li u-ku-VR-a ㉒ (SM-**a**-li u-ku-VR-ile)		①SM-**a**-li-VR-ile
	Immediate	⑮SM-**a**-VR-a			⑳SM-**a**-li SM-a-VR-a
	Historic	⑰**ka**-SM-VR-a ㉝**ka**-SM-VR-ile	㉞**ka**-SM-li u-ku-VR-a ㉟ (**ka**-SM-li u-ku-VR-ile)	㊱**ka**-SM-chi-VR-a ㊲ (**ka**-SM-chi-VR-ile)	

表7-6：Doke (1938) による過去テンス

		Simple			Progressive (*chi-*)	
		Indefinite	Continuous (*li u-ku-*VR-*a*)	Perfect (*li u-ku-*VR-*ile*)	Continuous (*-a*)	Perfect (*-ile*)
Past	Remote	①SM-**a**-li-VR-ile	㉑SM-**a**-li u-ku-VR-a	①SM-**a**-li-VR-ile ㉒SM-**a**-li u-ku-VR-ile		
	Immediate	⑮SM-**a**-VR-a				
	Historic		㉞**ka**-SM-li u-ku-VR-a	㉝**ka**-SM-VR-ile ㉟**ka**-SM-li u-ku-VR-ile	㊱**ka**-SM-chi-VR-a	㊲**ka**-SM-chi-VR-ile

表7-5，表7-6からは，過去を示すTA接辞は*a-*であり，ほかのTA接辞を付け足したり，語尾を変化させることによって，遠近やアスペクトが表されていると考えることができる。また遠過去，近過去のほかに，前主語接辞*ka-*を付加することによって表されるHistoric Pastという時間区分が存在しているように解釈できる。しかしながら未来テンスでもそうであったように，これら3つの時間区分の境界線はDoke (1922，1983) には示されていない。以下，それぞれの位置付けについて考察する。

(7-3) は，TA接辞*a-*と*li-*，完了語尾*-ile*の組み合わせによって表される形式①の例である。形式①は，(7-3a) の*mailo*「昨日」，(7-3b) の*uyu úmwaka*「去年」のようにはるか前の出来事を指す時間副詞とは共起可能であるが，(7-3c) のように*leelo*「今日」とは共起不可能である。このように，形式①は発話時の前日以前に起こった出来事を表す。

(7-3) a.

ichíβusa	*chanji*	*chaalipendelé*	
i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**-pend-**ile**	
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-ANT-read-ANTF	
ilí	*ibúuku*	*maílo*	
ili	i-ø-buuku	<u>mailo</u>	
5.DEM	Aug-5NP1-book	yesterday	

「私の友人は昨日この本を読んだ」

b.

ichíβusa	*chanji*	*chaalipendelé*	
i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**-pend-**ile**	
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-ANT-read-ANTF	
ínkalata	*shine*	*uyú*	*úmwaka*
i-n-kalata	shi-ne	<u>uyu</u>	<u>u-mu-aka</u>
Aug-10NP-letter	10SM-four	3.DEM	Aug-3NP-year

「私の友人は去年手紙を4通読んだ」

c. *

i-chi-βusa	chanji	chi-**a**-**li**-pend-**ile**
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-ANT-read-ANTF
ili	i-ø-buuku	<u>leelo</u>
5.DEM	Aug-5NP1-book	today

(int. 私の友人は今日この本を読んだ)

発話時の前日以前の出来事は，発話時からの時間的な距離を問わず形式①が用いられるが，発話当日に起こった出来事は以下の形式で表される。(7-4) は，コピュラ動詞*li*の過去形にTA接辞*a-*と基本語尾*-a*によって表される複合形式 (以下形式⑳，あるいは当日過去複合形式) である。この形式は (7-4a) のように*leelo*「今日」とは共起する一方で，(7-4b) のように*mailo*「昨日」とは共起不可能である。したがって，この形式は発話当日に起こった出来事を表す形式であると考えられる。

(7-4)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaalí*	*chaapénda*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**	chi-**a**-pend-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-be	7SM-PST-read-FV
		ilí	*ibúuku*	*leelo*	
		ili	i-ø-buuku	<u>leelo</u>	
		5.DEM	Aug-5NP1-book	today	
		「私の友人は今日この本を読んだ」			
	b. *	i-chi-βusa	chanji	chi-**a**-**li**	chi-**a**-pend-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-be	7SM-PST-read-FV
		ili	i-ø-buuku	<u>mailo</u>	
		5.DEM	Aug-5NP1-book	yesterday	
		(int. 私の友人は昨日この本を読んだ)			

以下のTA接辞*achi-*と基本語尾*-a*の組み合わせによって表される形式② (*achi-*形式) も，当日過去複合形式 (形式⑳) と同じく発話当日に起こった出来事を表す。この形式はDoke (1922, 1938) の時点では報告されていなかったが，Bickmore (1995) や湯川 (1995) による動詞の声調の研究で新たに報告されるようになった形式である。(7-5a) のように*leelo*「今日」とは共起するが，(7-5b) のように*mailo*「昨日」とは共起しない。

(7-5)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaachipénda*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**achi**-pend-**a**
		Aug7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.PST-read-BF

ilí	*ibúuku*	*leelo*
ili	i-ø-buuku	leelo
5.DEM	Aug-5NP1-book	today

「私の友人は今日この本を読んだ」

b. *	ichíβusa	chi-anji	chi-**achi**-pend-**a**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.PST-read-BF
	ili	i-ø-buuku	mailo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	yesterday

(int. 私の友人は昨日この本を読んだ)

ここまで見てきたことは以下のようにまとめられる。

(7-6) a. SM-a-li-VR-ile (形式①) ：発話時の前日以前の過去の出来事を表す形式

b. SM-a-li SM-a-VR-a (形式⑳), SM-achi-VR-a (形式②)

：発話当日の過去の出来事を表す形式

7.2.3. Doke (1922, 1938) が「歴史的過去 (Historic Past)」としているもの

(7-7b) は前主語接辞 *ka-*に基本語尾*-a* をとった形式⑰である。Doke (1922, 1938) では，形式⑰のように前主語接辞 *ka-*を用いた形式は「歴史的過去 (Historic Past)」と呼ばれ，過去テンスのひとつとして扱われている。しかしながらこの形式⑰は，(7-7) のような文脈には適さない。このような文脈では，(7-7a) に示すように遠過去完結相である形式①が用いられる。

(7-7) a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chiaalilpendelé*	
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**-pend-**ile**	
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-ANT-write-ANTF	
	ilí	*ibúuku*	*uyú*	*úmwaka*
	ili	i-ø-buuku	uyu	u-mu-aka
	5.DEM	Aug-5NP1-book	3.DEM	Aug-3NP-year

「私の友人は去年手紙を 4 通読んでいる」

b. *	i-chi-βusa	chi-anji	**ka**-chi-pend-a	
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	NAR-7SM-read-BF	
	ili	i-ø-buuku	uyu	u-mu-aka
	5.DEM	Aug-5NP1-book	3.DEM	Aug-3NP-year

(int. 私の友人は去年手紙を 4 通読んでいる)

(7-3b) で示したように，形式①は昨日よりもはるか前の過去の出来事も表すことができる。一方，前主語接辞 *ka-*を伴う形式は，従属節などによって出来事が起こった時間が確定されている文脈でなければ用いることはできない。以下の (7-8) の 11 クラスの指示詞 *ulu* が導く従属節の動詞 *chaalekele* では，*lek*「止める」がとっているのは形式①の従属節用の形式であり，さらに時間副詞 *mailo*「昨日」と共起している。*ulu* 以下の従属節「(友人が) 昨日太鼓を叩くのをやめたとき」によって出来事の起こった時間が発話時の前日で示されることによってはじめて，前主語接辞 *ka-*を伴った形式⑰*kachipenda* を用いることができる。

(7-8)	*ichíβusa*	*chanji*	*kachipénda*
	i-chi-βusa	chi-anji	**ka**-chi-pend-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	NAR-7SM-read-BF
	ilí	*ibúuku*	
	ili	i-ø-buuku	
	5.DEM	Aug-5NP1-book	
	ulú	*chaalekelé*	
	ulu	chi-**a**-**ø**-lek-**ile**	
	11.DEM	7SM-PST-NUL-stop-ANTF	
	ukulishéngoma		*maílo*
	u-ku-lishi-a	i-n-goma	mailo
	Aug-INF-play-BF	Aug-10NP-drum	yesterday

「私の友人は昨日太鼓を叩き終わってからこの本を読んだ」

さらに，「歴史的 (Historic)」という呼び方でははるか昔の出来事を想定させるが，(7-8) をみると発話の前日の出来事を表すのに対しても *ka-*が使われている。

つまり，前主語接辞 *ka-*によって表される Historic と呼ばれていた形式は，昨日よりも遠い過去の時間を区分しているというわけではない。(7-8) のように文脈などによって確立されている時間の中で連続して起こった出来事を順に紹介する Narrative (継起) であり (cf. Nurse 2008:123)，依存テンスである。したがって，ランバ語の過去テンスは 3 区分ではなく，発話当日 (Hodiernal) と昨日以前 (Pre-Hodiernal) の 2 区分であると結論付けられる。発話当日に起こった出来事が形式⑳ (当日過去複合形式) あるいは形式② (*achi-*形式) によって表され，発話の前日以前に起こった出来事は，その時間的距離にかかわらず形式①によって表される。

前主語接辞 *ka-*が用いられる「継起」は，出来事を時系列で示しているだけで，それぞれの出来事間に因果関係は不要である。また同じ主語の動作である必要もない。したがって，以下のようにそれぞれの動詞の主語が異なっていても構わない。(7-9) では，ある森の中で起こった出来事が順に並べられており，それぞれの出来事の動作主は主語接辞 *n-*によって表される発話者であったり，*ínsoka*「ヘビ」であったりする。

(7-9)	*naaliendelé*	*muíyamba*	
	n-**a**-**li**-end-**ile**	mu-i-ø-yamba	
	1sgSM-PST-ANT-walk-ANTF	18NP-Aug-5NP1-garden	
	kampulumúchila	*ukúnyanta*	*pánsoka*
	ka-**n**-pulumuchil-a	u-ku-nyant-a	pa-**n**-**soka**
	NAR[15]-1sgSM-suddenly_do-BF	Aug-INF-kick-BF	16NP-9NP-snake
	kaínsuma	*kukuulu*	
	ka-**i**-n-sum-a	ku-ku-ulu	
	NAR-1sgSM-bite-BF	17NP-15NP-leg	
	kampínteebwe		*kampóósa*
	ka-**n**-pint-a	i-bwe	**ka**-**n**-poos-a
	NAR-1sgSM-carry-BF	Aug-stone	NAR-1sgSM-throw-BF

[15] Hyman & Watters (1984) や Nurse (2008) によると，継起によって表される連続して起こった出来事が同じ動作主によるものである場合は Consecutive あるいは Narrative と呼ばれるが，ランバ語の場合，(450) で示しているように動作主が異なるため，厳密には Subsecutive あるいは Sequential である (cf. Hyman & Watters 1984:258)。しかしながら，この区別が厳密になされていなかったり，使い分けも研究によって異なる (Nurse 2008:121)。そのため Nurse (2008) ではこれらすべてをまとめて中立的に「継起 (Narrative)」と呼んでいる (Nurse 2008:121)。これにならって，本論文では前主語接辞 *ka-*のグロスを Narrative からつけている。なお，Nurse (2008) の言う広義の Narrative は，Welmers (1973) では Consecutive に該当する (Nurse 2008:123)。

kúnsoka.	*pénka*	*kaífwa*
ku-n-soka	pa-enka	**ka-i**-fu-a
17NP-9NP-snake	16SM-only	NAR-9SM-die-BF

「私は森の中を歩いた。すると突然蛇を踏んでしまい，ヘビが足に噛みついた。私は石をとってヘビに投げつけた。するとヘビは死んだ」(Dahl 1985，Q:B1)

7.2.4. 現在

ランバ語で現在を表す TA 接辞は ø-で，これが用いられる形式としては以下のようなものがある。

(7-10)

ichíβusa	*chanji*	*chilúkupenda*	
i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø-li**	**u-ku**-pend-**a**
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-be	Aug-INF-read-BF
ilí	*ibúuku*		
ili	i-ø-buuku		
5.DEM	Aug-5NP1-book		

「私の友人は今その本を読んでいる」(形式㉓)

(7-11)

ichíβusa	*chanji*	*chichiléele*
i-chi-βusa	chi-anji	chi-ø-**chi**-laal-**ile**
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-PES-fall_asleep-BF
na	*βukúumo*	
na	βu-kuumo	
and	14NP-now	

「私の友人はいまだに寝ている」(形式⑧)

これらはアスペクトの違いによって区別される。詳細は7.3で述べる。

7.3. ランバ語のアスペクト

7.3では，ランバ語のアスペクトについて述べる。テンスの場合と同様，調査データから各形式の用法を詳しく見ていくことで，Doke (1922，1938) によるアスペクトの解釈を再検討する。

7.3.1. 完結相 (Perfective)

「完結相 (Perfective)」とは，出来事の始まりや終わりなどといった内部構造を取り出すのでなく, 出来事をひとつのかたまりとして示すもののことをいう (Comrie 1977:17-18)。例えば7.2.1で説明した形式⑨, 形式⑫をそれぞれ用いた (7-12), (7-13) は未来テンスの完結相の例である。(7-12) は明日以降のどこかの時点で，(7-13) は発話当日のどこかの時点で「読む」という行為が実現されることを表している。どちらも未来のある時点において「読むという動作が始まる」や「読むという行為を終えている」といった出来事の内部構造に関する情報は含んでいない。

(7-12) *ichíβusa* *chanji* *chikápenda*
i-chi-βusa chi-anji chi-**ka**-pend-a
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-REM.FUT-read-BF
ilí *ibúuku* *maílo*
ili i-ø-buuku <u>mailo</u>
5.DEM Aug-5NP1-book tomorrow
「私の友人は明日この本を読むだろう」(= (7-1a))

(7-13) *ichíβusa* *chanji* *chaakupendá*
i-chi-βusa chi-anji chi-**aku**-pend-a
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-HOD.FUT-read-BF
ilí *ibuuku* *leeló* *akásuβa*
ili i-ø-buuku <u>leelo</u> a-ka-suβa
5.DEM Aug-5NP1-book tomorrow Aug-12NP-sun
「私の友人は今日の午後この本を読むだろう」(= (7-2a))

7.2.2で紹介した遠過去を表す形式①，近過去を表す形式②，形式⑳もこの完結相である。(7-14) は、形式①を用いた例で，「読む」という行為の内部構造，例えば昨日以前のある時点において「読み始めた」あるいは「読むという動作が続いていた」,「読むという行為を終えていた」

といったアスペクトでなく，「読む」という行為が昨日以前のある時点において実現されたことのみが表されている。出来事が実現された時点が昨日以前ではなく発話当日にある場合は (7-15) のように当日過去統合形式⑳あるいは形式②によって表される。

(7-14)	*ichíβusa*	*chanji*	*chaalipendelé*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**-pend-**ile**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-BE-read-ANTF
	ilí	*ibúuku*	*maílo*
	ili	i-ø-buuku	<u>mailo</u>
	5.DEM	Aug-5NP1-book	yesterday

「私の友人は昨日この本を読んだ」(=(7-3a))

(7-15) a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaalí*	*chaapénda*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**	chi-**a**-pend-**a**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-be	7SM-PST-read-FV
	ilí	*ibúuku*	*leelo*	
	ili	i-ø-buuku	<u>leelo</u>	
	5.this	Aug-5NP1-book	today (=(7-4a))	
b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaachipénda*	
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**achi**-pend-**a**	
	Aug7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.PST-read-BF	
	ilí	*ibúuku*	*leelo*	
	ili	i-ø-buuku	<u>leelo</u>	
	5.DEM	Aug-5NP1-book	today (= (7-5a))	

「私の友人は今日この本を読んだ」

7.3.2. Doke (1922，1938) が「習慣相 (Habitual)」としているもの

7.2.4において，ランバ語において現在を表すTA接辞はø-であると述べたが，ランバ語で現在を表すものとして最も基本的なのは，TA接辞*la*-，基本語尾-*a*の組み合わせによって表される形式⑤である。この形式は，(7-16) のように習慣的な出来事を表す。

(7-16)	*ichíβusa*	*chanji*	*chilápenda*	*chainíizu*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**la**-pend-**a**	chainiizu
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PFV-read-BF	Chinese
	ínshiku	*shonse*		
	i-n-shiku	shi-onse		
	Aug-10NP-days	10SM-all		

「私の友人は毎日中国語を読む」

Doke (1922，1938) はこの形式を「習慣相 (Habitual)」と呼んでおり，以下の表7-7，7-8が示すように「現在」とは別に扱っている (Doke 1922:71，Doke 1938:271)。

表7-7：Doke (1922) による現在テンスとHabitual

	Simple	Continuous (*li uku-*)	Progressive (*chi-*)	Perfect
Present		⑫SM-**ø**-li u-ku-VR-a ⑬SM-**ø**-li u-ku-VR-ile	⑦SM-**ø**-chi-VR-a ⑧SM-**ø**-chi-VR-ile	⑯SM-**ø**-li-VR-ile
Habitual	⑤SM-**la**-VR-**a**			

表7-8：Doke (1938) による現在テンスとHabitual

	Simple			Progressive (*chi-*)	
	Indefinite	Continuous (*li uku*-VR-*a*)	Perfect (*li uku*-VR-*ile*)	Continuous (-*a*)	Perfect (-*ile*)
Present	⑫SM-**ø**-li u-ku-VR-a		⑯SM-**ø**-li-VR-ile ⑬SM-**ø**-li uku-VR-ile	⑦SM-**ø**-chi-VR-a	⑧SM-**ø**-chi-VR-ile
Habitual	⑤SM-**la**-VR-**a**				

表7-7，7-8から，現在テンスを表すTA接辞は**ø**-であると解釈できる。これは筆者の調査データからも裏付けられる。例えば以下の (7-17) である。(7-17) は，形式⑥で，発話時を基準にして，その少し前からさらに発話時をまたがって「読む」という行為が進行中であることを表す。TA接辞*lee*-については7.3.4で詳述する。

(7-17)	*ichíβusa*	*chanji*	*chiléépenda*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-lee-pend-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-IMPFV-read-BF

ilí	*ibúuku*	*βukúumo*
ili	i-ø-buuku	βu-kuumo
5.DEM	Aug-5NP1-book	14NP-now

「私の友人は今この本を読んでいる」

一方，TA接辞*la-*は，(7-16) でみたように確かに習慣的な出来事を表している。しかしながら*la-*は，(7-18) のような意味も表すためにも用いられる。(7-18) は，「書く」という行為の始まりや終わりを取り立てて述べているわけではなく，ただひとまとまりの出来事を述べている。これは完結相 (Perfective) (Comrie 1977:17-18) の持つ特徴である。

(7-18)

alálemba	*ínkalata*
a-**la**-lemb-**a**	i-n-kalata
3sgSM-PFV-write-BF	Aug-9NP-letter

「その人は手紙を書く」

バントゥ諸語には，習慣相 (Habitual) と完結相を形式によって区別するものが多い。例えばTA接辞ø-，基本語尾-*a*からなる形式によって完結相が表され，これに接尾辞-*ang*が付け足されるこによって習慣相が表されるブクス語[16]のようなケースである (Nurse 2008:135-136)。TA接辞ø-と基本語尾-*a*によって構成される形式を持つバントゥ諸語は多く，普遍的な出来事や頻繁に起こる出来事，ある属性に共通して備わっている性質などを表す (Nurse 2008:118)。しかしながらランバ語には，TA接辞ø-と基本語尾-*a*からなる形式は存在せず[17]，ブクス語の接尾辞-*ang*に相当する接辞も存在しない。完結相と習慣相を区別するほかの形式もないため，ランバ語では両者は (7-16)，(7-18) のように同じ形式によって表されることになる。さらに形式㉗は，(7-16)，(7-18) にみるように長い時間 (期間) におよぶ出来事を表しており，その中には発話時が含まれている (cf. Comrie 1985:37-38)。検討の余地はあるかもしれないが，今のところ，Doke (1922,

[16] ブクス語は，ヴィクトリア湖周辺のケニア，ウガンダの国境付近で話されているバントゥ諸語である (Eberhard et al. 2019)。

[17] 否定や従属節では TA 接辞 ø-と基本語尾-*a* の組み合わせからなる形式が現れるが，TA 接辞 *la-*が否定や従属節では現れることができない。いずれにせよ完結相と習慣相を形式によって区別することはランバ語においてはできない。

1938) で「習慣相 (Habitual)」とされている形式⑤は，現在テンスの完結相として扱うのが最も適切であると考えられる。

7.3.3. Doke (1922) が「完了相 (Perfect)」としているもの

本論文では形式①と形式⑳を完結相としているが，これらの形式は Doke (1922) では過去の「完了相 (Perfect)」として扱われている (表 7-9 参照)。

表7-9：Doke (1922) がPerfectとしているもの

		Simple	Continuous (*li uku-*)	Progressive (*chi-*)	Perfect
Past	Remote	⑮SM-**a**-VR-**a**	㉑SM-**a**-**li** **uku**-VR-a ㉒ (SM-**a**-**li** **uku**-VR-**ile**)		①SM-**a**-**li**-VR-**ile**
	Immediate				⑳SM-**a**-**li** SM-**a**-VR-**a**
	Historic	(省略)			

完了相 (Perfect) とは，Comrie (1977) やDahl (1985) などの定義では，過去に起こった出来事による結果状態が発話時まで続いている，あるいは過去に起こった出来事が発話時と関連性を持つことを表すアスペクトである (Comrie 1977:52，Dahl 1985:133-138， Bybee et. al 1994:54，Nurse 2007:165，Nurse 2008:95，154-155)。この定義に基づいてランバ語のアスペクトを確認する。

(7-19a) は，カギが発話時の前日以前になくなったことを表した形式①の例で，(7-19b) はカギが発話当日になくなったことを表した形式⑳の例である。これらは，いずれも*panó yaaβoneká βukúumo*「しかし今は (そのカギは) 見つかっている」という文を後続させることができる。

(7-19) a. *ímfungúlo* *yaaluβilé*
i-n-fungulo i-**a**-**li**-luβ-**ile**
Aug-9NP-key 9SM-PST-ANT-get_lost-ANTF
ukufumá *uyú* *umulúngu*
u-ku-fum-a uyu u-mu-lungu
Aug-INF-come_from-BF 3.DEM Aug-3NP-week

panó	*yaaβoneká*	*βukúumo*
pano	i-a-βon-ik-a	βu-kuumo
but	9SM-PST-see-NEUT-FV	14NP-now

「カギは先週からなかったが，今はもう見つかっている」

b.

ímfungúlo	*yaalí*	*yaalúβa*
i-n-fungulo	i-**a**-**li**	i-**a**-luβ-**a**
9.key	9SM-PST-be	9SM-ANT-get_lost-BF
panó	*yaaβoneká*	*βukúumo*
pano	i-a-βon-ik-a	βu-kuumo
but	9SM-PST-see-NEUT-FV	14NP-now

「カギはなくなったが，今はもう見つかっている」

つまり，カギをなくしたという出来事によって起こった「カギがない」状態は，発話時にはすでに解決しているということであり，過去の出来事に発話時との関連性は存在しない。よって形式①と形式⑳は，いずれも本来の「完了相 (Perfect)」の定義 (Comrie 1977など) からは外れている。

このように，Doke (1922) が「完了相」としている形式は，「完結相」に分類されるべきアスペクトであり，Doke (1922) は完結相と完了相を混同しているものと考えられる。

7.3.4. 非完結相 (Imperfective)

ここでは，ランバ語の非完結相 (Imperfective) を表す形式について述べる。

次頁の表7-10で示しているのがDoke (1922) の言う「継続相 (Continuous)」というアスペクトであり，この項で扱う形式である。いずれもコピュラ動詞*li*に不定詞が続く複合な形式である[18] (以下, 非完結相複合形式)。またDoke (1938) では, 表7-11に示しているように,「単純相 (Simple)」というアスペクトのなかに「不定形 (Indefinite)」,「継続形 (Continuous)」,「完了形 (Perfect[19])」という下位分類を設けている。Doke (1922) では「継続相」と扱われていたもののうち，( ) 内

[18] Doke (1922，1938) は *luku* と分析している。コピュラ動詞 *li* と不定詞を作る接頭辞 *uku-*が融合した形だという分析が本論文でとっている立場である。
[19] Doke (1922) ではこの形式は「状態形 (Stative)」と呼ばれている (Doke 1922:67-70)。

に挙げられていた語尾に-*ile*をとる形式がDoke (1938) では“Perfect”として扱われている。これは7.3.3で述べたDoke (1922) の“Perfect”とは別の事象である。以下で説明する。

表7-10：Doke (1922) のContinuous

		Continuous (*li uku-*)
Past	Remote	㉑SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-a ㉒ (SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)
	Immediate	
	Historic	㉞**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**a** ㉟ (**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)
Present		㉓SM-**li** **uku**-VR-**a** ㉔SM-**li** **uku**-VR-**ile**
Future	Immediate	㉕SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**a** ㉖ (SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)
	Remote	㉗SM-**ka**-**li** **uku**-VR-**a** ㉘ (SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**)

表7-11：Doke (1938) のContinuous，Perfect

		Simple		
		Indefinite	Continuous (*li u-ku*-VR-*a*)	Perfect (*li u-ku*-VR-*ile*)
Past	Remote	(省略)	㉑SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	①SM-**a**-**li**-VR-**ile** ㉒SM-**a**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**
	Immediate			
	Historic		㉞**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	㉝**ka**-SM-VR-**ile** ㉟**ka**-SM-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**
Present		㉓SM-**ø**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**		⑯SM-**ø**-**li**-VR-**ile** ㉔SM-**ø**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**
Future	Immediate	(省略)	㉕SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	㉖SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**
	Remote		㉗SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-VR-**a**	㉘SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-VR-**ile**

Doke (1922，1938) が挙げている非完結相複合形式であるが，4.5.4でも述べているようにTA接辞*lee*-によっても同じ意味が表される。

(7-20) a. *chikálukuleele*

chi-**ka**-**li** **u**-**ku**-laal-**ile**

7SM-REM.FUT-be Aug-INF-fall_asleep-ANTF

b. *chikáleeleele*

chi-**ka**-**lee**-laal-**ile**

7SM-REM.FUT-fall_asleep-ANTF

「その人 (友人) は (明日のある時点で) 寝ているだろう」(= (4-227))

(7-21) a. *chaakúlukúleele*

chi-**aku**-**li** **u**-**ku**-laal-**ile**

7SM-HOD.FUT-be Aug-INF-fall_asleep-ANTF

b. *chaakulééleele*

chi-**aku**-**lee**-laal-**ile**

7SM-HOD.FUT-IMPFV1-fall_asleep-ANTF

「その人 (友人) は (今日のうちのある時点で) 寝ているだろう」(= (4-226))

(7-22) a. *chaalúkupenda*

chi-**a**-**li** **u**-**ku**-pend-a

7SM-PST-be Aug-INF-read-BF

b. *chaaléépenda*

chi-**a**-**lee**-pend-a

7SM-PST-IMPFV1-read-BF

「その人 (友人) は (本を) 読んでいた」(= (4-224))

(7-23) a. *chilúkupenda*

chi-**ø**-**li** **u**-**ku**-pend-a

7SM-PRS-be Aug-INF-read-BF

b. *chiléépenda*

chi-**ø**-**lee**-pend-a

7SM-PRS-IMPFV-read-BF

「その人 (友人) は (本を) 読んでいる」(= (4-225))

この接辞*lee*-は，Bickmore (1995) や湯川 (1995) で新たに報告されるようになった形式である。以下，各テンスごとに非完結相の用法を見ていく。これらの形式が現存するか否かや，Doke (1922，1938) の時点では報告されていなかった形式についてもその都度述べる。

7.3.3.1. 未来テンスにおける非完結相

非完結相複合形式やTA接辞*lee*-が明日以降の未来を表すTA接辞*ka*-を伴うと，明日以降のある時点において継続している出来事が表される。(7-24a) は，発話時翌日のある時点で「読む」という行為が継続していたことを表している。これと同じ意味を表すのが，Doke (1922，1938) の

時点では報告されていなかった (7-24b) の*lee*-形式である。(7-24b) では，非完結相複合形式に代わってTA接辞*lee*-が用いられている。(7-24b) も，(7-24a) と同じように発話時翌日のある時点において「読む」という行為が継続されていることを表している。

(7-24) a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chikálukupenda*	
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka-li**	**u-ku**-pend-**a**
	Aug-7NP-friend	7SM-1s gPOSS	7SM-REM.FUT-be	Aug-INF-read-BF
	ilí	*ibúuku*	*mailó*	*ulúcheelo*
	ili	i-ø-buuku	mailo	u-lu-cheelo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	tomorrow	Aug-11NP-morning
b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chikáleependa*	
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka-lee**-pend-**a**	
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-IMPFV1-read-BF	
	ilí	*ibúuku*	*mailó*	*ulúcheelo*
	ili	i-ø-buuku	mailo	u-lu-cheelo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	tomorrow	Aug-11NP-morning

「私の友人は明日の朝この本を読んでいるだろう」

(7-25) のようにTA接辞に*ka*-ではなく*aku*-をとれば，出来事が継続しているある時点が発話当日に特定される。(7-25a) はTA接辞*aku*-が非完結相複合形式を伴った形式㉕の例で，(7-25b) はTA接辞*aku*-が非完結相複合形式に代わってTA接辞*lee*-を伴った例である。どちらも，発話時よりも後 (ただし発話当日) のある時点で「読む」という行為が継続されることが表される。

(7-25) a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaakúlukúpenda*	
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**aku-li**	**u-ku**-pend-**a**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.FUT-be	Aug-INF-read-BF
	ilí	*ibúuku*	*akásuβa*	*leelo*
	ili	i-ø-buuku	a-ka-suβa	leelo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	Aug-12NP-sun	today

b. *ichíβusa* *chanji* *chaakúleependa*

i-chi-βusa chi-anji chi-**aku**-**lee**-pend-**a**

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-HOD.FUT-IMPFV1-read-BF

ilí *ibúuku* *akásuβa* *leelo*

ili i-buuku a-ka-suβa leelo

5.DEM Aug-5NP1-book Aug-12NP-sun today

「私の友人は今日の午後この本を読んでいるだろう」

動詞によっては，語尾に基本語尾の*-a*でなく完了語尾の*-ile*が用いられ，未来のある時点において続いている状態が表される。この語尾に*-ile*をとる非完結相統合形式は，Doke (1938) においては「完了相」と呼ばれている形式である。

以下の (7-26) の*-laal-*「寝る」のように，結果状態を切り取ることができる動詞の場合には語尾に*-ile*をとる。(7-26a)，(7-26b) ともにテンスを表す接辞は遠未来の*ka-*である。(7-26a) は語尾に*-ile*をとった非完結相複合形式が，明日のある時点において寝ている状態が継続されることを表す。(7-26b) のように，TA接辞*lee-*によって非完結相が表される場合も，語尾に*-ile*をとることができる。

(7-26) a. *ichíβusa* *chanji*

i-chi-βusa chi-anji

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS

chikálukuleele *mailó* *akásuβa*

chi-**ka**-**li** **u**-**ku**-laal-**ile** mailo a-ka-suβa

7SM-REM.FUT-be Aug-INF-fall_asleep-ANTF tomorrow Aug-12NP-sun

b. *ichíβusa* *chanji*

i-chi-βusa chi-anji

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS

chikáleeleele *mailó* *akásuβa*

chi-**ka**-**lee**-laal-**ile** mailo a-ka-suβa

7SM-REM.FUT-IMPFV1-fall_asleep-ANTF tomorrow Aug-12NP-sun

「私の友人は明日の午後寝ているだろう」(cf. (7-13))

TA接辞が近未来の*aku-*である場合も同様に，動詞によっては基本語尾*-a*でなく完了語尾*-ile*が現れる。

(7-27) a. *ichíβusa* *chanji*
i-chi-βusa chi-anji
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS
chikálukuleele *leeló* *akásuβa*
chi-**aku-li** **u-ku**-laal-**ile** leeo a-ka-suβa
7SM-HOD.FUT-be Aug-INF-fall_asleep-ANTF today Aug-12NP-sun

b. *ichíβusa* *chanji*
i-chi-βusa chi-anji
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS
chikáleeleele *leeló* *akásuβa*
chi-**aku-lee**-laal-**ile** leelo a-ka-suβa
7SM-HOD.FUT-IMPFV1-fall_asleep-ANTF today Aug-12NP-sun
「私の友人は今日の午後寝ているだろう」

(7-24b) と (7-25b) に挙げたTA接辞*lee-*と基本語尾*-a*の組み合わせによって構成される複合形式は，Doke (1922，1938) の時点では報告はなく，Bickmore (1995) によって初めて報告された形式である。一方 (7-26b)，(7-27b) のTA接辞*lee-*が語尾に*-ile*をとる形式は，どの先行研究にも報告されていない。

7.3.3.2. 過去テンスにおける非完結相

過去を表すTA接辞*a*-が非完結相複合形式で現れる場合，あるいはTA接辞*lee*-とともに現れる場合は，過去のある時点において継続していた出来事が表される。(7-28) では「読む」という行為が発話の前日のある時点において継続していたことが表されている。

(7-28)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaalúkupenda*	
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**	**u**-**ku**-pend-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-be	Aug-INF-read-BF
		ilí	*ibúuku*	*maílo*	
		ili	i-ø-buuku	mailo	
		5.DEM	Aug-5NP1-book	yesterday	
	b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaaléépenda*	
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**lee**-pend-**a**	
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-IMPFV1-read-BF	
		ilí	*ibúuku*	*maílo*	
		ili	i-ø-buuku	mailo	
		5.DEM	Aug-5NP1-book	yesterday	
		「私の友人は昨日この本を読んでいた」			

ただしTA接辞に*ka*-や*aku*-を伴う未来テンスの場合とは違い，結果状態を切り取ることのできる動詞でも，(7-29a) のように語尾に-*ile*をとることはできない。つまり，Doke (1922，1938) では報告のあった形式㉒は現存していないということになる。(7-29b) に示しているように，語尾に-*ile*をとることができないのはTA接辞が*lee*-の場合も同様である。

(7-29)	a. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**	**u**-**ku**-laal-**ile**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-be	Aug-INF-fall_asleep-ANTF
	b. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**lee**-laal-**ile**	
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-IMPFV1-fall_asleep-ANTF	
		(int. 私の友人は寝ていた)			

pend「読む」が過去非完結相を表すこれらの2形式と共起した場合には，過去のある時点において「読む」という動作が継続されていたことが表されるが，*laal*「寝る」では以下の (7-30) のように過去の習慣が表される。

(7-30)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaalúkulaale*	
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**	**u**-**ku**-laal-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-be	Aug-INF-fall_asleep-BF
		kani	*chaaβóna*	*áβensu*	
		kani	chi-a-βon-a	a-βa-ensu	
		if	7SM-PST-see-FV	Aug-2NP-guest	
	b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaaléélaala*	
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**lee**-laal-**a**	
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-IMPFV1-fall_asleep-BF	
		kani	*chaaβóna*	*áβensu*	
		kani	chi-a-βon-a	a-βa-ensu	
		if	7SM-PST-see-FV	Aug-2NP-guest	
		「私の友人は客が来るといつも寝ていた」			

したがって，動作動詞の場合は，過去のある時点において継続していた出来事が表されるが，状態動詞の場合には過去の習慣が表されると言えそうである。

一方 (7-31) の*um*「乾く」は，これら2形式によって，水分が徐々になくなっていき，完全に乾くに至るまでの過程にあることが表される。これは副詞句*paniini paniini*「少しずつ」が共起可能であることからも明らかである。*um*「乾く」と同じく状態を表す動詞でも，*laal*「寝る」にはそのような用法はない。

(7-31)	a.	*iláaya*	*yaalúkuuma*		*paniini*	*paníini*
		i-ø-laaya	i-**a**-**li**	**u**-**ku**-um-**a**	pa-niini	pa-niini
		Aug-5NP1-dress	9SM-PST-be	Aug-INF-get_dry-BF	16SM-little	16SM-little

b.	*iláaya*	*yaaleeumá*	*paniini*	*paníini*
	i-ø-laaya	i-**a**-**lee**-um-**a**	pa-niini	pa-niini
	Aug-5NP1-dress	9SM-PST-IMPFV1-get_dry-BF	16SM-little	16SM-little

「(その) 服はだんだんと乾いていった」

次にTA接辞*achi-*が用いられる場合を見ていく。過去を表すTA接辞*a-*と非完結相複合形式あるいはTA接辞*lee-*が組み合わさった形式は，参照点が発話当日と昨日以前のどちらにあっても構わないが, 当日過去を表すTA接辞*achi-*が用いられると, 参照点は発話当日に限定される。まら, *achi-*の後ろにはさらにTA接辞*lee-*の代わりに*laa-*が用いられる。この形式は, Doke (1922, 1938), Bickmore (1995), 湯川 (1995) のどの先行研究においても報告されていない。

(7-32)	a. *	i-chi-βusa	chanji	chi-**achi**-**lee**-pend-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.PST-IMPFV1-read-BF
		ili	i-ø-buuku	leelo
		5.DEM	Aug-5NP1-book	today
	b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaachiláápenda*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**achi**-**laa**-pend-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.PST-IMPFV2-read-BF
		ilí	*ibúuku*	*leelo*
		ili	i-ø-buuku	leelo
		5.DEM	Aug-5NP1-book	today

「私の友人は今日この本を読んでいた」

7.3.3.3. 現在テンスにおける非完結相

現在の場合も，過去のTA接辞*a-*の場合と同じように非完結相複合形式とTA接辞*lee-*がとる語尾は，常に基本語尾の*-a*である。Doke (1922，1938) で報告されている語尾に*-ile*を伴う形式は,

現存していない[20]。以下の (7-33) のように，*pend*「読む」では発話時に「読む」という行為が継続中であることが表される。

(7-33)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chilúkupenda*	
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø-li**	**u-ku**-pend-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-be	Aug-INF-read-BF
		ilí	*ibúuku*		
		ili	i-ø-buuku		
		5.DEM	Aug-5NP1-book		
	b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chileependá*	
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø-lee**-pend-**a**	
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-IMPFV1-read-BF	
		ilí	*ibúuku*		
		ili	i-ø-buuku		
		5.DEM	Aug-5NP1-book		
		「私の友人はこの本を読んでいる」			

(7-34) のように*laal*「眠る」では，非完結相複合形式あるいはTA接辞*lee*-によってより確定した未来の出来事が表されるが，(7-35) のように*um*「乾く」では過程が表される。

(7-34)	a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chilúkulaala*	
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø-li**	**uku**-laal-**a**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-be	INF-fall_asleep-BF

[20] 以下で示しているように *lwal*「病気である」において非完結相統語的形式が語尾に*-ile* をとる形式が一度確認されたが，別の機会で文法性を確かめた際には非文となったため，共時的にはほとんど見られなくなっていると言ってよい。

(7-i) *ndúkulwele*
n-**ø-li** **u-ku**-lwall-**ile**
1sgSM-PRS-be Aug-INF-be_sick-ANTF
「私は病気である」

	kani	*chiβóne*	*áβensu*
	kani	chi-βon-e	a-βa-ensu
	if	7SM-see-SF	Aug-2NP-guest
b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chiléélaala*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-**lee**-laal-**a**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-IMPFV1-fall_asleep-BF
	kani	*chiβóne*	*áβensu*
	kani	chi-βon-e	a-βa-ensu
	if	7SM-see-SF	Aug-2NP-guest

「私の友人は客を見たら寝るだろう」

(7-35)	a.	*ilí*	*iláaya*	*ilukuumá*	
		ili	i-ø-laaya	i-**ø**-**li**	**uku**-um-**a**
		5.DEM	5.dress	9SM-PRS-be	INF-get_dry-BF
		paniiini	*paníini*		
		pa-niini	pa-niini		
		16SM-little	16SM-little		
	b.	*ilí*	*iláaya*	*ileeumá*	
		ili	i-ø-laaya	i-**ø**-**lee**-um-**a**	
		5.DEM	5.dress	9SM-PRS-IMPFV1-get_dry-BF	
		paniiini	*paníini*		
		pa-niini	pa-niini		
		16SM-little	16SM-little		

「この服は少しずつ乾いていっている」

このように，ランバ語の非完結相複合形式とTA接辞*lee-*と*laa-*は，参照点において継続していている動作や状態，結果状態に至るまでの過程を表す。つまりこの2つの形式は，Nurse (2008) の言う，参照点あるいはその前後で継続していて，始まりや終わりなどの境界が特定されていない出来事を表す非完結相 (Imperfective) (Nurse 2008:136) と言ってよいだろう[21]。参照点が発

[21] ここでの非完結相 (Imperfective) の使い方は，Nurse (2008) に基づいたものであって，Comrie (1977) の言う Perfective と対立する概念 (Comrie 1977:25) を指したものではない。

話時の場合は，確定している未来の出来事を表したり，参照点が過去に移れば習慣を表したりする。

7.3.5.持続相 (Persistive)

「持続相 (Persistive)」とは，過去のある時点で起こった出来事が発話時まで保たれていることを表す。出来事が起こった過去のある時点が言明されていてるか否かは問われない (Nurse 2008:145)。発話時 (参照点) において継続している出来事の始まりや終わりといった境界が示されない非完結相 (cf. Nurse (2008:136)) と比べると，持続相は出来事の始まりが過去のある時点だと (それが言明されるかは別として) 特定される点で異なっている。

ランバ語では持続相はTA接辞*chi*-によって表される。Doke (1922)，(1938) は，表7-12，次頁の表7-13のようにTA接辞*chi*-によって表される形式を「進行相 (Progressive)」と呼んでいるが，バントゥ諸語研究では，このような形式は発話時 (あるいは参照点) において進行中の動作を表す進行相 (cf. Comrie 1977:32-40，Bybee et al.1994:126) とは区別して持続相 (Persistive) という呼び方をするのが一般的であり，本論文でもこれに沿いTA接辞*chi*-によって表される形式を持続相と呼ぶ。

表7-12：Doke (1922) のProgressive

		Progressive (*chi*-)
Past	Remote	
	Immediate	
	Historic	㊱**ka**-SM-**chi**-VR-**a** ㊲ (**ka**-SM-**chi**-VR-**ile**)
Present		⑦SM-**chi**-VR-**a** ⑧SM-**chi**-VR-**ile**
Future	Immediate	㉙SM-**aku-li** **u-ku-chi**-VR-**a** ㉚ (SM-**aku-li** **u-ku-chi**-VR-**ile**)
	Remote	㉛SM-**ka-li** **u-ku-chi**-VR-**a** ㉜ (SM-**ka-li** **u-ku-chi**-VR-**ile**)

表7-13：Doke (1938) のProgressive

		Progressive (*chi-*)	
		Continuous (*-a*)	Perfect (*-ile*)
Past	Remote		
	Immediate		
	Historic	㊱**ka**-SM-**chi**-VR-**a**	㊲**ka**-SM-**chi**-VR-**ile**
Present		⑦SM-**ø**-**chi**-VR-**a**	⑧SM-**ø**-**chi**-VR-**ile**
Future	Immediate	㉙SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**a**	㉚SM-**aku**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**ile**
	Remote	㉛SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**a**	㉜SM-**ka**-**li** **u**-**ku**-**chi**-VR-**ile**

TA接辞に*chi-*が現れる場合，未来テンスの非完結相と同じく，語尾に*-a*と*-ile*のどちらをとるかは動詞によって決定される。動作の側面を切り取ることのできる動詞であれば基本語尾の*-a*を，結果状態の側面を切り取れる動詞であれば完了語尾の*-ile*をとる。以下のように (7-36) の*imb*「歌う」が語尾に*-a*のみをとる一方で，(7-37) の*laal*「寝る」がとる語尾は*-ile*のみである。

(7-36) a. *ichíβusa* *chanji* *chichímba*
i-chi-βusa chi-anji chi-ø-**chi**-imb-**a**
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PRS-PES-sing-BF
na *βukúumo*
na βu-kuumo
CONJ 14NP-now
「私の友人はいまだに歌っている」

b. * i-chi-βusa chi-anji chi-ø-**chi**-imb-**ile**
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PRS-PES-sing-ANTF
na βu-kuumo
CONJ 14NP-now

(7-37) a. * i-chi-βusa chi-anji chi-ø-**chi**-laal-**a**
Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PRS-PES-fall_asleep-BF
na βu-kuumo
and 14NP-now

b. *ichíβusa* *chanji* *chichiléele*

i-chi-βusa chi-anji chi-ø-**chi**-laal-**a**

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PRS-PES-fall_asleep-BF

na *βukúumo*

na βu-kuumo

and 14NP-now

「私の友人はいまだに寝ている」(= (7-11))

ただし，以下の (7-38) の*fwal*「着る」のように動作と結果状態の両方の側面を切り取れる動詞であれば，*-a*と*-ile*の両方の語尾をとることが可能である。

(7-38) a. *ichíβusa* *chanji* *chichifwála* *iláaya*

i-chi-βusa chi-anji chi-ø-**chi**-fwal-**a** i-ø-laaya

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-NUL-PES-wear-BF Aug-5NP1-dress

「私の友人はまだ服を着替えている (でかける準備ができていない)」

b. *ichíβusa* *chanji* *chichifwíte*

i-chi-βusa chi-anji chi-ø-**chi**-fwal-**ile**

7.friend 7.my 7SM-NUL-PES-wear-ANTF

lilyá *iláaya* *na* *βukúumo*

li-lya i-ø-laaya na βu-kuumo

5SM-REM.DEM Aug-5NP1-dress CONJ 14NP-now

「私の友人はまだあの服を着ている (まだ身に着けている)」

持続相の参照点が発話時でなく過去にある場合には，以下のようにコピュラ動詞の過去形に形式⑦あるいは形式⑧が後続した複合形式によって表される。この複合形式は，これまでの先行研究で報告のなかった形式である。

(7-39) *ichíβusa* *chanji* *chaalí* *chichipénda*

i-chi-βusa chi-anji chi-**a**-**li** chi-**ø**-**chi**-pend-**a**

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PST-be 7SM-PRS-PES-read-BF

ilí	*ibúuku*	*úlu*	*βáanyina*
ili	i-ø-buuku	ulu	βa-nyina
5.DEM	Aug-5NP1-book	11.DEM	2NP-mother.3sg/plPOSS

βaachishíla	*ukwípila*	*ífyaa*
βa-achi-shil-a	u-ku-ipik-a	i-fi-a
2SM-HOD.PST-finish-BF	Aug-INF-cook-BF	Aug-8NP-CONN

kúlya	*ulúcheelo*
ku-li-a	u-lu-cheelo
INF-eat-BF	Aug-11NP-morning

「私の友人は友人の母が今朝ご飯を用意し終わったとき，まだこの本を読んでいた」

(7-40)

ichíβusa	*chanji*	*chaalí*	*chichiplele*
i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-**li**	chi-**ø**-**chi**-laal-**ile**
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-be	7SM-PRS-PES-fall_asleep-ANTF

úlu	*naaíle*	*mukúchiβona*
ulu	n-a-ø-i-ile	mu-ku-chi-βon-a
11.DEM	1sgSM-PST-NUL-go-ANTF	18SM-INF-7OM-see-BF

mailó	*akásuβa*
mailo	a-ka-suβa
yesterday	Aug-12NP-sun

「私の友人は私が昨日の午後訪ねたときまだ寝ていた」

参照点が過去でなく未来にある場合，例えば「(明日あるいは今日のうちのある時点において)まだ～しているだろう」は，非完結相複合形式あるいは TA 接辞 *lee*-よって表される。表 7-12，表 7-13 をみると，Doke (1922，1938) の時点ではコピュラ動詞の未来形に後続する動詞の不定形に TA 接辞 *chi*-が挿入された形式㉙～㉜が報告されているが (Doke 1922:67，Doke1938:271-272)，これは以下の例文の b で示すように筆者の調査では非文となっている。

(7-41) a.

ichíβusa	*chanji*	*chikálukupenda*	
i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka**-**li**	**u**-**ku**-pend-a
Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-be	Aug-INF-read-BF

	ilí	*ibúuku*	*mailó*	*ulúcheelo*
	ili	i-ø-buuku	mailo	u-lu-cheelo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	tomorrow	Aug-11NP-morning

「私の友人は明日の朝もまだこの本を読んでいるだろう」

b. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka-li**	**u-ku-chi**-pend-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-be	Aug-INF-PES-read-BF
	ili	i-ø-buuku	mailo	u-lu-cheelo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	tomorrow	Aug-11NP-morning

(7-42) a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chikáleeleele*	
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka-lee**-laal-**ile**	
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-INPFV1-fall_asleep-ANTF	
	mailó	*akásuβa*		
	mailo	a-ka-suβa		
	tomorrow	Aug-12NP-sun		

「私の友人は明日の午後もまだ寝ているだろう」

b. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ka-li**	
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-REM.FUT-be	
	u-ku-chi-laal-**ile**		mailo	a-ka-suβa
	Aug-INF-PES-fall_asleep-ANTF		tomorrow	Aug-12NP-sun

(7-43) a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaakúlukúpenda*	
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**aku-li**	**u-ku**-pend-**a**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.FUT-be	Aug-INF-read-BF
	ilí	*ibúuku*	*ichinguló*	*leelo*
	ili	i-ø-buuku	ichingulo	leelo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	evening	today

「私の友人は今晩もまだこの本を読んでいるだろう」

b. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**aku-li**	**u-ku-chi**-pend-a
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-HOD.FUT-be	Aug-INF-PES-read-BF
	ili	i-ø-buuku	ichingulo	leelo
	5.DEM	Aug-5NP1-book	evening	today

(7-44) a. *ichíβusa* *chanji*

i-chi-βusa chi-anji

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS

chaakúlukúleele

chi-**aku-li** **u-ku**-laal-**ile**

7SM-HOD.FUT-be Aug-INF-fall_asleep-ANTF

leeló *akásuβa*

leelo a-ka-suβa

today Aug-12NP-sun

「私の友人は今日の午後もまだ寝ているだろう」

b. * i-chi-βusa chi-anji

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS

chi-**aku-li** **u-ku-chi**-laal-**ile**

7SM-HOD.FUT-be Aug-INF-PES-fall_asleep-ANTF

leelo a-ka-suβa

today Aug-12NP-sun

7.4. 完了相 (Anterior[21]) と叙述類型論

完了相 (Anterior) とは，過去に起こった出来事による結果状態が発話時まで続いている，あるいは過去に起こった出来事が発話時 (あるいは参照点) と関連性を持つことを表すアスペクトである (Nurse 2007，2008)。出来事をひとまとまりとしてとらえるのではなく，参照点と関連付けてとらえている点で，完結相とは異なる (7.3.3 も参照のこと)。

7.4.1. 完了相を表す形式⑮と当日過去完結相を表す形式②，⑳

ランバ語において完了相を表す形式には，まずTA接辞*a-*と語尾*-a*によって表される形式⑮がある。表7-14が示すように，Doke (1938) は，この形式⑮と，7.3.1で完結相を表すと説明した形式①，⑤，⑨，⑫を同列に扱っている。

表7-14：Doke (1938) が完結相とみなしていると考えられるもの

		Simple
		Indefinite
Past	Remote	①SM-**a**-**li**-VR-**ile**
	Immediate	⑮SM-**a**-VR-**a**
	Historic	
Present		㉓SM-**ø**-**li**　**u**-**ku**-VR-**a**
Habitual		⑤SM-**la**-VR-**a**
Future	Immediate	⑨SM-**aku**-chit-**a**
	Remote	⑫SM-**ka**-chit-**a**

しかしながら，カギがなくなったことを形式⑮で表すと，以下の (7-45) が示すように*panó yaaβoneká βukúumo*「でも (カギは) 今はもう見つかっている」という文を後続させられなくなる。つまり形式⑮によって表されるカギがなくなった状態は，発話時まで続いているということになる。7.3.3でも述べたとおり，この文脈では (7-45b)，(7-45c) のように近過去の完結相である形式②あるいは形式⑳を用いなければ不適切である。

[21] 完了相の英訳として Perfect ではなく Anterior を用いているのは，7.3.3 でも述べたように Perfect と Perfective が混同されているケースがよく見られるためである (Nurse 2008:95，154)。Nurse (2008) が同様の立場をとっており，本論文もそれにならっている。

(7-45) a. * i-n-fungulo i-**a**-luβ-**a**

Aug-9NP-key 9SM-PST-get_lost-FV[22]

pano i-a-βon-ik-a βu-kuumo

but 9SM-PST-see-NEUT-BF 14NP-now

(int. カギはなくなったが，今はもう見つかっている)

b. *ímfungúlo* *yaalí* *yaalúβa*

i-n-fungulo i-**a**-**li** i-**a**-luβ-**a**

9.key 9SM-PST-be 9SM-PST-get_lost-FV

panó *yaaβoneká* *βukúumo*

pano i-a-βon-ik-a βu-kuumo

but 9SM-PST-see-NEUT-FV 14NP-now (= (7-19b))

c. *ímfungúlo* *yaaluβilé*

i-n-fungulo i-**achi**-luβ-**a**

Aug-9NP-key 9SM-HOD.PST-get_lost-BF

panó *yaaβoneká* *βukúumo*

pano i-a-βon-ik-a βu-kuumo

but 9SM-PST-see-NEUT-FV 14NP-now

「カギはなくなったが，今はもう見つかっている」

このような近過去の完結相と完了相との混同は，Doke (1938) だけでなくアフリカ諸語についての古い研究で多く見られることがWelmers (1973) やNurse (2008) によってすでに指摘されている (Welmers 1973:348，Nurse 2008:95)。これは，完了相が完結相のようにふるまうことがあるからである。ランバ語においても，(7-45) では形式⑮と当日過去完結相の形式②，当日過去複合形式 (形式⑳) との間に明らかな違いが見られたが，形式⑮はときに当日過去の完結相と同じようにふるまうことがある。Doke (1938) の解釈に見られるような混同が起こったのもそ

[22] 本論文では形式⑮の TA 接辞 *a*-は形式①や③，㉑などに現れる過去を表す接辞 *a*-と同じものとみなしてグロスを振っている。これは形式①や③などの過去を表す際に用いられる TA 接辞 *a*-と完了相を表す際に用いられる TA 接辞 *a*-が異なる形態素であることを示す明確な根拠が見つけられていないことによる。例えば，形式⑮を成り立たせている TA 接辞 *a*-と語尾-*a* のうち，語尾-*a* によって完了相が表されている可能性も否定できない。この語尾-*a* が基本語尾であると断定することができないため，本論文では暫定的に FV (Final Vowel) としている。

のためだと考えられる。例えば，以下の (7-47) のように「いつ手紙を書いたのか」という問いに対する答えのような場合である。この場合，形式⑮が完結相である当日過去複合形式 (形式⑳) や形式②と同じように適切になることがある。(7-47a) が形式⑮を用いて答えた場合，(7-47b) と (7-47c) がそれぞれ当日過去の完結相である形式⑳と形式②を用いた答えである。

(7-46)	*ni*	*lúisa*	*mwalémbelé*	*iyínkaláta ?*	
	ni	lu-isa	mu-a-ø-lemb-ile	iyi	i-n-kalata
	COP	11SM-which	SM-PST-NUL-write-ANTF	9.DEM	Aug-9NP-letter

「あなたはいつこの手紙を書いたの？」

(7-47)	a.	*naalembá*		*ulúcheelo*
		n-**a**-lemb-**a**		u-lu-cheelo
		1sgSM-PST-write-FV		Aug-11NP-morning
	b.	*naalí*	*naalémba*	*ulúcheelo*
		n-**a-li**	n-**a**-lemb-**a**	u-lu-cheelo
		1sgSM-PST-be	1sgSM-PST-write-FV	Aug-11NP-morning
	c.	*naachilémba*		*ulúcheelo*
		n-**achi**-lemb-**a**		u-lu-cheelo
		1sgSM-HOD.PST-write-BF		Aug-11NP-morning

{(いつこの手紙を書いたのかという問いに対して}「今朝書いた」

(7-47) が示すように，動詞*lemb*「書く」の場合には，「今朝」であるにもかかわらず，当日過去を表す形式②や⑳だけでなく，完了相の形式⑮を用いることも可能である。

しかし*shaan*「踊る」では，「いつ」の質問に対して形式⑮を用いて答えると (7-49a) のように非文となる。この場合は (7-49b)，(7-49c) のように当日過去の完結相を表す形式のみが問いに対する答えとして適切となる。

(7-48)	*ni*	*lúisa*	*mwaashéene*	*ulúulwimbo ?*	
	ni	lu-isa	mu-a-ø-shaan-ile	ulu	u-lu-imbo
	COP	11SM-which	2plSM-PST-NUL-dance-ANTF	11.DEM	Aug-11NP-song

「あなたはいつこの曲を踊ったの？」

(7-49) a. * n-**a**-shaan-**a** u-lu-cheelo

1sgSM-PST-dance-FV Aug-11NP-morning

b. *naalí* *naasháana* *ulúcheelo*

n-**a**-**li** n-**a**-shaan-**a** u-lu-cheelo

1sgSM-PST-be 1sgSM-PST-dance-FV Aug-11NP-morning

c. *naachisháana* *ulúcheelo*

n-**achi**-shaan-**a** u-lu-cheelo

1sgSM-HOD.PST-dance-BF Aug-11NP-morning

{いつ踊ったのかという質問に対して}「今朝踊った」

ただし以下の (7-50) のように，汗をかいている状況が発話時現在にあり，踊ったことによってその状況に至っていることを示せば，*shaan*「踊る」を形式⑮と共起させても非文ではなくなる。これは，発話時に先行して行った「踊る」という行為が，発話時に汗をかいているという状況と関連性を持つからである。

(7-50) *naashaaná* *imííniti* *amákumi* *aβíli*

n-**a**-shaan-**a** i-ø-miiniti a-ma-kumi a-βili

1sgSM-ANT-dance-FV Aug-5NP1-minute Aug-6NP-ten 6SM-two

nee *tukutá* *liléépona*

ne ø-tukuta li-ø-lee-pon-a

CONJ 5NP1-sweat 5SM-PRS-IMPFV1-drop-BF

「20分間踊ったから，汗をかいているんだよ。」

「手紙を書く」という行為には，「書く」という行為による「手紙」が副産物として残り，それによって「手紙を書いた」という発話時に先行して起こった出来事を発話時に関連付けることができる。一方で「踊る」という行為においてそういった副産物は認識しにくい。そこで (7-50) のような特別に文脈が必要となる。(7-47) において形式⑮が「いつ当該の行為をしたのか」という問いに対する答えとして完結相の形式と同じように用いることができたのは，その動詞によって表された行為が発話時との関連性を認識しやすかったからに過ぎない。したがって形式⑮は，あくまで完了相であり，完結相とは区別されるべきである。Bybee et al. (1994) は，

完了相を表す形式が先行して起こった出来事と何の関連性もない単なる過去を表すようになることがあると指摘しているが (Bybee et al. 1994:81-83)，少なくともランバ語の形式⑮においてはこの指摘はあてはまらない。

7.4.2. 完了相を表す 2 つの形式の違い

Doke (1922，1938) でPresent Perfectとされている TA接辞*li-*と語尾*-ile*によって表される形式⑯も，形式⑮と同様に完了相である。(7-45) で示した形式⑮の場合と同様に，カギがなくなったことを形式⑯で表すと，「でも (カギは) 今はもう見つかっている」という文を後続させられなくなる。つまり形式⑮と同様，形式⑯によって表されるカギがなくなった状態は，発話時まで続いているということになる。

(7-51)	* i-n-fungulo	i-**ø**-**li**-luβ-**ile**	
	Aug-9NP-key	9SM-PRS-ANT-get_lost-ANTF	
	u-ku-fum-a	uyu	u-mu-lungu
	Aug-15NP-come_from-BF	3.DEM	Aug-3NP-week
	pano	i-a-βon-ik-a	βu-kuumo
	but	9SM-PST-see-NEUT-FV	14NP-now

(int. カギは先週からなかったが，今はもう見つかっている)

しかしながら形式⑮と形式⑯には，次のような違いが見られる。まず形式⑯には，単なる状態を表す用法がある。(7-52) では形式⑯によって単に友人が結婚していることが表されている。一方 (7-53) の形式⑮が表すのは，友人がいつ結婚したのかである。つまり形式⑮が表すのは未婚から既婚への変化である。形式⑮が状態変化を表す傾向にあるのに対して，形式⑯は状態変化よりも状態が継続していることを表す傾向にあると言える。

(7-52)	*ichíβusa*	*chanji*	*chilyúúpilwe*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-**li**-up-u-**ile**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-ANT-marry_a_woman-PASS-ANTF

「私の友人 (女性) は結婚している」

(7-53)	*ichíβusa*	*chanji*	*chaaupwá*	*leelo*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-up-u-**a**	leelo
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-marry_a_woman-PASS-FV	today

{友人 (女性) がいつ結婚したのかと聞かれて}「私の友人は今日結婚した」

また形式⑮と形式⑯では，出来事が先行して起こった点 (先行点) と参照点との距離の長さにも違いが現れる。

(7-54) a.	*ifí*	*ifíseepo*	*fyáapya*	*ulúcheelo*	*leelo*
	ifi	i-fi-seepo	fi-**a**-pi-**a**	u-lu-cheelo	leelo
	8.DEM	Aug-8NP-fruit	8SM-PST-ripe-FV	Aug-11NP-morning	today

「これらの果物は今朝熟した」

b.	*ifi*	*ifíseepo*	*filipiilé*	
	ifi	i-fi-seepo	fi-**ø**-**li**-pi-**ile**	
	8.DEM	Aug-8NP-fruit	8SM-PRS-ANT-ripe-ANTF	
	ukufumá		*uyú*	*umulúngu*
	uku-fum-a		uyu	u-mu-lungu
	INF-come_from-BF		3.DEM	Aug-3NP-week

「これらの果物は先週から熟している」

(7-54) は，どちらも果物が熟していることを表す文である。(7-54a) では形式⑮が用いられており，(7-54b) では形式⑯が用いられている。ともに参照点は発話時にあるが，発話時に先行して「熟す」という出来事の起こった時点が (7-54a) では「今朝」であるのに対し，(7-54b) では「先週」あるいは先週よりも前のある時点となっている。(7-54a) において形式⑮の代わりに形式⑯を用いると非文となり，(7-54b) は形式⑯の代わりに形式⑮を用いると非文となる。

以下の*katal*「疲れる」では，その日の朝の出来事のせいで疲れた状態にあることを表す場合，(7-55a) のように形式⑮によって表される。しかし (7-55b) のように形式⑮の代わりに形式⑯を用いると，許容度が著しく下がる。(7-56) のように変化点が一昨日であるなど，継続時間がある程度長くなければ形式⑯は許容されない。

(7-55) a. *náákatala* *pakúti*

n-**a**-katal-**a** pakuti

1sgSM-PST-get_tired-FV because

naachipyúnga makosá *leeló* *ulúcheelo*

n-**achi**-pyung-**a** ma-kosa leelo u-lu-cheelo

1sgSM-HOD.PST-sweep-BF 6NP-strength today Aug-11NP-morning

b. ??*ndíkateele* *pakúti*

n-**ø**-**li**-katal-**ile** pakuti

1sgSM-PRS-ANT-get_tired-ANTF because

naachipyúunga *makosá* *leeló* *ulúcheelo*

n-**achi**-pyung-**a** ma-kosa leelo u-lu-cheelo

1sgSM-HOD.PST-sweep-BF 6NP-strength today Aug-11NP-morning

「私は今朝一生懸命働いたので疲れている」

(7-56) *ndíkateele* *ukufumá*

n-**ø**-**li**-katal-**ile** u-ku-fum-a

1sgSM-PRS-ANT-get_tired-ANTF Aug-15NP-come_from-BF

masóoshi

masooshi

the_day_before_yesterday

「私は一昨日から疲れている」

つまり，形式⑮と形式⑯を比べると，形式⑯は先行点から参照点までの距離がより長い場合にしか用いることができないということである。形式⑮と形式⑯の違いは以下のようにまとめられる。

形式⑮：先行して起こった出来事によって変化が起こったことに重きを置く。単なる状態を表す用法はない。

形式⑯：先行して起こった出来事によって引き起こされた出来事の結果が継続していることに重きを置いており，形式⑮と比べると先行点と発話時との距離が長い。単なる状態を表す用法もある。

7.4.3. 完了相と叙述類型

7.4.3.1. ø-形式と形式⑯との補完性

ランバ語には，TA接辞ø-と完了語尾-*ile*によって状態を表す形式がある。これは先行研究では報告されておらず，筆者が初めて動詞のパラダイムに導入する形式である。この形式をø-形式と呼ぶことにする。(7-57) においてø形式が表しているのは，「服が乾いている」という一時的な状態であるが，(7-58) においてø形式が表しているのは，「砂漠が乾いている」という恒常的な状態である。

(7-57) *iláaya* *lyúúmine*
i-ø-laaya li-**ø**-um-**ile**
Aug-5NP1-dress 5SM-PRS-get_dry-ANTF
「(その) 服は乾いている」

(7-58) *ímpata* *yúumíne*
i-n-pata i-**ø**-um-**ile**
Aug-9NP-desert 9SM-PRS-get_dry-ANTF
「砂漠は乾いている」

このように，ø-形式は一時的な状態でも，恒常的な状態でも表すことができる。

状態を表す用法は，(7-52) にも挙げたように形式⑯も持っている。しかしø-形式と形式⑯には以下の (7-59) に示すように変化点の有無による違いがある。例えば，砂漠が「去年から乾いている」のように発話時よりも前に砂漠の乾き具合が変化した時点があることが含意されると，以下の (7-59a) のようにø-形式は非文となる。この場合，(7-59b) のようにø-形式の代わりに形式⑯を用いれば文脈に適合する。

(7-59) a. * iyi i-n-pata i-**ø**-um-**ile**
9.DEM Aug-9NP-desert 9SM-PRS-get_dry-ANTF
u-ku-fum-a uyu u-mu-aka
Aug-15NP-come_from-BF 3.DEM Aug-3NP-year

b. *iyí* *ímpata* *ilyúúmine*
iyi i-n-pata i-**ø**-**li**-um-**ile**
9.DEM Aug-9NP-desert 9SM-PRS-ANT-get_dry-ANTF

ukufumá	*uyú*	*úmwaka*
u-ku-fum-a	uyu	u-mu-aka
Aug-15NP-come_from-BF	3.DEM	Aug-3NP-year

「この砂漠は去年から乾いている」

(7-59b) が示しているのは, ø-形式は発話時の前に変化があることを含意できない形式だということである。つまりø-形式が表すのは単なる状態に過ぎない。

以下の例は「服が乾いている」ことを表す文であるが，その「服」に「発話の前日に外に干した」ものであるという情報が追加されている場合に,「服が乾いている」ことがø-形式によって表されると,「もともと乾いている状態の服を外に干した」ことになり, 不自然な発話となる。つまり,「砂漠が乾いている」という恒常的な状態を表す場合だけでなく，ø-形式によって「服が乾いている」という一時的な状態を表す場合であっても, 変化点を含意することはできない。

(7-60)	? *iláaya*	*íli*	*naaníkile*	*mukásuβa*	*maílo*
	i-ø-laaya	ili	n-a-ø-anik-ile	mu-ka-suβa	mailo
	Aug-5NP1-dress	5.DEM	1sgSM-PST-NUL-hang-ANTF	18NP-12NP-sun	yesterday
	lyúumíne				
	li-**ø**-um-**ile**				
	5SM-PRS-get_dried-ANTF				

「私が昨日外に干した (もともと乾いている状態の) 服は，乾いている」

ø-形式は状態を表す形式であるため，(7-61) の*pend*「読む」のような動作性の高い動詞とは共起できない。

(7-61)	* i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-pend-**ile**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-read-ANTF
	ili	i-ø-buuku	
	5.DEM	Aug-5NP1-book	

(int. 私の友人はこの本を読んでいる)

cf.	*ichíβusa*	*chanji*	*chileependá*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-**lee**-pend-**a**
	7.friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-IMPFV1-read-BF
	ilí	*ibúuku*	
	ili	i-ø-buuku	
	5.DEM	Aug-5NP1-book	

「私の友人はこの本を読んでいる」(=(7-33b))

pend「読む」のような動作を表す動詞だけでなく，例えば「座っている」や「寝ている」など，動作の結果であると思われる状態を表す場合にもø-形式は共起できない。この場合には，(7-62b)，(7-63b) ように完了相で単なる状態を表す形式⑯を用いることになる。

(7-62)	a. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-ikal-**ile**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-sit-ANTF
	b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chilíikeele*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-**li**-ikal-**ile**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-ANT-sit-ANTF

「私の友人は座っている」

(7-63)	a. *	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**ø**-laal-**ile**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-fall_sleep-ANTF
	b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chilíleele*
		i-chi-βusa	chi-anji	chi-**li**-laal-**ile**
		Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PRS-ANT-fall_sleep-ANTF

「私の友人は寝ている」

ただし動作の結果起こったわけではない状態を表す場合でも，ø-形式を用いることができない場合がある。

(7-64)	*	i-chi-a	ku-nu-il-a-mo	u-βu-alwa
		Aug-7SM-CONN	15NP-drink-APPL-BF-18LOC	Aug-14NP-alcohol

chi-**ø**-palamin-**ile** ne n-ganda i-anji

7SM-PRS-approach-ANTF CONJ 9NP-house 9SM-1sgPOSS

(int. (その) バーは私の家と近い)

cf. * i-chi-βusa chi-anji chi-**ø**-n-palamin-**ile**

Aug-7NP-friend 7SM-1sgPOSS 7SM-PRS-1sgOM-approach-ANTF

(int. 私の友人が私に近付いている)

さて，ø-形式が相容れない場合には，(7-65) が示すように形式⑯を用いなければならない。ø-形式が相容れない動詞に共通する性質についてはまだ検討の余地はあるが，(7-62b) や (7-63b)，(7-64) から言えることは，形式⑯が状態を表すのは，ø-形式と相容れない動詞と共起した場合だということである。つまり，形式⑯は，ø-形式の補完として状態を表しているということになる。

(7-65) *íchaakúnwinamó* *uβwálwa*

i-chi-a ku-nu-il-a-mo u-βu-alwa

Aug-7SM-CONN 15NP-drink-APPL-BF-18LOC Aug-14NP-alcohol

chilipalamiiné *né* *ng'anda* *yanji*

chi-**ø**-**li**-palamin-**ile** ne n-ganda i-anji

7SM-PRS-ANT-approach-ANTF CONJ 9NP-house 9SM-1sgPOSS

「(その) バーは私の家と近い」

形式⑯の状態を表す用法を見ると，Bybee et al. (1994:74-76) の言う「完了相を表す形式が状態変化の完結を表さず，単なる状態を表すようになる」現象がランバ語にも起こっていると考えられる。これは日本語の完了相[23]「テイル」が「先行の運動性の切り捨て」を起こし「先行の運動性を前提としないもともとの状態」を表すようになる現象 (工藤 1995:125) とも関連する。つまり，形式⑯は必ずしも先行して起こった出来事を含意しないということである。これは同じく完了相を表す形式⑮にはない用法である。このような用法を形式⑯だけが持っていることは，7.4.2で述べたように出来事が起きた時点から発話時までの距離が長い場合に形式⑯が用い

[23] 工藤 (1995) では「テイル」は完了相ではなく「パーフェクト相」と呼ばれている。

られることと無関係ではないと思われる。つまり，その距離が短い形式⑮では単なる状態を表すことはできないが，その距離が長い形式⑯は，その長さゆえに先行して起こった出来事についての情報が切り捨てられ，状態のみを表すことができるのである。

7.4.3.1で述べたように，ø-形式は「砂漠が乾いている」のように恒常的な状態を表すことができる。

(7-66) *ímpata* *yúumíne*
i-n-pata i-ø-um-ile
Aug-9NP-desert 9SM-PRS-get_dry-ANTF
「砂漠は乾いている」(= (7-58))

形式⑯も，(7-63) の「座っている」や (7-64) の「寝ている」のような一時的な状態だけでなく，以下のように時間の影響を受けにくい恒常的な性質も表す。

(7-67) a. *alipalilé* *ßáátaata*
a-**ø**-**li**-pal-**ile** ßa-taata
3sgSM-PRS-ANT-resemble-ANTF 2NP-his/their_father
「その人は自分の父親に似ている」

(7-68) *íchaakúnwinamo* *ußwálwa*
i-chi-a ku-nu-il-a-mo u-ßu-alwa
Aug-7SM-CONN 15NP-drink-APPL-BF-18LOC Aug-14NP-alcohol
chilipalamiiné *né* *ng'anda* *yanji*
chi-**ø**-**li**-palamin-**ile** ne n-ganda i-anji
7SM-PRS-ANT-approach-ANTF CONJ 9NP-house 9SM-1sgPOSS
「(その) バーは私の家と近い」(= (7-65))

(7-67) は*pal*「似る」が形式⑯と共起した例である。ある人が別の誰かと似ているというのはその人の性質であり，恒常的だと言える。(7-68) は形式⑯が*palamin*「近づく」と共起した例であり，物を主語にとることで，ある物が別のある物の近くに位置していることを表す。これも時

間の影響を受けにくい恒常的な性質だと言える。*pal*「似る」も*palamin*「近づく」もø-形式とは相いれない動詞である。つまり，ø-形式の恒常的な状態を表す用法も，形式⑯は補完することができるということである。

7.4.3.2. 完了相が表す属性叙述

例えば,「私の友人は公園を走っている」は時間の経過とともに成立しなくなる出来事であるが,「日本は島国である」は時間の経過による影響を受けず常に成立する。叙述類型論では，前者のテンスやアスペクトに依存した出来事の叙述を事象叙述と言い，後者のテンスとアスペクトどちらの情報も持たない叙述を属性叙述と言う (cf. 益岡 2008)。ø-形式や形式⑯が持つ表す恒常的な状態を表す用法は，言い換えれば属性叙述の用法だということになる。事象叙述は，特定の時空間に実現するという特徴を持っているため，事象叙述にはテンス・アスペクトが深く関与する (cf. 益岡 2008:5)。そのため，ランバ語においてもTA形式は原則として事象叙述を表すことになると言えるが，形式⑯は，TA形式でありながら属性叙述を表す機能も持っているということになる。

7.4.2において，同じ完了相を表す形式でも，形式⑯には先行点を含意しない単なる状態を表す用法があるのに対して形式⑮にはそれがないことを述べた (cf. (7-52), (7-53))。属性表現の機能に関しても，形式⑮と形式⑯には相違点がある。以下の (7-69) は，*ishiβ*「知る」が後ろに不定詞をとった例である。(7-69a) は形式⑯，(7-69b) は形式⑮と共起した例である。(7-69a) では形式⑯によって太鼓を叩く能力があることが表されており，これは属性の中でも単純所有属性 (益岡 2008:6-8) に該当すると考えられる。一方で形式⑮が表すのは (7-69b) のように修得した瞬間，つまり変化であり，属性ではない。

(7-69) a.	*ichíβusa*	*chanji*	*chilíishi*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-ø-**li**-ishiβ-**ile**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-BE-know-ANTF
	ukulishá	*íngoma*	
	u-ku-lishi-a	i-n-goma	
	Aug-15NP-play-BF	Aug-10NP-drum	

「私の友人は太鼓を叩くことができる」

b.	*ichíβusa*	*chanji*	*chaaishiβá*
	i-chi-βusa	chi-anji	chi-**a**-ishiβ-**a**
	Aug-7NP-friend	7SM-1sgPOSS	7SM-PST-know-FV
	ukulishá	*íngoma*	*leelo*
	u-ku-lishi-a	i-n-goma	leelo
	Aug-15NP--play-BF	Aug-10NP-drum	today

「私の友人は今日太鼓を叩けるようになった」

以下の (7-70a) の形式⑯が表しているのは経験の用法である。「たくさんの本を書いている」ということは「本を書く」という過去の出来事を複数履歴として所有していることを表しており，これによってその人物が作家であるといった属性を持つことが類推できる。これは「履歴属性」(益岡 2008:6-8) と解釈できる。一方 (7-70b) で示しているように形式⑮にこの用法はない。いずれの場合においても，完了相の中でも，先行して出来事が起こった点と発話時までの距離が長いことを表す形式⑯のみが属性を表すことができる。

(7-70) a.	*índume*	*yanji*	*ililembelé*	*amabúuku*
	i-n-lume	i-anji	i-**ø**-**li**-lemb-**ile**	a-ma-buuku
	Aug-9NP-brother	9.1sgPOSS	9SM-PRS-BE-write-ANTF	Aug-6NP-book
	aa	*kúti*	*úbwingi*	
	a-a	ku-ti	u-βu-ingi	
	6SM-CONN	15NP-COMP	Aug-14NP-numerousness	
	ukufiká	*βukúumo*		
	u-ku-fik-a	βu-kuumo		
	Aug-15NP-arrive-BF	14NP-now		

「私の弟は今までにたくさんの本を書いている」

b. *	i-n-lume	i-anji	i-**a**-lemb-**a**	a-ma-buuku
	Aug-9NP-brother	9-1sgPOSS	9SM-PST-write-FV	Aug-6NP-book
	a-a	ku-ti	u-βu-ingi	
	6SM-CONN	15NP-COMP	Aug-14NP-numerousness	
	u-ku-fik-a	βu-kuumo		
	Aug-15NP-arrive-BF	14NP-now		

7.5. 再検討のまとめ

以上，Doke (1922，1938)，Bickmore (1995)，湯川 (1995) といった先行研究で報告されているTA形式を，筆者が収集した最新のデータに照らし合わせながら検討してきた。これらをまとめると，ランバ語のTA体系は以下の表7-15のようになる。縦にはテンス，横にはアスペクトを並べている。

表7-15：ランバ語のTA体系

	完結相 (Perfective)	非完結相 (Imperfective) *li u-ku-/ lee-*	持続相 (Persistive) *chi-*	完了相 (Anterior)
昨日以前の過去 *a-*	①SM-**a-li-VR-ile**	㉑SM-**a-li u-ku-VR-a** ○③SM-**a-lee-VR-a** *㉒SM-**a-li u-ku-VR-ile**	●㊳SM-**a-li SM-chi-VR-a** ●㊴SM-**a-li SM-chi-VR-ile**	
当日過去 *achi-*	⑳SM-**a-li SM-a-VR-a** ○②SM-**achi-VR-a**	●④SM-**achi-laa-VR-a**		⑮SM-**a-VR-a**
現在 *ø-*	⑤SM-**la-VR-a**	㉓SM-**ø-li u-ku-VR-a** ○⑥SM-**ø-lee-VR-a** *㉔SM-**ø-li u-ku-VR-ile**	⑦SM-**ø-chi-VR-a** ⑧SM-**ø-chi-VR-ile**	⑯SM-**ø-li-VR-ile** ●㊵SM-**ø-VR-ile**
当日未来 *aku-*	⑨SM-**aku-VR-a**	㉕SM-**aku-li u-ku-VR-a** ○⑩SM-**aku-lee-VR-a** ㉖SM-**aku-li u-ku-VR-ile** ●⑪SM-**aku-lee-VR-ile**	*㉙SM-**aku-li u-ku-chi-VR-a** *㉚SM-**aku-li u-ku-chi-VR-ile**	
明日以降の未来 *ka-*	⑫SM-**ka-VR-a**	㉗SM-**ka-li u-ku-VR-a** ○⑬SM-**ka-lee-VR-a** ㉘SM-**ka-li u-ku-VR-ile** ●⑭SM-**ka-lee-VR-ile**	*㉛SM-**ka-li u-ku-chi-VR-a** *㉜SM-**ka-li u-ku-chi-VR-ile**	

○をつけている形式は，Doke (1922，1938) では報告がなかったがBickmore (1995)，湯川 (1995) で報告のあった形式である。これに該当する形式②と，TA接辞に*lee*-あるいは*laa*-が現れる非完結相の形式は，この地域の有力言語であるベンバ語に早い段階から観察されている形式である (cf. Sharman 1955)。以下にベンバ語の例をGivon (1972) からの引用で示す。

(7-71)　ba-**àcí**-bomba

「その人たちは (今日の早いうちに) 働いた」

(Givón 1972:175，表記はすべて原文ママ[24]。以下同様)

(7-72)　ba-**àcíláá**-bomba

「その人たちは (今日の早いうちに) 働いていた」(Givón 1972:175)

(7-73)　ba-**áléé**-bomba

「その人たちは (昨日) 働いていた」(Givón 1972:175)

ベンバ語は，ザンビア北西部の主要言語で，ランバ語と同じバントゥ諸語である。ランバ語が話されている中部においても有力言語であり，ランバ語ではなくベンバ語を優先的に話している話者も多い。また第1章で述べたように，ランバ語がベンバ語の方言と位置付けられるほど (cf. Kashoki 1978)，ランバ語とベンバ語は類似している。したがって，ベンバ語が語彙や文法においてランバ語に大きな影響を与えていることは十分に考えられる。○がついた形式，すなわちDoke (1922，1938) で報告がなかった形式は，最近になってベンバ語から借用された形式である可能性が高い。Doke (1922，1938) では報告されているものの筆者の調査で非文になった形式は「*」で示している。また，表の中で●をつけている形式は，筆者の調査によって初めて見つかった形式である。ランバ語のTA体系において，通時的な変化が起こっていると言える。

ランバ語のテンスは，過去，現在，未来の3つであり，そのうち過去と未来は，それぞれ発話当日と昨日以前，発話当日と翌日以降の2つに時間が区分される。本論文では，Doke (1922，1938) において示されていなかった時間区分の境界を明らかにしたことに加えて，Doke (1922，1938) が「歴史的過去 (Historic Past)」と呼び過去テンスとして扱っていたものが，過去の時間区分とは無関係な依存テンスであることも7.2.3において示した。

[24] 本論文においてランバ語の無声硬口蓋摩擦音は *ch* と表記しているが，Givón (1972) がベンバ語において無声硬口蓋摩擦音の表記として用いているのは *c* である (Givón 1972:3)。

アスペクトの解釈や用語法においても，Doke (1922，1938) には次のような問題点が見られた。まずDoke (1922，1938) が「進行相 (Progressive)」と呼んでいた形式⑦，⑧が表す現象についてである。これらの形式が表す意味から，通バントゥ的には持続相 (Persistive) と呼ぶのが適切であることを指摘した (cf. Nurse 2008:136)。さらに，Doke (1922，1938) において解釈が一貫していなかった“Perfect”が指す現象をComrie (1977) やNurse (2007，2008) に基づいて解釈し直した。その結果，Doke (1922，1938) においては完結相 (Perfective) と完了相 (Anterior) の混同が見られることが判明した。例えば形式⑮は，Doke (1922，1938) では近過去の完結相として扱われていたが，これは7.4.1で示したように完了相として扱われるべき形式である。完了相を表す形式にはほかにも形式⑯があり，両形式の違いについても7.4.2で明らかにした。再検討の結果，ランバ語に見られるアスペクトは，完結相，非完結相，持続相，完了相の4つである。

また，筆者は新たなTA形式としてø-形式をランバ語のTA体系に導入した。ø-形式は，完了相の形式のひとつである形式⑯と機能が似ていることや，形式⑯と補完性があることから，便宜的に「完了相」の欄に入れている。しかしながら7.4.3.1の (7-59)，(7-60) に示したように，ø-形式は完了相の持つアスペクト情報を持つことはできない。むしろ (7-59)，(7-60) が示しているのは，ø-形式が時間性から独立した出来事を表しているということである。同じ用法は形式⑯にもある。そこで，7.4.3.2において，ある出来事が特定の時空間でなければ成り立たないものなのか，あるいはその逆で時間の流れに左右されることなく成立するものなのかという叙述類型論 (cf. 益岡 (2008) など) の観点を取り入れた。ø-形式や形式⑯は，時間の流れに左右されることなく成立する出来事を表しており，これは叙述類型における属性叙述である。形式⑮も同じく完了相であるが，形式⑮には属性を表す用法はない。形式⑮が主に表すのは変化であり，出来事が発話時に先行して起こったというアスペクトに関する情報を放棄することはできない。一方で，形式⑯は必ずしも先行して起こった出来事を含意せず，単なる状態を表すこともある。形式⑯が表す状態には，ø-形式と同じように恒常的なものが含まれており，これが属性叙述の解釈を可能としている。形式⑮も形式⑯も同じ完了相を表す形式であるのに，形式⑯にのみ属性を表す用法があるのは，形式⑯が形式⑮と比べて発話時に先行して出来事が起こった時点と参照点との距離がより長い場合に用いられることに起因していると考えられるが，これについては改めて詳細な議論が必要である。

第 8 章 まとめと今後の課題

本論文では, まずランバ語の社会言語学的背景や文法的な概要を第 1 章で示したのちに, 現地調査で得たデータを用いて，第 2 章から第 6 章においてランバ語の文法について全体的な記述を行った。第 7 章ではランバ語の TA 体系についての再検討を行った。

第 2 章では，ランバ語の音韻について述べた。ランバ語の母音は i，e，a，o，u の 5 母音体系で，それぞれに長短の対立がある。子音は/p，t，k，g，β，f，s，l，m，n，w，j/の 12 個である。音節の構造は (N)(C)(G)V である。子音あるいは母音が連続することによって起きる現象もこの章で述べた。

第 3 章では，名詞，名詞修飾語について述べた。名詞は，冒頭母音，名詞接頭辞，語幹からなる。ほかのバントゥ諸語と同じようにランバ語にも名詞クラスが存在し，それに応じて名詞修飾語の接頭辞が異なる。名詞修飾語の接頭辞のとり方には 2 パターンあり，形容詞とそれ以外の名詞修飾語とで異なっている。名詞，名詞修飾語は文修飾要素として機能することもあるため，文修飾要素についてもこの章で述べた。

第 4 章では，動詞について述べた。動詞は，動詞語根に接辞が膠着して構成される。膠着性の高いこの動詞の構造は，名詞クラスと並んでバントゥ諸語の最大の特徴のうちのひとつである。動詞語根の前に入る要素は, 前方から順に, 前主語接辞, 主語接辞, TA 接辞, 目的語接辞である。これらのうち主語接辞と TA 接辞は直説法において必須要素である。動詞語根の後ろに入る要素は，順に派生接辞，語尾であり，派生接辞は任意である。主語接辞，目的語接辞について述べたのち，派生接辞について述べた。TA 接辞と語尾は活用に関わる要素であり，それぞれの組み合わせによって表される TA 形式についてもここで羅列した。また命令法や接続法など，そのほかの形式についてもここで述べた。

第 5 章で扱ったのは，動詞を用いない文である。動詞を用いない場合，名詞あるいは名詞修飾語の語形変化か，あるいはコピュラ *ni* によって述部であることが表される。主語が人称の場合や，テンスが現在以外の場合はコピュラ動詞 *li* あるいは *βa* が用いられる。

第 6 章では，語順と情報構造について述べた。基本的な語順は主語，動詞，目的語である。しかしながら主語に焦点が当たる場合は異なる。目的語が焦点である場合は基本語順でも問題ないが，主語に焦点が当たる場合は基本語順でなく，分裂文を用いなければならない。これには，主語の持つ主題性の高さが関わっていると考えられる。

第 7 章では，ランバ語の TA について，Doke (1922，1938) の問題点をあぶり出しながら再検討を行った。Doke (1938) は用語の使い方が独特で，TA 体系の理解を妨ぎかねない状態だった。そこで本論文では Comrie (1977) や Dahl (1985), Bybee et al. (1994), Nurse (2007, 2008) による定義にもとづき TA 解釈の再検討を行った。また，すでに使われなくなった形式や，地域共通語であるベンバ語から借用したと思われる新たな形式が存在していることなど，筆者の現地調査で新たに明らかになった事実も反映させながら，ランバ語の新たな TA 体系の提案を行った。

ランバ語のテンスは，過去，現在，未来の 3 つであり，そのうち過去と未来は，それぞれ発話当日と昨日以前, 発話当日と翌日以降に時間区分が 2 分割される。アスペクトには，完結相 (Perfective)，非完結相 (Imperfective)，持続相 (Persistive)，完了相(Anterior) が見られる。筆者が新たに TA 体系に追加した ø-形式は，完了相の形式のひとつである形式⑯と機能が似ていることや，形式⑯と補完性があることから，便宜的に「完了相」と同じ扱いをした。しかしながら，すでに示しているように，ø-形式は完了相の持つアスペクト情報を持つことはできない。むしろ，ø-形式は時間性から独立した出来事を表している。同じ用法は形式⑯にもある。そこで，ある出来事が特定の時空間でなければ成り立たないものなのか，あるいはその逆で時間の流れに左右されることなく成立するものなのかという叙述類型論 (cf. 益岡 (2008) など) の観点を導入して論を展開したが，今後さらなる議論が必要である。

本論文では TA を中心に Doke (1922，1938) による問題点をあぶり出し，再解釈を行ったが，第 2 章から第 6 章においても Doke (1922，1938) に見られる問題のある記述を必要に応じて指摘してきた。しかしながら，Doke (1922，1938) が記述されてからすでに 100 年近く経過していることや，当該地域ではランバ語の話者も日常的には地域共通語のベンバ語を主に話すことから，通時的な変化やベンバ語からの影響が見られる可能性がある。今後は，ランバ語の文法全体について Doke (1922，1938) を再解釈していく必要があると思われる。

記号，略号一覧

sg: singular	pl: plural
NP: Noun Prefix	INF: Infinitive
POSS: Possessive	CONN: Connective
DEM: Demonstrative	
SM: Subject Marker	OM: Object Marker
REFL: Reflexive	VR: Verb Root
APPL: Applicative	CAUS1: Causative1
CAUS2: Causative2	NEUT: Neuter
RECI: Reciprocal	PASS: Passive
CONV: Conversive	
LOC: Locative Enclitic	
FUT: Future	REM.FUT: Remote (Post-Hodiernal) Future
HOD.FUT: Hodiernal Future	HOD.PST: Hodiernal Past
PST: Past	NAR: Narrative
PRS: Present	NUL: null
PES: Persistive	ANT: Anterior
IMPFV1: Imperfective	IMPFV2: Imperfective2
BF: Basic Final	FV: Final Vowel
ANTF: Anterior Final	
PRED: Predicative	COP: Copula
CLF: Cleft	

引用文献

梶茂樹. 1984. 「テンボ語動詞の形態論的構造」『アジア・アフリカ言語文化研究』28, 別刷.

澤田治美. 2009. 『モダリティ』東京：開拓社.

清水紀佳. 1988. 「アフリカの諸言語」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編)『世界言語学大辞典』第一巻，東京：三省堂. pp.237-439.

工藤真由美 1995. 『アスペクト・テンス体系とテクスト - 現代日本語の時間の表現』東京：ひつじ書房.

牧野友香. 2019. 「ランバ語のテンス・アスペクト体系の再検討」『スワヒリ＆アフリカ研究』30, 14-32.

益岡隆志. 2008.「叙述類型論に向けて」益岡隆志 (2008) (編)『叙述類型論』東京：くろしお出版. pp.3-18.

湯川恭敏. 1992. 「ランバ語」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典』第一巻，東京：三省堂. pp.720-722.

———— 1995. 「ランバ語」『バントゥ諸語動詞アクセントの研究』東京：ひつじ書房. pp.140-157.

Bickmore, Lee, S. 1995. "Tone and Stress in Lamba" *Phonology*, 12, 307-341.

Bybee, Joan and Revere Perkins, William Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar: tense, aspect, and modality in the languages of the world.* Chicago: University of Chicago Press.

Comrie, Barnard. 1977. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.

———— 1985. *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dahl, Östen. 1985. *Tense and Aspect Systems.* New York: Basil Blackwell.

Doke, Clement, M. 1922. *The Grammar of the Lamba Language.* London: Kegan Paul, Trench, Trubner & Co., Ltd.

———— 1927a. *Text-book of Zulu Grammar*. :London Longmans, Green & Co. Ltd.

———— 1927b. "A study in Lamba Phonetics". *Bantu Studies*, 3(1), 5-47.

———— 1938. *Textbook of Lamba Grammar.* Johannesburg: Witwatersrand University Press.

———— 1954. *The Southern Bantu Languages.* London; New York: Oxford University Press.

———— 1959. *Amasiwi AŵaLesa* (The Words of God). Lusaka: Bible Society in Zambia.

———— 1963. *English-Lamba Vocabulary.* Johannesburg: Witwatersrand University Press.

———— & S. M. Mofokeng. 1957. *Textbook of Southern Sotho Grammar.* London: Longmans, Green & Co.

Eberhard, David M., Gary F. Simons and Charles D. Fennig. eds. 2019. *Ethnologue: Languages of the World. Twenty-second edition.* Dallas, Texas: SIL International. Online version: http://www.ethnologue.com (2019年5月8日閲覧).

Givón, Talmy. 1972. Studies in Chibemba and Bantu Grammar. *Studies in African Linguistics,* Supplement 3.

Guthrie, Malcolm. 1967. *The Classification of the Bantu Languages*. London: Dawsons of Pall Mall.

Kashoki, Mubanga, E. 1978. 'The language situation in Zambia' In: Ohanessian, Sirarpi and M.E. Kashoki. eds. *Language in Zambia*. London: International African Institute. pp.9-46.

Marten, Lutz and Nancy C. Kula. 2008. 'Zambia 'One Zambia, One Nation, Many Languages'' In: Simpson, Andrew. eds. *Language and National Identity in Africa.* Oxford: Oxford University Press. pp.291-313.

Meeussen, A. E. 1967. Bantu Grammatical Reconstructions. *Africana Linguistica,* 3, 79-121.

Meinhof, Carl. 1913. Dissimilation der Nasalverbindunge im Bantu. Zeitschrift fur Kolonialsprechen, 3, 272-278.

Nurse, Derek. 2007. The Emergence of Tense in Early Bantu. In *Selected Proceedings of the 37th Annual Conference on African Linguistics*. eds. Doris L. Payne and Jaime Peña, Somerville, MA: Cascadilla Proceedings Project, 164-179.

——————— 2008. *Tense and Aspect in Bantu*. Oxford; New York: Oxford University Press.

Palmer, F. R. 2001. *Mood and Modality*. Cambridge: Cambridge University Press.

Sharman, John, C. 1955. "The tabulation of tenses in a Bantu language (Bemba: Northern Rhodesia)" *Africa*, 26, 29-46.

Welmers, William, E. 1973. *African language structures.* Berkeley: University of California Press.